專修科目	珠算、簿記、速記、タイプライチング、英語、園藝、養蠶、農產加工、手藝、洗染、割烹等
計	八〇
	一〇〇

各科ノ教授及訓練科目ハ適宜分合シテ之ヲ授クルコトアルヘシ

第四章　教授及訓練ノ季節竝ニ時刻

第六條　普通科、本科、研究科ノ年ヲ分チテ左ノ三期トス

第一期　自四月一日　至八月三十一日

第二期　自九月一日　至十二月三十一日

第三期　自一月一日　至三月三十一日

第七條　普通科、本科及研究科教授及訓練ノ季節竝ニ時刻左ノ如シ

季節（期）	日時刻	教授及訓練日	教授訓練始終ノ時刻
自月日至月日（第一期）	毎週何々曜日（毎月何々日）	自午前（後）何時　至午前（後）何時	
自月日至月日（第二期）	毎週何々曜日（毎月何々日）	自午前（後）何時　至午前（後）何時	
自月日至月日（第三期）	毎週何々曜日（毎月何々日）	自午前（後）何時　至午前（後）何時	

教授及訓練ノ季節及時刻ハ學校長ニ於テ必要ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトアルヘシ

第八條　專修科ノ教授及訓練ノ季節及時刻ハ學校長之ヲ定ム

第五章　式日及休業日

第九條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員生徒學校ニ參集シテ式ヲ行フ

第十條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　祝日、大祭日

二　鎭守祭日（何月何日）

三　日曜日

四　夏季休業日　自八月一日　至八月三十一日

五　冬季休業日　自十二月二十五日　至一月七日

六　春季休業日　自三月二十六日　至三月三十一日

學校長ハ必要ニ應シ休業日ト雖教授及訓練ヲ爲スコトアルヘシ

第六章　入學在學及退學

第十一條　入學期ハ普通科、本科及研究科ハ毎年四月トシ專修科ハ何日（及何月）トス但シ臨時入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十二條　普通科、本科及研究科第一學年竝ニ專修科ノ入學資格左ノ如シ

一　普通科　尋常小學校卒業者又ハ之ニ相當スル素養アルモノニシテ年齡十二年以上ノモノ

一　本科　普通科修了者、高等小學校卒業者又ハ之ニ相當スル素養アル者ニシテ年齡十四年以上ノモノ

一　研究科　本科卒業者又ハ之ニ相當スル素養アルモノ

一　專修科　何々（本校卒業者、修了者、在學者其他年齡十二年以上ノモノ）

第十三條　前條ノ規定ニ照シ普通科、本科及研究科第二年以上ノ年齡竝ニ其ノ素養アリト認メタルモノニ付テハ其ノ年齡及素養ヲ酌酌シ相當スル年ニ入學許可スルコトアルヘシ

第十四條　入學志願者ハ入學願書（第一號樣式）ニ履歷書（第二號樣式）ヲ添ヘ學校長ニ差出スヘシ但シ保證人ハ本市（區町村）內ニ居住シ獨立ノ生計ヲ營ム成年者タルコトヲ要ス

第十五條　生徒ハ所定ノ青年學校手帳ヲ所持スヘシ

第十六條　生徒ニシテ生業其ノ他ノ事由ニ依リ一時他ノ青年學校ニ於テ教授及訓練ニ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ青年學校手帳ヲ添ヘ教授及訓練ノ委託方ヲ學校長ニ願出ツヘシ

第十七條　他ノ青年學校ニ委託セラレテ教授訓練ヲ受ケタル者其ノ期間終了シタルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニヨリ委託教授訓練ヲ受クルコトヲ止メタルトキハ青年學校手帳ヲ添ヘ其ノ旨學校長ニ屆出ツヘシ

第十八條　休學、轉學又ハ退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上學校長ニ願出ツヘシ

休學、轉學又ハ退學ヲ許可セラレタルトキハ青年學校手帳ヲ提出シ出席時數其ノ他必要ナル事項ノ記入證明ヲ受クヘシ

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル生徒ニ對シテハ學校長ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

一　無屆缺勤三月以上ニ及フ者又ハ出席常ナラサルモノ

二　操行修マラス成業ノ見込ナキ者

第七章　課程ノ修了及卒業

第二十條　課程ノ修了又ハ卒業ノ認定ハ出席時數其ノ他平素ノ學修情況等ニ依リ之ヲ行フ

第二十一條　所定ノ課程ヲ修了又ハ卒業セリト認メタル者ニ對シテハ修了證（第三號樣式）卒業證（第四號樣式）ヲ授與ス

第八章　賞罰

第二十二條　學校長ハ精勤ナル者、品行方正學業優等又ハ奇特ノ行爲アリテ生徒ノ模範トスルニ足ル者ヲ表彰スルコトアルヘシ

第二十三條　生徒ニシテ校則ニ違背シ其ノ他不都合ノ行爲ア

リタルトキハ之ヲ徴戒ス

第九章　講習

第二十四條　本校卒業者、修了者、在學者及本市（區、町村）民ノタメ臨時必要ナル講習ヲ爲スコトアルヘシ

附　則

第二十五條　本學則ハ昭和　年　月　日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條　學校長ハ本學則施行ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

（第一號樣式）

入學願

本籍

現住所　東京市　區　町　番地　氏名　年月日生

右者御校何科第　年へ入校致度候條御許可相成度別紙履歷書相添へ此段御願候也

年　月　日

右氏名印

現住所　東京市何區何町何番地　保證人氏名印

年　月　日生

何青年學校長何某殿

（第二號樣式）

履歷書

本籍

現住所　戶主トノ關係　氏名　年月日生

學歷

一、大正何年何月何小學校本業

一、　年月何學校第何學校修了

一、　年月何講習ヲ受ク

一、其ノ他

業務

一、何年何月ヨリ何業ニ從事

一、何々賞罰

一、何々

右ノ通相違無之候也

年　月　日

右氏名印

（第三號樣式）

第　號

修了證

校印

氏名

年月日生

右者本校普通科（研究科、專修科）ノ課程ヲ修了シタルコトヲ證ス

年　月　日

何青年學校位勳功爵　氏名印

（第四號樣式）

第　號

本業證

校印

氏名

年月日生

右者本校本科ヲ本業シタルコトヲ證ス

年　月　日

何青年學校長位勳功爵　氏名印

私立青年學校設置認可申請書式例

私立青年學校設置認可申請書式例（用紙美濃罫紙）

秘第一號

昭和十一年十月十日

東京府知事　橫山助成殿

東京市目黑區淸水町百番地

甲野乙太郎印

私立青年學校設置認可申請

青年學校令第四條及青年學校規程第一條ニ依リ私立青年學校ヲ設置致度候條御認可相成度左記事項ヲ具シ此段及申請候也

記

一、名稱　私立何青年學校

二、位置　東京市品川區東品川町四丁目五十番地

東京飛行機製作所內

校地ノ面積、校舍其ノ他ノ建物ノ配置及附近ノ情況ノ圖面別紙ノ通リ（二通）

三、學則別紙ノ通リ（二通）

四、生徒概數　普通科該當者　男子二〇〇名

本　科該當者　男子一五〇名

研究科該當者　男子　五〇名
計　四〇〇名

五、開校年月日　昭和十一年十一月一日

六、經費及維持ノ方法
東京飛行機製作所ヨリノ寄附金ニテ支辨ス、昭和十一年度及年次實迄ノ豫算書別紙ノ通リ

七、級ノ編成豫定表

普通科	第一年	三級
	第二年	二級
本科	第一年	一級
	第二年	一級
	第三年	一級
	第四年	一級
	第五年	一級
研究科		一級
計		一一級

八、職員數　二〇名
俸給及手當豫算額　收支豫算書ハ計上セリ

九、收支豫算書
昭和十一年度收支豫算書別紙ノ通リ（數年ニ渉リ完成スルモノトセハ年次實迄ノ各年度別豫算書）

一〇、設置者ノ履歷書

別紙ノ通
添付書類
平面圖、校舍關係圖
校地附近ノ狀況見取圖
學則
設置者履歷書
設置者身分證明書（私立學校令第四條）

國家總動員法

法律第五十五號（昭和十三年三月三十一日）
改正　昭和十四年第六八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國家總動員法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

國家總動員法

第一條　本法ニ於テ國家總動員トハ戰時（戰爭ニ準スヘキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同シ）ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル樣人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第二條　本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ
一　兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資
二　國家總動員上必要ナル被服、食糧、飮料及飼料
三　國家、動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衞生用物資及家畜衞生用物資
四　國家總動員上必要ナル船舶、航空機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資
五　國家總動員上必要ナル通信用物資
六　國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明物資
七　國家總動員上必要ナル燃料及電力
八　前各號ニ揭クルモノノ生產、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其ノ他物資
九　前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條　本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ
一　總動員物資ノ生產、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務
二　國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務
三　國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務
四　國家總動員上必要ナル衞生、家畜衞生又ハ救護ニ關スル業務
五　國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務
六　國家總動員上必要ナル試驗研究ニ關スル業務
七　國家總動員上必要ナル情勢又ハ啓發宣傳ニ關スル業務
八　國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務
九　前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務

第四條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨ケス

第五條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國又ハ地方公共團體ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇又ハ賃金ノ他ノ勞働條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働爭議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ勞働爭議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生產、修理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、艦

出若ハ輸入ヲ命シ、輸出税ヲ課シ又ハ輸出税若ハ輸入税ヲ増課若ハ減免スルコトヲ得

第十條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依ル總動員物資ヲ使用又ハ使用スルコトヲ得

第十一條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ總動員業務タル事業ヲ營ム會社ノ當該事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲ノ社債ノ募集ニ付商法第二百九十七條ノ規定ニ拘ラス勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ掲クルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

第十四條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十五條　前二條ノ規定ニ依リ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ十年内ニ拂下クルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ一般承繼人ハ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十六條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命スルコトヲ得

第十七條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種若ハ異種ノ事業ノ事業主間ニ於ケル當該事業ニ關スル統制協定ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ結制協定ノ設定、變更若ハ取消ヲ命シ又ハ統制協定ノ加盟者若ハ其ノ統制協定ニ加盟セサル事業主ニ對シ其ノ統制協定ニ依ルヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十八條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種又ハ異種ノ事業ノ事業主ニ對シ當該事業ノ統制ヲ目的トスル組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

前項ノ組合ハ法人トス

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命セラレタル者其ノ設立ヲ爲ササルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ組合成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合タラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ組合ニ對シ其ノ組合員ノ營業ニ關スル統制規程ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命シ又ハ其ノ組合員ニ對シ組合ノ統制規程ニ依ルヘキコトヲ命スルコトヲ得

第一項ノ組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃貸料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スルコトヲ得

第二十條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障アルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ併セテ其ノ原版ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ檢査スルコトヲ得

第二十二章　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養所、工場、事業所其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラルヘキ者ノ雇傭主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生產、販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

第二十四條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國家總動員業務タル事業ノ事業主又ハ戰時ニ際シ總動員業務ヲ實施セシムヘキ者ヲシテ戰時ニ際シ實施セシムヘキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生產若ハ修理ヲ業トスル者若ハ試驗研究機關ノ管理者ニ對シ試驗研究ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生產又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍內ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生產若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條　政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル賣金ノ融通若ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ因リ生シタル損失ヲ補償ス

第二十八條　政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生シタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第二十九條　前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル拂下ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條　政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ヲ保證又ハ補助金ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之カ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生產又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第三十二條　第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第三十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者

二　第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三　第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲ササル者

四　第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ妨ケ又ハ忌避シタル者

五　第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者

六　第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

二　第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

三　第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケスシテ統制協定若ハ統制規程ヲ設定變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四　第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲ササル者

五　第二十六條ノ規定ニ違反シ生產、修理又ハ設備ヲ爲ササル者

第三十五條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又

ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應セス又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事セサル者

二　第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二　第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲ササル者

三　第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試驗研究ヲ爲ササル者

第三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ設立ヲ爲ササル者

二　第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三　第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

第三十九條　第二十條第一項ノ規定ニ依ル制際又ハ禁止ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ發行人及編輯人其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及揭載ノ記事ニ署名シタル者亦前項ニ同シ

第四十條　第二十條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セス

第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十三條　總動員業務ニ從事シタル者其ノ業務遂行ニ關シ知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十四條　公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上秘密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條　第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ設立シタル組合ノ役員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ引受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四十七條　前條第一項ニ揭クル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條　前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同シ

本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス

第五十條　本法施行ニ關スル重要事項（軍機ニ關スルモノヲ除ク）ニ付政府ノ諮問ニ應スル爲國家總動員審議會ヲ置ク

國家總動員審議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年五月五日ヨリ施行）

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

國民職業能力申告令

勅令第五號（昭和十四年一月七日）

第一條　國民總動員法第二十一條ノ規定ニ基ク帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告及其ノ職業能力ニ關スル檢査ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　職業能力ニ關スル事項ノ申告（以下申告ト稱ス）ハ本令施行地內ニ居住スル年齡十六年以上五十年未滿ノ帝國臣民タル男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ（以下要申告者ト稱ス）ニ付之ヲ爲サシムルモノトス

一　本令施行地內ニ於テ引續キ三月以上厚生大臣ノ指定スル職業ニ從事スル者

二　引續キ一年以上前號ノ職業ニ從事シテ其ノ職業ヲ離メタル日ヨリ五年ヲ經過セサル者

三　厚生大臣ノ指定スル大學、專門學校、實業學校其ノ他之ニ準スヘキ各種學校ニ於テ厚生大臣ノ指定スル學科ヲ修メ其ノ學校ヲ卒業シタル者

四　厚生大臣ノ指定スル技能者養成施設ニ於テ所定ノ課程ヲ修了シタル者

五　厚生大臣ノ指定スル檢定若ハ試驗ニ合格シタル者又ハ厚生大臣ノ指定スル免許ヲ受ケタル者

六　其ノ他厚生大臣ノ指定スル者

第三條　要申告者及前條第一號ノ職業ニ從事スル要申告者ヲ使用スル者（以下使用者ト稱ス）ハ要申告者ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告義務者（以下申告義務者ト稱ス）トス但シ要申告者ヲ臨時ニ使用スル者ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

國民職業能力申告令

第四條　帝國臣民要申告者（第十一條ノ規定ニ該當スル者ヲ除ク）タルニ至リタルトキ又ハ第十一條規定ニ該當スル要申告者同條ノ規定ニ該當セサルニ至リタルトキハ申告義務者ハ當該事實ノ生シタル月ノ翌月末日迄ニ左ニ揭クル事項ヲ要申告者カ第二條第一號ノ職業ニ從事スル者ナル場合ニ在リテハ其ノ者ノ就業地ヲ管轄スル職業紹介所長ニ其ノ他ノ者ナル場合ニ在リテハ其ノ者ノ居住所ヲ管轄スル職業紹介所長ニ申告スヘシ申告ヲ爲シタル後ニ於テ要申告者カ內地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ノ何レカノ地域ヨリ他ノ地域ニ居住ノ場所ヲ移シタル場合ニ於テ其ノ地域ニ於テ仍要申告者タルトキ亦同シ

一　氏名
二　出生ノ年月日
三　本籍
四　居住ノ場所
五　兵役關係
六　學歷
七　職業ニ從事スル者ニ在リテハ其ノ職業名
八　第二條第一號ノ職業ニ從事スル者（就業ノ場所ノ一定セサル者ヲ除ク）ニ在リテハ就業ノ場所（二以上ノ就業ノ場所ヲ有スル者ニ在リテハ主タル就業ノ場所）
九　第二條第一號ノ職業ニ從事シ又ハ從事シタル者ニ在リテハ其ノ職業ノ經歷及技能程度
十　第二條第四號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ修了シタル課程ニ關スル事項
十一　第二條第五號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ受ケタル試驗、檢定又ハ免許ニ關スル事項
十二　給料又ハ賃銀ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ額
十三　配偶者ノ有無及現ニ扶養スヲ者ノ數
十四　精神又ハ身體ノ障碍ニ因リ勞務ニ堪ヘ難キ者ニ在リテハ其ノ狀況
十五　總動員業務從事ニ關スル希望
十六　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

申告義務者前項ノ申告ヲ爲シタル後ニ於テ同項第一號、第三號、第五號乃至第八號、第十號又ハ第十一號ニ揭クル事項ニ、前第二條第一號ノ職業ニ從事セサル要申告者ニ在リテハ前項第四號ニ揭クル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ當該事實ノ生シタル月ノ翌月末日迄ニ前項ノ職業紹介所長ニ其ノ旨申告スヘシ

第五條　厚生大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申告ノ外全部又ハ一部ノ要申告者ニ關シ前條第一項各號ニ揭クル事項ノ全部又ハ一部ニ付申告ヲ命スルコトヲ得

第六條　要申告者左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ申告義務者ハ三十日以內ニ其ノ旨前ニ申告ヲ爲シタル職業紹介所長ニ申告スヘシ

一　要申告者タラサルニ至リタルトキ（第四條第一項後段ノ場合ヲ含マス）
二　第十一條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ

第七條　同一ノ要申告者ニ付其ノ者及其ノ使用者共ニ申告義務者タル場合ニ於ケル申告ハ申告義務者共同シテ之ヲ爲スヘシ

第八條　地方長官又ハ職業紹介所長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ要申告者ニ就キ技能其ノ他ノ職業能力ニ關シ檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條　地方長官又ハ職業紹介所長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令ノ申告又ハ檢查ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徵スコトヲ得

地方長官又ハ職業紹介所長ハ本令ノ申告又ハ檢查ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ工場事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第十條　厚生大臣必要アリト認ムル場合ニ於テハ他ノ大臣ニ囑託シテ其ノ所轄スル官衙ノ長ヲシテ前二條ノ規定ニ準シ檢查ニ關スル職權ヲ行ハシムルコトヲ得

第十一條　本令ハ第六條第二號ノ規定ニ依ル申告ニ關スル規定ヲ除クノ外陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ又ハ兵役法第五十五條第二項ノ規定（志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム）ニ依リ召集中ノモノ、兵籍ニ編入セラレタル陸海軍學生生徒（海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ヲ含ム）、陸海軍軍屬、國家總動員法第四條ノ規定ニ依リ徵用中ノ者、醫療關係者職業能力申告令ノ規定ニ依リ申告ヲ爲スヘキ者、獸醫師法ニ依リ農林大臣ノ免許ヲ受ケタル獸醫師（朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督ノ免許ヲ受ケタル獸醫師、臺灣ニ在リテハ臺灣總督ノ免許證ヲ受ケタル獸醫師、樺太ニ在リテハ樺太廳長官ノ假免狀ヲ受ケタル獸醫、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官ノ指定スル者ヲ含ム）竝ニ船員法ノ船員及朝鮮船員令ノ船員ニ關スル申告及職業能力ノ檢查ニハ之ヲ適用セス

第十二條　要申告者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ申告ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ申告期限ヲ延長スルコトヲ得

一　陸海軍軍人ニシテ召集中ノモノ（前條ニ規定スル召集中ノ者ヲ除ク）
二　外國旅行中ノ者

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル者

第十三條　二以上ノ就業ノ場所ヲ有スル者ニ付テハ主タル就業ノ場所ノ所在地ヲ以テ、就業ノ場所一定セサル者及船舶内ニ於テ就業スルノ常況ニアル者ニ付テハ居住地ヲ以テ本令ノ就業地ト看做ス

第十四條　要申告者ニシテ厚生大臣ノ指定スル官廳ニ使用セラレ又ハ使用セラレタルモノニ關スル申告及職業能力ノ檢査ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十五條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ職業紹介所長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹、郡守又ハ島司、臺灣ニ在リテハ市尹又ハ郡守(澎湖島ニアリテハ廳長)、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳支廳長トシ職業紹介所トアルハ朝鮮ニ在リテハ府郡島、臺灣ニ在リテハ市郡(澎湖廳ニ在リテハ廳)、樺太及南洋群島ニ在リテハ支廳トス

第十六條　本令ニ規定スルモノノ外申告ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和十四年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ於ケル申告及檢査ニ關スル規定ハ昭和十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ノ申告ニシテ昭和十四年三月末日前ニ其ノ申告期限ノ到來スルモノハ同日迄ニ之ヲ爲スヲ妨ケス

國民職業能力申告令施行規則

第一條　國民職業能力申告令(以下令ト稱ス)第二條第一號ノ職業ニ從事スル要申告者(以下要申告者ト稱ス)ヲ臨時ニ使用スル者ニシテ左ニ揭クルモノハ令第三條但書ノ規定ニ依リ申告者タラサルモノトス但シ第一號ニ該當スル者要申告者ヲ所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用スルニ至リタルトキ又ハ第二號若ハ第三號ニ該當スル者要申告者ヲ三十日ヲ超エテ引續キ使用スルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　六十日以內ノ期間ヲ定メテ要申告者ヲ使用スル者

二　使用期間ノ定ナク要申告者ヲ勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用スル者

三　要申告ヲ日日雇入レ使用スル者

第二條　要申告者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付爲スヘキ申告ハ其ノ者カ左ノ各號ノ一ニ該當セサルニ至リタル月ノ翌月末日迄ニ之ヲ爲スヲ妨ケス

一　令第十二條第一號及第二號ニ該當スル者

二　朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島又ハ關東州ニ旅行中ノ者

三　法令ニ因リ拘禁中ノ者

四　疾病、傷痍其ノ他ノ事由ニ依リ申告ヲ爲スコト能ハサルノ狀況ニ在ル者

第三條　令第四條第一項ノ規定ニ依ル申告ハ別表樣式第一號ニ依リ(技能程度ハ別表技能程度申告標準ニ從ヒ)之ヲ爲スヘシ

職業能力申告用紙ハ申告義務者ノ申請ニ依リ又ハ申請ニ依ラスシテ職業紹介所長之ヲ交付ス

令第四條第二項及令第六條ノ規定ニ依ル申告ハ第七條ノ職業能力申告手帳ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第四條　令第三條ノ使用者其ノ使用スル要申告者(以下被用者ト稱ス)ノ使用ヲ罷メタルトキハ其ノ罷メタル月ノ翌月末日迄ニ其ノ旨前ニ申告ヲ爲シタル職業紹介所長ニ報告スヘシ

第五條　要申告者死亡シタルトキハ死亡ノ際其ノ者カ被用者タリシ場合ニ在リテハ之ヲ使用シタル使用者、被用者タラサリシ場合ニ在リテハ其ノ者ト同居ノ戶主又ハ家族ノ關係ニ在リタル者死亡ノ月ノ翌月末日迄ニ其ノ旨前ニ申告ヲ爲シタル職業紹介所長ニ申告スヘシ

第六條　第三條第三項ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依ル報告ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　職業紹介所長令第四條第一項ノ規定ニ依ル申告ニ基キ職業能力ニ關スル事項ノ登錄ヲ爲シタルトキハ別表樣式第二號ノ職業能力申告手帳ヲ申告義務者ニ交付スヘシ

第八條　職業能力申告手帳ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ且毀損ノ場合ニ於テハ其ノ職業能力申告手帳ヲ添ヘ前ニ申告ヲ爲シタル職業紹介所長ニ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第九條　令第八條ノ檢査ハ被檢査者ヲシテ試問ニ答ヘシメ若ハ作業ヲ爲サシメ又ハ健康診斷ヲ爲シテ之ヲ行フモノトス

地方長官又ハ職業紹介所長前項ノ檢査ノ爲必要アリト認ムルトキハ被檢査者ニ對シ期日及場所ヲ指定シテ出頭ヲ命スルコトヲ得

第十條　地方長官又ハ職業紹介所長必要アリト認ムルトキハ職業能力ニ關スル申告又ハ檢査ニ付報告ヲ徵スルコトヲ得

第十一條　當該官吏令第九條第二項ノ規定ニ依リ臨檢スル場合ニハ別表樣左第三號ノ證票ヲ携帶スヘシ

附　則

本令ハ昭和十四年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業指定ノ件

國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業ヲ左ノ通指定ス

一　採炭、選炭、採鑛、選鑛、採油又ハ採鑛ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　鑛山技術者

二　金屬ノ製錬、合金、熱處理又ハ其ノ他ノ冶金ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　冶金技術者

三　電動機、發電機、變壓器等ノ電氣機械器具、電氣計器、電氣照明用機械器具、電線若ハ電纜ノ製作、取付、修繕若ハ取扱又ハ發變電若ハ送配電ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　電氣技術者

四　有線電信電話機、無線電信電話機(放送用ヲ含ム)、電視裝置、電寫裝置、電氣信號機等ノ電氣通信用機械器具ノ製作、取附修繕又ハ取扱ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　電氣通信技術者

五　陸、船及航空機用ノ原動機、工作機械、鑛山用機械、

冶金用機械、化學用機械、計器、光學機械、精密機械、兵器、車輛、自動車、起重機若ハ其ノ他ノ機械器具ノ製作、修繕若ハ取扱、鐵塔、橋梁等ノ構造物ノ製作若ハ修繕又ハ金屬ノ壓延、鑄造、鍛造等ノ加工ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　機械技術者

六　航空機ノ機體又ハプロペラノ製作ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル業トスルモノ(航空機用原動機製作ニ從事スルモノヲ除ク)　航空機技術者

七　造船ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　造船技術者

八　有機化學、無機化學、電氣化學、高壓化學等ノ化學ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　化學技術者

九　セメント、ガラス、陶磁器、耐火煉瓦又ハ其ノ他ノ窯業ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　窯業技術者

一〇　製材、木工品ノ製造又ハ機械類ノ木部ノ製造若ハ修繕ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　木工技術者

一一　道路、橋梁、鐵塔、港灣、河川、砂防、鐵道、軌道、

隧道、索道、上下水道又ハ其ノ他ノ土木ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　土木技術者

一二　建築ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　建築技術者

一三　氣象觀測又ハ其ノ他ノ氣象業務ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ　氣象技術者

一四　航空士、航空機操縱士、航空機關士ヲ業トスルモノ　航空機搭乘員

一五　金屬材料ノ物理的試驗作業ニ從事スルモノ　金屬試驗工

一六　物理的又ハ化學的ノ實驗作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　實驗工

一七　陸、船及航空機用ノ原動機、工作機械、鑛山用機械、冶金用機械、化學用機械、計器、光學機械、精密機械、兵器、艦船、車輛、航空機、自動車、起重機、其ノ他ノ機械器具、電氣機械器具、電氣計器、電氣通信用機械器具又ハ鐵塔、橋梁等ノ構造物ノ部分品、半製品又ハ製品ノ檢査作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　機械檢査工

一八　レンズ、プリズム、レベル等ノ光學ガラスノ檢査作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　レンズ檢査工

一九　原動機、機關、ポンプ又ハ其ノ他ノ機械ノ試運轉作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　試運轉工

二〇　化學分析作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　分析工

二一　石炭又ハ亞炭ノ採掘又ハ探鑛ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ(手掘夫、發破係夫及堅岩夫ヲ含ム)　採炭夫

二二　炭坑坑內ニ於テ主トシテ石炭又ハ亞炭ノ運搬作業ニ從事スルヲ業トスルモノ(坑內ノ軌道夫ヲ含ミ坑外ノ運炭ノミニ從事スルモノヲ除ク)　坑內運炭夫

二三　炭坑坑內ニ於テ支柱作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　炭坑支柱夫

二四　炭坑又ハ亞炭坑ニ於テ機械ニ依ル石炭ノ選別作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　機械選炭夫

二五　鑛物ノ採掘又ハ探鑛ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ(手掘夫、發破係夫及堅岩夫ヲ含ム)　採鑛夫

二六　鑛山坑內ニ於テ支柱作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　鑛山支柱夫

二七　鑛山坑內ニ於テ主トシテ鑛物ノ運搬作業ニ從事スルヲ業トスルモノ(坑內ノ軌道夫ヲ含ミ坑外ノ運鑛ノミ

ニ從事スルモノヲ除ク）　坑内運鑛夫
二八　鑛山ニ於テ機械ニ依ル鑛物ノ選別作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（大割夫ヲ含ム）　機械運鑛夫
二九　石油山ニ於テ掘井又ハ汲油ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　石油鑛夫
三〇　銑鐵又ハフエロアロイノ製錬作業（熱風爐操作ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　製銑工
三一　鋼ノ製錬作業（造塊焙燒ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　製鋼工
三二　非鐵金屬ノ濕式製錬、乾式製錬又ハ電氣精錬ノ作業（造塊作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　非鐵金屬製錬工
三三　鑄物用又ハ合金用ノ金屬熔融作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　金屬熔融工
三四　金屬加熱爐ノ操作ニ從事スルヲ業トスルモノ　操爐工
三五　金屬ノ箔、線、棒、管、條、板又ハダイヤノ製造ノ爲機械ニ依ル金屬ノ壓延、伸張、引拔、押出等ノ加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　壓延伸張工
三六　鐵、鋼又ハ其ノ他ノ金屬ノ鑄造作業（ダイカスト鑄造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　鑄物工
三七　鍛冶又ハ鍛造ノ作業（プレスニ依ル火造作業ヲ含ミ且農具鍛冶、金具鍛冶、車鍛冶及ハ物製造鍛冶ヲ除ク）ニ從事スルヲ業トスルモノ（大割夫ヲ含ム）　鍛工
三八　金屬ノ燒入、燒鈍、燒戻、燒準、滲炭、窒化等ノ熱處理作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　熱處理工
三九　現圖展開作業又ハ型板取（現圖木型作）作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　現圖工
四〇　船體用鋼材ノ撓曲又ハ成形ノ作業（機械ニ依ル厚板ノ撓曲作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　撓鐵工
四一　鐵燒、常盤、鐵打等ノ鉸鐵作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　鉄打工
四二　コーキング又ハ水油防材挿入ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　填隙工
四三　電氣又ハガスニ依ル金屬ノ熔接又ハ燒切ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　熔接工
四四　汽罐、水槽、煙突、復水器等ノ鋼板類製品ノ加工組立作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　製罐工
四五　剪斷機ニ依ル金屬切斷作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　剪斷工
四六　造船ニ於テ現圖木型ニ依ル罫書又ハ鋼材ノ現場取附組立ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（船臺大工ヲ含ム）　鐵木工
四七　主トシテ手作業ニ依ル金屬薄板ノ加工組立作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（ブリキ職及銅打物職ヲ含ム）　板金工
四八　主トシテプレスニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　金屬プレス工
四九　主トシテ艦船用ノ金屬板及管ノ加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　鋼工
五〇　金屬管ノ加工取附作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（鉛工ヲ含ム）　配管工
五一　鐵材又ハ鋼材ノ加工組立作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（第四〇號乃至第五〇號ニ屬スルモノヲ除ク）　鐵工
五二　金屬加工ノ爲罫書及心出ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　罫書工
五三　普通旋盤、工具旋盤、卓上旋盤、多數バイト旋盤、模寫旋盤、正面旋盤、竪旋盤、專門旋盤等ノ旋盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　旋盤工
五四　タレット旋盤、自動車旋盤又ハ半自動旋盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　タレット工
五五　中グリ盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　中グリ工
五六　研磨盤、ラップ盤、艶出盤又ハ砥上盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　研磨工
五七　ボール盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　ボール盤工
五八　平削盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　平削工
五九　形削盤又ハ竪削盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　形削工
六〇　フライス盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　フライス工
六一　歯切盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　歯切工
六二　工作機械ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（第五三號乃至第六一號ニ屬スルモノヲ除ク）　特殊機械工
六三　切削工具、剪斷工具、セリダシ工具、ゲージ、ジグ、金型、計測器類（度量衡法ニ依ラサルモノ）、キヅ切削用補助工具、其ノ他ノ工具、鑢、鑢又ハ及物仕上、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　仕上工

六四　主トシテ鑄、タガネ等ノ手道具ニ依ル金屬品ノ仕上作業（簡單ナ部分品ノ組立作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　工具仕上工

六五　電動機、其ノ他ノ電氣機械器具又ハ電氣計器ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　仕上工

六六　電氣通信用機械器具ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　電氣組立工

六七　度量衡器、理學的機械器具、機械的計測器（時計ヲ含ム）、兵器、光學機械器具又ハ其ノ他ノ精密機械器具ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　電氣通信機組立工　精密組立工

六八　原動機、工作機械又ハ其ノ他ノ機械器具ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　機械組立工

六九　航空機ノ仕上、組立、艤裝、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　航空機組立工

七〇　自動車ノ仕上、組立、艤裝、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　自動車工

七一　艦船ノ艤裝作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　造船工

七二　電線又ハ電機ノ被覆、鍍裝又ハ被鉛ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　電線被裝工

七三　金屬ノ撚線又ハ合撚ノ製造作業（銅素製造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　撚線工

七四　電線コイルノ卷線作業（手卷作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　卷線工

七五　電氣裝置及器具ノ絕緣被覆作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　絕緣工

七六　手作業、機械作業又ハ化學作用ニ依ル目盛作業（文字書作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　目盛工

七七　機械ニ依ル製材又ハ製板ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　製材工

七八　合板ノ製造作業（薄板製造及薄板膠着ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　合板工

七九　鑄物用木型ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　〃　木型工

八〇　艦船、航空機、車輛又ハ其ノ他ノ機械器具ノ木部ノ製造作業（墨附作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ（家具職、建具職及指物職ヲ除ク）　木工

八一　木造船ノ建造作業（短艇製造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　造船工

八二　硫酸製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　硫酸工

八三　鹽酸製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　鹽酸工

八四　硝酸製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　硝酸工

八五　炭酸ソーダ、苛性ソーダ、金屬ソーダ、其ノ他ノソーダ鹽又ハカリ鹽ノ製造ノ程化學工ニ從事スルヲ業トスルモノ　ソーダ工

八六　水素、酸素、炭酸ガス、亞硫酸ガス、鹽素ガス、鹽化メチレン、鹽化メチル等ノ液化ガス又ハ壓縮ガスノ製造作業（原料ガス發生作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　壓縮ガス工

八七　合成法ニ依ルアンモニア製造ノ化學工程（原料ガス發生及觸媒製造ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　アンモニア合成工

八八　カーバイト製造用電氣爐ノ操作ニ從事スルヲ業トスルモノ　カーバイト電爐工

八九　アルミナ及アルミニウムノ製造ノ化學工程（氷晶石製造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　アルミニウム製造工

九〇　石炭乾溜ニ依ル石炭ガス、コークス又ハタールノ製造作業（石炭ノ低溫乾溜作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　石炭乾溜工

九一　發生爐ガス又ハ水性ガスノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　ガス發生爐工

九二　タールノ分溜、精製等ノ方法ニ依ルベンゾール、トルオール、キシロール、ナフタリン、石炭酸等ノ化學製品ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　タール分溜工

九三　染料製造工場ニ於テタール染料又ハ其ノ中間體ノ製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　染料工

九四　人造石油製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　人造石油工

九五　石油ノ蒸溜、分解、精製又ハ洗滌ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　石油工

九六　動植物油脂ノ抽出、精製、分解、鹼化又ハ硬化ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　油脂工

九七　ゴム原料ノ配合、混合等ノ精練作業（再生ゴム製造作業ヲ含ム、又ハタイヤ、ゴム靴、ゴム底足袋若ハゴム引防水布ノ製造業ニ從事スルヲ業トスルモノ　ゴム工

九八　セルロイド、醋酸纖維素又ハ纖維素エーテルノ製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ　セルロイド工

九九　製紙用又ハ人絹用ノパルプ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　パルプ工

一〇〇　人造絹絲、人造短纖維又ハセロフアンノ製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ（漂白及洗滌ノ作業ニ從事スルモノヲ除ク）　人絹工

一〇一　顏料、ボイル油又ハワニスノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　顏料塗料工

一〇二　火藥類又ハ化學兵器ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（マッチ製造作業ニ從事スルモノヲ除ク）　火藥工

一〇三　彈ノ火藥又ハ火工兵器ノ加工、裝塡又ハ修理ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　火工

一〇四　炭素電極ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　電極工

一〇五　蓄電池、濕電池又ハ乾電池ノ製造又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（光電池製造作業ニ從事スルモノヲ除ク）　電池工

一〇六　セメント、陶磁器又ハ耐火煉瓦ノ燒成作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　窯業燒成工

一〇七　金屬又ハガラスノ熔融用ルツボノ製造又ハ修理ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　ルツボ工

一〇八　光學ガラス、鋼ガラス、硬質ガラス、フイルター、存全ガラス等ノ特殊ガラスノ製造作業（ガラスノ熱處理法ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　特殊ガラス工

一〇九　レンズ、プリズム、レベル、反射鏡、船舶信號用ガラスノ荒摺、研磨、心取等ノ作業又ハバルサム作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　光學ガラス工

一一〇　蒸汽機關車ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ（助手ヲ含ム）　蒸汽機關車運轉手

一一一　內燃機關車（デーゼル動車及ガソリン動車ヲ含ム）ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ（助手ヲ含ム）　內燃機關車運轉手

一一二　電車又ハ電氣機關車ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ　電車運轉手

一一三　自動車ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ　自動車運轉手

一一四　飛行場ニ於テ航空機及其ノ附屬品ノ點檢、分解、調整、補修、手入、裝備、試運轉、格納、飛行準備、滑走ノ補助等ノ地上勤務作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　航空機整備員

一一五　有線電信ノ發受信操作ニ從事スルヲ業トスルモノ　有線電信通信士

一一六　無線電信ノ發受信操作ニ從事スルヲ業トスルモノ　無線電信通信士

一一七　發動機ヲ有スル二十噸以上三十噸未滿ノ漁船ノ操縱又ハ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ（船員手帳又ハ海技免狀ヲ有スル者ヲ除ク）　漁船運轉手

一一八　製圖又ハ寫圖ノ技術的作業（設計ノ補助作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　製圖手

一一九　作業企劃、作業研究又ハ單價若ハ原價ノ計算ノ技術的業務ニ從事スルヲ業トスルモノ　企劃手

一二〇　電氣通信電線路（空中線ヲ含ム）ノ建設、保繕又ハ屋內配線工事ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　通信電路工

一二一　電氣通信用機械器具ノ設備又ハ保繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　通信電機工

一二二　電線架設、電路敷設、保線、屋內配線工事又ハ送配電ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　電力電路工

一二三　電氣機械ノ据附又ハ運轉ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　電力電機工

一二四　汽罐ノ罐焚又ハ取扱ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　汽罐士

一二五　原動機、機關、ポンプ又ハ機械ノ運轉又ハ保繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　機械運轉工

一二六　起重機ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ　起重機運轉工

一二七　熔鑛爐、平爐、熔融爐、加熱爐、窯業用窯、其ノ他ノ工業用爐窯又ハ汽關煉瓦積部分ノ築造又ハ修築ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　築爐工

一二八　保溫材取附作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　保溫工

一二九　メッキ、ボンデライト、パーカライヂシグ、メタニウム又ハセラダイスノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　メッキ工

一三〇　塗料ニ依ル塗裝、吹附又ハ燒附ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　塗裝工

一三一　帆、索具、防舷物等ノ船具ノ製造、修繕又ハ取附ノ作業（錨及鎖ノ取附作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ　網具工

一三二　蹄鐵ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　蹄鐵工

一三三　氣象觀測又ハ其ノ他ノ氣象業務ニ從事スルヲ業ト

スルモノ　氣象手
一三四　潛水服ヲ着用シテ行フ水中作業ニ從事スルヲ業トスルモノ　潛水夫

國民職業能力申告令第二條第三號學校指定ノ件

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學校ヲ左ノ通指定ス

大學
一　大學ノ工學部及理工學部
二　旅順工科大學
三　早稻田大學文學部
四　拓殖大學

專門學校
一　工業及鑛業ニ關スル專門學校
二　朝鮮及臺灣ノ工業及鑛業ニ關スル專門學校
三　南滿洲工業專門學校
四　農林業ニ關スル專門學校
五　外國語ニ關スル專門學校
六　拓殖大學專門部

實業學校
一　工業學校（大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置タモノヲ含ム）竝朝鮮及臺灣ノ工業學校（大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム）ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ
（一）　等常小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ五年以上トスルモノ
（二）　高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ三年（夜間授業ノモノニ在リテハ四年）以上トスルモノ
（三）　前二號ト同等以上ノモノ
（四）　工業學校規程第十一條ノ二又ハ臺灣公立工業學校規則第四條ノ規定ニ依リ設ケタル第二部
二　大連工業學校、
三　撫順工業學校

各種學校
工業學校ニ準スヘキ私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ一年以上トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ

國民職業能力申告令第二條第三號學科指定ノ件

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學科ヲ左ノ通指定ス

大學
一　機械工學科（北海道帝國大學工學部第三部類ヲ含ム）
二　船舶工學科（造船學科ヲ含ム）
三　航空學科
四　造兵學科
五　電氣工學科（北海道帝國大學工學部第四部類ヲ含ム）
六　應用化學科（工業化學科、化學工業科、染料化學科及電氣化學科ヲ含ム）
七　採鑛冶金學科（鑛山及冶金學科、採鑛學科、冶金學科、金屬工學科、應用金屬學科及北海道帝國大學工學部第二部類甲ヲ含ム）
八　火藥學科
九　燃料化學科（北海道帝國大學工學部第二部類乙ヲ含ム）
一〇　土木工學科
一一　建築學科
一二　鑛業科
一三　文學科（早稻田大學文學部文學科ニ於テ露西亞語ヲ第二外國語トシテ修ムル者ニ限ル）
一四　拓殖科
一五　商科
一及五乃至七ノ學科ノ中早稻田大學ノ工業經營分科ハ之ヲ除キ一四及一五ノ學科ニ付テハ拓殖大學ニ於テ露西亞語又ハ西班牙語ヲ修ムル者ニ限ル

專門學校（專門學校ニ非サル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ三年以上トスルモノヲ含ム）
一　造機工學科（精密機械科、機械科、鑛機科及鑛山機械科ヲ含ム）
二　造船工學科
三　航空工學科
四　電氣工學科（電氣科ヲ含ム）
五　應用化學科（電氣化學科及製藥化學科ヲ含ム）
六　採鑛冶金學科（採鑛學科、鑛山工學科、鑛山學科、冶金學科、冶金工學科及採炭工學科ヲ含ム）
七　燃料學科
八　窯業科
九　土木工學科
一〇　建築學科
一一　農藝化學科
一二　露語部（拓殖大學專門部ニ於テ露西亞語ヲ必修

科目トスル者ヲ含ム）

一三　西　語　部（拓殖大學專門部ニ於テ西班牙語ヲ必修科目トスル者ヲ含ム）

一四　蒙古語部

工業學校（大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條又ハ大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノ竝專門學校及實業學校ニ非サル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ一年以上三年未滿トスルモノ竝之ト同等ノモノヲ含ム）

一　機　械　科（機械工作科、精密機械科、精密機械工作科、計器科、原動機科、採鑛機械科、電氣機械科、電機機科、電氣機械工作科、機械電氣科、化學機械科、其ノ他機械科ニ準スヘキ學科ヲ含ム）

二　造　船　科

三　航　空　科（機體製作科及航空機關科ヲ含ム）

四　電　氣　科

五　應用化學科（工業化學科、化學工業科、電氣化學科、其ノ他應用化學科ニ準スヘキ學科ヲ含ム）

六　採鑛冶金科（採鑛科及冶金科、鑄工冶金科、鍛工冶金科、其ノ他之ニ準スヘキ學科ヲ含ム）

七　土木建築科（土木科、建築科ヲ含ム）

八　窯　業　科（陶器科、製陶科ヲ含ム）

九　塗　工　科（家具塗工科ヲ含ム）

國民職業能力申告令第二條第四號技能者養成施設指定ノ件

國民職業能力申告令第二條第四號ノ技能者養成施設ヲ左ノ通指定ス

一　國立又ハ公立ノ機械工養成施設ニシテ中學校卒業程度ヲ入所資格トノ修業年限ヲ一年以上トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ

二　國立ノ通信有技者養成施設ニシテ高等小學校卒業程度ヲ入所資格トズルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ

三　社團法人電信協會管理無線電信講習所（大正十三年以後ノ修了者ニ限ル）

國民職業能力申告令第二條第五號檢定、試驗及免許ニ關スル件

國民職業能力申告令第二條第五號ノ檢定、試驗及免許ヲ左ノ通指定ス

一　實業學校卒業程度檢定規定ニ依ル工業學校卒業程度ノ檢定

二　航空法第十六條ノ規定ニ依ル考查

三　電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依ル電氣事業主任技術者ノ資格檢定

四　瓦斯事業法施行規則第四十五條ノ規定ニ依ル詮衡

五　銃砲火藥類取締法施行細則第四條又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル詮衡

六　壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第十一條ノ規定ニ依ル詮衡

七　無線電信士資格檢定規則ニ依ル無線通信士ノ檢定

八　汽罐取締令ニ依ル汽罐士免許

九　獸醫師、踏鐵工免許試驗規則ニ依ル踏鐵工試驗

一〇　自動車取締令ニ依ル自動車運轉手ノ免許

一一　電氣工事人取締規則ニ依ル電氣工事人ノ免許

一二　電話規則第四十條ノ規定ニ依ル資格認定

技能程度申告標準

機械檢查工

〔一級〕　次ノ事項中*印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　複雜ナ圖面カヨメ且仕樣書カワカルコト

技能程度申告標準

*二　檢查品ノ不良ヲ知リ適當ナ處置ノ決定カ出來ルコト

三　檢查スル機械全體ノ機能カワカツテキルコト

四　各部分品ニ必要ナ物理的性質ト化學的性質トヲ知ツテキルコト

五　檢查用具ノ考案カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中*印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　簡單ナ圖面カヨメ且仕樣書カワカルコト

*二　檢查用機械器具ノ取扱カ完全ニ出來ルコト

三　檢查品ノ用途カ略ワカツテキルコト

四　特殊金屬材料ノ種類ノ見分カ出來ルコト

五　普通機械ノ金屬材料ノ良否ノ見分カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　特定ノ檢查用具ノ取扱タケシカ出來ナイ者又ハ識別檢查タケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

レンズ檢查工

〔一級〕　次ノ三ツノ能力ヲ有スル者

*一　複雜ナ圖面カヨメ且仕樣書カワカルコト

*二　光學機械ノガラス部品ノ良否決定ノ基準ヲ立テルコトカ出來ルコト

*三　ガラス材料ノ屈折率、レンズ曲面度、プリズム角度等ノ精密ナ檢查カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中＊印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圖面カヨメ且仕樣書カワカルコト

二　簡査法及檢査ノ基準ガ與ヘラレテ一般レンズ又ハプリズムノ研磨程度、焦點距離、異心率、角度、寸法等ノ檢査カ出來ルコト

三　檢査法及檢査ノ基準カ與ヘラレテ各種レンズノ收差ノ檢査カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

採炭夫

〔一級〕　次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　坑內ノ安全ニツイテ必要ナ知識ヲモツテキルコト

二　採炭作業ニ從事シ發破作業カ出來ルコト

三　採炭作業ニ從事シ支柱作業カ出來ルコト

四　採炭作業ニ從事シ截炭機又ハ穿孔機ノ使用カ出來ルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

（備考）　採炭ノ手傳タケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

炭坑支柱夫

〔一級〕　次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　坑內ノ安全ニツイテ必要ナ知識ヲモツテキルコト

二　取枠作業カ出來ルコト

三　捲立枠作業カ出來ルコト

四　坑道枠作業カ出來ルコト

五　充塡（パッキング）作業カ出來ルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

採鑛夫

〔一級〕　次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　小型壓岩機ノ使用カ出來且發破及支柱作業ニツイテ充分ナ知識ヲモツテキルコト

二　大型壓岩機ノ使用カ完全ニ出來ルコト

三　石目ノ見分カ完全ニ出來ルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

（備考）　手傳タケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

鑛山支柱夫

〔一級〕　次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　竪坑支柱作業カ完全ニ出來ルコト

二　補助支柱ヲ必要トスル箇處ノ發見カ出來ルコト

三　普通坑道ノ支柱作業ノ段取カ出來且工數見積カ出來ルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

機械選鑛夫

〔一級〕　次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　破碎機及篩別機ノ運轉及ヒ調節ニ熟練シテキルコト

二　磨鑛機又ハ分級機ノ操作ニ熟練シ且磨鑛ノ良否ノ見分カ完全ニ出來ルコト

三　浮選池、試藥等ノ加減、鑛液濃度ノ測定、アルカリ度ノ測定等カ出來且浮選ノ良否ノ見分カ完全ニ出來ルコト

四　ジッガー選鑛機、テーブル選鑛機、磁氣選別機等ニ依ル選鑛作業ニ熟練シテキルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

製鐵工

〔一級〕　次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　爐況ヲ判斷シ適當ナ處置カ出來ルコト

二　原料ノ良否ノ見分カ出來且配合カ略出來ルコト

三　突發事故ニ對シテ適當ナ處置カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　爐ノ故障ノ判定カ略出來ルコト

二　爐況ニ依リ出銑ノ調節カ略出來ルコト

三　出銑時ニ於ケル開口及ヒ閉止作業ニ熟練シテキルコト

四　熱風爐ノ操作ニ從事シガスノ處理操作カ完全ニ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　松鐵ノ熔結作業タケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

製鋼工

〔一級〕　次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　爐況ヲ判斷シ適當ナ處置カ出來ルコト

二　出鋼前ノ試料檢査カ出來ルコト

三　ガスノ良否ノ見分カ出來且適當ナ處置カ出來ルコト

四　突發事故ニ對シ適當ナ處置カ出來ルコト

五　轉爐ノ操作ニ從事シ火焰ニ依リ爐內材質ノ變化ノ判定カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　爐況ヲ見テ出鋼時ノ判斷カ略出來ルコト

二　爐ノ故障ノ判定カ略出來ルコト

三　原料ノ良否ノ見分カ略出來ルコト

四　造塊作業ニ於テ湯ノ溫度、鋼質及鑄型ノ種類ニ應シ湯ノ注入方法ノ加減カ完全ニ出來ルコト

五　造塊作業ニ於テ鑄型引拔時ノ判斷カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　苦灰石、石灰石等ノ焙燒作業タケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

非鐵金屬製錬工

〔一級〕　次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　焙燒程度ノ判定及調節カ出來ルコト

二　燒結機ノ操作ニ從事シ其ノ調整カ出來ルコト

必要ニ應シテ檢査又ハ調節ヲ完全ニ出來ルコト

二　各種材料ノ加工可能程度ヲ知ツテキルコト

三　各種材料ノ性質及ソレ加熱材料ニ及ス影響ヲ知ツテキルコト

四　ツテキルコト・

五　機材ノ耐火性質ノ判定カ出來ルコト

一　精密ナル電氣機ノ構造ヲ知リ且簡易ノ電氣機械器具

及修繕ノ取扱ニ熟練シテキル者

二級（ロ）　次ノ事項中一ツ以上能力ヲ有スル者

目測ニ依リ機内温度ノ判定カ出來ル者

機内温度測定器具ノ使用カ出來ルコト

二級（ハ）　二級ニ進ンテイル者

村數ノ數入取出作業ノ簡易ナルモノハ出來ナイ者ニ限ル

備考

スルコト

耐火煉瓦

工

ルコト

二級（ロ）　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選ンテ合計三ツ

二級（ハ）　以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　壓延、伸張、引拔、押出等ノ作業ニ熱練シテキルコト

＊二　各種製品ノ仕樣及規格ヲ知ツテキルコト

＊三　各種材料ノ壓延又ハ伸張ノ過程ヲ知ツテキルコト

四　各種材料ノ壓延可能程度ノ範圍ヲ知ツテキルコト

技能程度事項

技能程度事項

一　精密ナル電氣機械器具ノ構造ヲ知リ且簡易ナル電氣機械器具ノ修繕ヲ爲シ得ル者

二　各種材料ノ加工可能程度ノ範圍ヲ知ツテキルコト

三　各種材料ノ性質及ソレ加熱材料ニ及ス影響ヲ知ツテキルコト

四　機材ノ耐火性質ノ判定カ出來ルコト

五　精密ナル電氣機ノ構造ヲ知リ且簡易ナル電氣機械器具

及修繕ノ取扱ニ熟練シテキル者

二級（ロ）　次ノ事項中一ツ以上能力ヲ有スル者

目測ニ依リ機内温度ノ判定カ出來ルコト

機内温度測定器具ノ使用カ出來ルコト

二級（ハ）　二級ニ進ンテイル者

村數ノ數入取出作業ノ簡易ナルモノハ出來ナイ者ニ限ル

備考

特定ノ耐火用鑄型ノ鑄造ハ出來ナイ者ニ限ル

ルコト

二級（ロ）　次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選ンテ合計三ツ

二級（ハ）　以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　壓延、伸張、引拔、押出等ノ作業ニ熱練シテキルコト

＊二　各種製品ノ仕樣及規格ヲ知ツテキルコト

＊三　各種材料ノ壓延又ハ伸張ノ過程ヲ知ツテキルコト

四　各種材料ノ壓延可能程度ノ範圍ヲ知ツテキルコト

技能程度事項

一　必要ニ應シテ機内温度ノ檢査又ハ調節ヲ完全ニ出來ルコト

二　各種材料ノ加工可能程度ノ範圍ヲ知ツテキルコト

三　各種材料ノ性質及ソレ加熱材料ニ及ス影響ヲ知ツテキルコト

四　ツテキルコト・

五　機材ノ耐火性質ノ判定カ出來ルコト

一　精密ナル電氣機ノ構造ヲ知リ且簡易ナル電氣機械器具

及修繕ノ取扱ニ熟練シテキル者

二級（ロ）　次ノ事項中一ツ以上能力ヲ有スル者

目測ニ依リ機内温度ノ判定カ出來ルコト

機内温度測定器具ノ使用カ出來ルコト

二級（ハ）　二級ニ進ンテイル者

村數ノ數入取出作業ノ簡易ナルモノハ出來ナイ者ニ限ル

備考

スルコト

耐火煉瓦

工

板等ノ考案カ出來ルコト
五　品物ノ用途、材質及大キサニ應シテ砂ノ配合カ出來ルコト
六　大型鑄物ノ鑄込所要量ノ計算カ出來ルコト
七　大型鑄物又ハ複雜ナ鑄物ノ鑄込溫度ノ判定カ出來且鑄込ノ指揮カ出來ルコト
八　木型ヲ見テ鑄物ノ工數見積カ出來ルコト
九　湯ノ熔融法ニツイテ概略ノ知識ヲモツテキルコト
一〇　製品ノ用途ニ應シテ適當ナ地金ノ選定カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　簡單ナ圖面カヨメルコト
*二　鑄物ノ不良ニツイテ原因ノ判定カ略出來ルコト
三　中型鑄物ノ木型ヲ見テ作業段取ノ決定カ出來ルコト
四　複雜ナ生型ノ製作カ出來ルコト
五　複雜ナ中子ノ製作カ出來ルコト
六　複雜ナ機械込作業カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　砂質、ハツリ又ハ簡單ナ小型中子ノ製作タケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

鍛　工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　加工中ノ鍛工品ニツイテ所要寸法ノ判斷カ正確ニ出來ルコト
*二　加工中ノ鍛工品ノ不良箇所ヲ發見シ其ノ處置ノ決定カ出來ルコト
三　圖面又ハ見本ニ依リ材料及工數ノ見積カ出來ルコト
四　五人以上ノ共同作業ヲ必要トスル大物鍛冶ノ指揮カ出來ルコト
五　大物鍛冶ニ必要ナ工具及當型ノ考案カ出來ルコト
六　特殊ノ材料ニツイテモ其ノ溫度ト性質變化ノ關係ヲ知リ加熱中又ハ加工中ノ材料ノ取扱ニツイテ指揮カ正確ニ出來ルコト
七　材質ニ惡影響ヲ及サスニ加工ノ出來ル溫度ノ範圍ヲ知ッテキルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　目測ニ依リ普通材料ノ溫度ノ判定カ出來ルコト
二　先手二人ノ指揮カ出來ルコト
三　材質ノ見積カ略出來ルコト
四　擔當スル範圍ノ鍛冶仕事ノ段取カ出來ルコト
五　機械槌ノ操縱カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　先手タケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

熱處理工

〔一級〕　次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　各種金屬材料（炭素鋼、合金鋼、輕合金、銅合金）ノ中一種ニツイテ製品ノ用途ニ應シ必要ナ熱處理カ出來ルコト
二　滲炭又ハ窒化作業ニ伴フ各種ノ操作カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　溫度計ニ依リ爐內溫度ノ調節カ正確ニ出來ルコト
*二　儘テ熱處理品ノ硬度ノ判定カ出來ルコト
三　簡單ナ普通鋼品ニツイテ特定ノ熱處理カ出來ルコト
四　適當ナ指圖ヲ受ケテ特殊鋼品ノ熱處理カ出來ルコト
五　熱處理後ノ歪取作業カ出來ルコト
六　滲炭箱ニ品物ヲ正シク詰メルコトカ出來ルコト
七　加熱爐ノ操作カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　鹽化バリウム等ノ加熱バスヲ使用スル燒入タケシカ出來ナイ者、熱處理機械ノ操作タケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

現圖工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　複雜ナ圖面カヨメ且艦船、汽繪、橋梁又ハ鐵塔ノ構造ニ精通シテキルコト
*二　指圖ヲ受ケスニ現圖展開作業カ出來又ハ現圖ニ依ル型板ノ製作カ出來ルコト
三　簡單ナ作業ニ對スル工數見積カ出來ルコト
四　現圖作業ニ必要ナ簡單ナ計算カ出來ルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

（備考）　現圖作業ノ手傳タケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

挽鐵工

〔一級〕　次ノ事項中三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　簡單ナ圖面カヨメルコト
二　水壓機ニ依ル板、山形ノ挽曲作業ニ熟練シテキルコト
三　簡單ナ山形ノ度ノ出入及山形ノ挽曲作業ノ段取カ出來ルコト
四　歪取作業ニ熟練シテキルコト
五　板ノ彎曲作業ニ熟練シテキルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

熔接工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　圖面ヲ見テ歪ノ最モ少イ作業段取ノ決定カ出來ルコト
*二　擔當スル範圍ノ熔接機ノ構造及取扱ニツイテ充分ノ知識ヲモッテヰルコト
三　工數見積ガ出來ルコト
四　試驗水壓力八瓩平方糎以上ヲ必要トスル罐又ハ槽ノ熔接カ出來ルコト
五　薄板ノ複雜ナ構造物又ハ薄板ノ大物熔接カ出來ルコト
六　電弧熔接作業ニ於テ下向、竪向、横向及上向ノ作業姿勢テ熔接カ出來又ハ特定ノ作業姿勢テ高級ナ熔接カ完全ニ出來ルコト
七　鑄鐵、特殊鋼、銅合金、輕合金、ニツケル中一種以上ノ熔接ニ熟練シテヰルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇スル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　簡單ナ構造物ニツイテ作業段取ノ決定カ出來ルコト
*二　擔當スル範圍ノ熔接機ノ取扱ニツイテ必要ナ知識ヲモッテヰルコト
三　試驗水壓力二瓩平方糎以上ヲ必要トスル容器ノ熔接カ出來ルコト
四　薄板構造物ノ電弧又ハガス熔接作業カ出來ルコト
五　電弧熔接作業ニ於テ下向、竪向、横向及上向ノ作業姿勢テ熔接カ出來又ハ特定ノ作業姿勢テ高級ナ熔接カ完全ニ出來ルコト
六　パット、スポット又ハシーム熔接作業ニ熟練シテヰルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

製　罐　工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇スル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　圖面ト加工物トニ應シテ段取ヨク加工カ出來ルコト
二　複雜ナ作業ニツイテ必要ナ現圖ノ作製カ出來ルコト
三　製罐作業ニツイテ必要ナ工具ノ考案カ出來ルコト
四　厚板曲ケ方ノ指揮カ出來ルコト
五　工數見積カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇スル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　圖面カヨメ且簡單ナ作業ノ段取カ出來ルコト
二　簡單ナ作業ニツイテ現圖ノ作製カ出來ルコト
三　使用工具ノ適否ノ判定カ出來ルコト
四　薄板ノ歪取作業カ出來ルコト
五　簡單ナ製罐品ノ曲直及修理カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

鐵　木　工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　復雜ナ圖面カヨメ且組立段取カ出來ルコト
二　船ノシヤフトセンターヲ出スコトカ出來ルコト
三　望木、進水臺又ハ支柱ノ調整カ出來ルコト
四　船體ノ中心若ハ組立位置ノ出シ方又ハ肋骨若ハ骨盤ノ組立調整カ出來ルコト
五　船ノ構造ニ精通シテヰルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　簡單ナ圖面カヨメルコト
二　船ノ構造ヲ概略知ッテヰルコト
三　現圖木型ニヨル野書カ出來ルコト
四　大工仕事カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

板　金　工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　圖面ト加工物トニ應シテ段取ヨク加工カ出來ルコト
二　工數見積カ出來ルコト
三　不規則ナ品物ノ展開圖カカケルコト
四　割出(管ノ分岐)及曲物(エビ)ノ作業カ出來ルコト
五　各種ハンタ附及鑢附ノ作業ニ熟練シテヰルコト
六　厚板(厚サ三粍以上)ノ型出カ完全ニ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　圖面カヨメ且簡單ナ作業ノ段取カ出來ルコト
二　板取作業カ出來ルコト
三　薄板ノ型出作業カ出來ルコト
四　手作業テ絞リ作業カ出來ルコト
五　ハンダ附作業ニ熟練シテヰルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

金屬プレス工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　複雜ナ作業ニツイテ型準備段取カ出來ルコト
二　複雜ナ圖面カヨメルコト
三　工數見積カ出來ルコト
四　數種ノプレスニツイテ抜型、曲型及ヒ絞型ノ使用カ出來ルコト
五　プレスノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　擔當スルプレスニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク出來ルコト
二　簡單ナ型ノ適否ノ判定カ出來ルコト
三　簡單ナ圖面カヨメルコト
四　簡單ナ作業ニツイテ型ノ準備カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

（備考）　自動プレスノ操作タケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

銅　工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　複雜ナ圖面カヨメルコト
*二　複雜ナ管曲作業カ出來ルコト
三　不規則ナ品物ノ展開圖カカケルコト
四　配管ノ系統圖ヲ理解シ工事ノ段取カ出來ルコト
五　各種鐵附作業ニ熟練シテヰルコト
六　フランヂ取附作業カ正確ニ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　簡單ナ圖面カヨメルコト
二　簡單ナ管曲作業カ出來ルコト
三　針金テ管ノ曲型ヲトルコトカ出來ルコト
四　簡單ナ配積工事カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

野　書　工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　複雜ナ圖面カヨメルコト
*二　圖面ト加工物トニ應シテ段取ヨク野書カ出來ルコト
三　材料ニ缺陷カアル場合製品ノ機能ニ應シテ適當ナ處置カ出來ルコト
四　工數見積カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　簡單ナ圖面カヨメルコト
*二　擔當スル範圍ノ野書カ出來ルコト
三　型板（テンプレート）等ヲ用ヒテ簡單ナ野書カ出來ルコト
四　製品ノ用途ヲ略理解シテヰルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

旋　盤　工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　圖面ト加工物トニ應シテ各種ノ作業段取及加工作業カ出來ルコト

二　數種類ノ旋盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク出來ルコト
三　旋盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見カ出來ルコト
四　內パス及外パスヲ用ヒ合セ物仕上ヲ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラハ公差正負百分ノ二粍仕上寸法五〇粍前後ナラハ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）以上ニ加工カ出來ルコト
五　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラハ公差正負百分ノ〇・九粍仕上寸法五〇粍前後ナラハ公差正負百分ノ一・二粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作カ容易ニ出來ルコト
六　大型旋盤作業ニツイテ取附及加工段取カ出來ルコト
七　工數見積カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　簡單ナ圖面カヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取カ出來ルコト
*二　擔當スル旋盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク出來ルコト
三　荒削濟ノ製品ニ對シ中削及仕上削合計四回以下ノ加工テ合セ物仕上ヲ日本標準規格四級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラハ公差正負百分ノ五粍仕上寸法五〇粍前後ナラハ公差正負百分ノ六・五粍程度ノ仕上）以上ニ加工カ出來ルコト
四　マイクロメータヲ用ヒ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラハ公差正負百分ノ二粍仕上寸法五〇粍前後ナラハ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作カ容易ニ出來ルコト
五　各種ネヂノ製作カ出來ルコト
六　使用刄物ノ研磨カ出來ルコト
七　高級刄物、マイクロメータ、ジグ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

タレット工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　作業上必要ナ程度ニ圖面カヨメルコト
*二　指定サレタ加工方式ノ理解カ容易ニ出來ルコト
三　タレット旋盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見カ出來ルコト
四　使用工具ノ適否ノ判定カ出來且調整カ出來ルコト

五　使用工具ノ考案カ出來ルコト
六　精密度ノ高イ製品ノ多量生産カ出來ルコト
七　自動又ハ半自動旋盤ノ作業指導カ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中＊印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　擔當スルタレット旋盤ニツイテ各種作業カ能率ヨク正確ニ出來ルコト
二　日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ二耗仕上寸法五〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ二・五耗程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作カ容易ニ出來ルコト
三　使用及物ノ研磨カ出來ルコト
四　高級及物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

（備考）精密度ノ低イボルトナット等ノ多量生産タケシカ関係ナイ者ハ三級トスルコト

中グリ工

〔一級〕次ノ事項中＊印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　圖面ト加工物トニ應シテ各種ノ作業段取及加工作業カ出來ルコト
＊二　擔當スル中グリ盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク出來ルコト

二　數種類ノ中グリ盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク出來ルコト
三　中グリ盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見カ出來ルコト
四　內パス及外パスヲ用ヒ合セ物仕上ヲ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法五〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ二・五耗仕上寸法百耗前後ナラハ公差正負百分ノ三・五耗程度ノ仕上）以上ニ加工カ出來ルコト
五　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合（品物ノ仕上寸法五〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ一・二耗仕上寸法百耗前後ナラハ公差正負百分ノ一・五耗程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作カ容易ニ出來ルコト
六　大型中グリ盤（シヤフトボーリング）ニツイテ取附及加工段取カ出來ルコト
七　工數見積カ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圖面カヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取カ出來ルコト
＊二　擔當スル中グリ盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク出來ルコト

三　荒削濟ノ製品ニ對シ中削及仕上削合計四回以下ノ加工テ合セ物仕上ヲ日本標準規格四級嵌合（品物ノ仕上寸法五〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ六耗仕上寸法百耗前後ナラハ公差正負百分ノ八耗程度ノ仕上）以上ニ加工カ出來ルコト
四　マイクロメータヲ用ヒ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ二耗仕上寸法五〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ二・五耗程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作カ容易ニ出來ルコト
五　使用及物ノ研磨カ出來ルコト
六　高級及物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

〔三級〕二級ニ達シナイ者

研磨工

〔一級〕次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　圖面ト加工物トニ應シテ各種ノ作業段取及加工作業カ出來ルコト
＊二　數種類ノ研磨盤（手ニ依ル工具研磨專用ノモノヲ除ク）ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク出來ルコト
三　研磨盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見カ出來ルコト
四　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ〇・九耗仕上寸法五〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ一・二耗程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作カ容易ニ出來ルコト
五　各種砥石車ノ硬度又ハ粒度ト工作物トノ關係ヲ理解シ研磨速度ト送リノ加減カ出來ルコト
六　工數見積カ出來ルコト
七　ラッピング仕上作業カ出來ルコト
八　特高殊級工具ノ研磨カ出來ルコト
九　ネヂ研磨又ハ齒車研磨盤ノ使用カ完全ニ出來ルコト

〔二級〕次ノ事項中＊印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　簡單ナ圖面カヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取カ出來ルコト
＊二　擔當スル研磨盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク出來ルコト
三　マイクロメータヲ用ヒ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ二耗仕上寸法五〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ二・五耗程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作カ容易ニ出來ル

コト

四　砥上盤(ホーニング盤)作業カ出來ルコト

五　普通工具ノ研磨カ出來ルコト

六　マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

ボール盤工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　圖面ト加工物トニ應シテ各種ノ作業段取及加工作業カ出來ルコト

*二　數種類ノボール盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク出來ルコト

三　ボール盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見カ出來ルコト

四　工數見積カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　簡單ナ圖面カヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取カ出來ルコト

*二　擔當スルボール盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク出來ルコト

三　タップ下孔ヲアケルコトカ出來ルコト

四　錐ノ研磨カ出來ルコト

五　高級工具、マイクロメータ、ジグ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテ居ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

平削工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　圖面ト加工物トニ應シテ各種ノ作業段取及加工作業カ出來ルコト

*二　數種類ノ平削盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　平削盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見カ出來ルコト

四　大型平削盤ニツイテ取附及加工段取カ出來ルコト

五　工數見積カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　簡單ナ圖面カヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取カ出來ルコト

*二　擔當スル平削盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　使用刄物ノ研磨カ出來ルコト

四　高級刄物、精密測定器具類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

形削工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　圖面ト加工物トニ應シテ各種ノ作業段取及加工作業カ出來ルコト

*二　形削盤又ハ竪削盤ノ數種類ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　形削盤又ハ竪削盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見カ出來ルコト

四　工數見積カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　簡單ナ圖面カヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取カ出來ルコト

*二　擔當スル形削盤又ハ竪削盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　使用刄物ノ研磨カ出來ルコト

四　高級刄物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

フライス工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　圖面ト加工物トニ應シテ各種ノ作業段取及加工作業カ出來ルコト

*二　竪型及横型ヲ含メテ三種以上ノフライス盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三　フライス盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見カ出來ルコト

四　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合(品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラハ公差正負百分ノ〇・九粍仕上寸法五〇粍前後ナラハ公差正負百分ノ一・二粍程度ノ仕上)ヲ適用シタ部分品ノ製作カ容易ニ出來ルコト

五　工數見積カ出來ルコト

六　割出臺(インデツキス)作業ニ熟練シテヰルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

*一　簡單ナ圖面カヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取カ出來ルコト

*二　搪當スルフライス盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク正確ニ出來ルコト
三　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ二耗仕上寸法五〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ二・五耗程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作カ容易ニ出來ルコト
四　高級刃物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

歯切工

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　圖面ト加工物トニ應シテ各種ノ作業段取及加工作業カ出來ルコト
*二　二種以上ノ歯切盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク正確ニ出來ルコト
三　歯切盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見カ出來ルコト
四　工數見積カ出來ルコト
五　與ヘラレタ歯切作業ノ計算表ヲ理解シ且其ノ使用カ完全ニ出來ルコト

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　簡單ナ圖面カヨメルコト
*二　搪當スル歯切盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク正確ニ出來ルコト
三　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ二耗仕上寸法五〇耗前後ナラハ公差正負百分ノ二・五耗程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作カ容易ニ出來ルコト
四　高級刃物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

工具仕上工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　複雜ナ圖面カヨメルコト
*二　圖面ニ依リ現圖引カ出來ルコト
三　加工材料ノ性質ト工作機械ノ種類トニ應シテ工具ノ材質ヲ選定シ且形狀ノ考案カ出來ルコト
四　圖面ヲ見テ必要ナゲージ、ジグ又ハ仕上工具ノ考案カ出來ルコト
五　加工材料ノ形狀、性質及プレスノ種類ニ應シテ適當ナ金型ノ考案カ出來ルコト
六　現圖ニ依リゲージノ製作カ出來ルコト
七　工數見積カ出來ルコト

以上ノ能力ヲ有スル者
*一　簡單ナ圖面カヨメ且搪當スル範圍ノ作業段取カ出來ルコト
*二　搪當スル歯切盤ニツイテ各種ノ加工作業カ能率ヨク正確ニ出來ルコト
三　シングルカツタヲ用ヒテ螺切加工カ出來ルコト
四　高級刃物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

工具仕上工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　複雜ナ圖面カヨメルコト
*二　圖面ニ依リ現圖引カ出來ルコト
三　加工材料ノ性質ト工作機械ノ種類トニ應シテ工具ノ材質ヲ選定シ且形狀ノ考案カ出來ルコト
四　圖面ヲ見テ必要ナゲージ、ジグ又ハ仕上工具ノ考案カ出來ルコト
五　加工材料ノ形狀、性質及プレスノ種類ニ應シテ適當ナ金型ノ考案カ出來ルコト
六　現圖ニ依リゲージノ製作カ出來ルコト
七　工數見積カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　簡單ナ圖面カヨメルコト
*二　特定機械ニ使フ工具、金型等ノ製作カ出來ルコト
三　簡單ナ心出及芋書カ出來ルコト
四　細目盤ノ使用カ完全ニ出來ルコト
五　指圖ヲ受ケテゲージ並刃物類ノ製作カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

仕上工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　複雜ナ圖面ガヨメルコト
*二　高級ナ摺合作業カ出來ルコト
三　各種ノ作業ニツイテ必要ナ工具ノ考案カ出來ルコト
四　工數見積カ出來ルコト
五　バランシング作業カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　簡單ナ圖面カヨメルコト
*二　普通ノ摺合作業カ出來ルコト
三　使用工具ノ適否ノ判定カ出來ルコト
四　タガネノ使用カ完全ニ出來ルコト

五　鐵及普通合金ノ性質ヲ略知ツテヰルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

電機組立工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　保安上必要ナ電氣知識ヲモツテヰルコト
*二　各種電氣機械器具ノ使用法ヲ知ツテヰルコト
三　複雜ナ電氣機械器具ノ組立、補正及修理カ出來ルコト
四　複雜ナ電氣結線圖ノ理解カ完全ニ出來ルコト
五　各種電氣機械器具ノ使用ニツイテ必要ナ考案及改良カ出來ルコト
六　工數見積カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ二ツノ能力ヲ有スル者
*一　搪當スル範圍ノ電氣機械器具ニツイテ其ノ使用法ヲ知ツテヰルコト
*二　簡單ナ電氣機械器具ノ組立補正及修理カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

電氣通信機組立工

〔一級〕　次ノ事項中 *印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
*一　保安上必要ナ電氣知識ヲモツテヰルコト

技能歴年表事

| | | |

*一 電気的知識カアリコイル巻及組工程ノ一般ニツイテ理解シテイルコト

*二 複雑ナ図面カヨメ且仕様書カヨメルコト

三 工数見積カ出来ルコト

*四 計器ニ依リ接ノ良否、絶縁抵抗及絶縁耐力測定

五 カ出来ルコト

コイルノ接合用材料ニツイテ概略ノ知識ヲモツテキ

六 巻線用鋼材料ノ加工程ニ精通シテキルコト

七 製品ノワニス処理及乾燥カ出来ルコト

八 周辺ノバランシング作業カ出来ルコト

九 コイル及絶縁物ノ乾燥程度ノ見分カ出来ルコト

一〇 絶縁物及ワニスノ性質ヲ理解シテキルコト

〇二 コイル巻キ方ニ従事スル者ニツイテハ次ノ事項中

コイルノ納メ方ニ従事スル者ニツイテハ次ノ事項中

*印ハ必須他一項ヲ選択スル合計三ツ以上ノ能力

ヲ有スル者、

*印ハ必須他一項ヲ選択スル合計三ツ以上ノ能力

*仕様書カワカルコト

二 鋼線ノ被覆ノ良否ノ見分カ出来ルコト

三 鋼線ノ接合ニツイテ知識カアリ且接合ノ良否ノ見分

鋼線ノ接合ニツイテ知識カアリ且接合ノ良否ノ見分

*印ハ必須他一項ヲ選択スル者ニツイテハ次ノ事項中

*印ハ必須他一項ヲ選択スル合計三ツ以上ノ能力

技能程度申請書

〇二 コイル巻キ方ニ従事スル者ニツイテハ次ノ事項中

一〇 絶縁物及ワニスノ性質ヲ理解シテキルコト

九 コイル及絶縁物ノ乾燥程度ノ見分カ出来ルコト

八 周辺ノバランシング作業カ出来ルコト

七 製品ノワニス処理及乾燥カ出来ルコト

六 巻線用鋼材料ノ加工程ニ精通シテキルコト

五 コイルノ接合用材料ニツイテ概略ノ知識ヲモツテキ

ルコトノ接合用材料ニツイテ概略ノ知識ヲモツテキ

四 計器ニ依リ接ノ良否、絶縁抵抗及絶縁耐力測定

三 工数見積カ出来ルコト

*二 複雑ナ図面カヨメ且仕様書カワカルコト

コイルノ接合部ノ良否ノ見分カ出来ルコト

鉄心、整流子等ノ良否ノ見分カ出来ルコト

*一 簡単ナ図面カヨメ且仕様書カワカルコト

ヲ有スル者

*一 電気的知識カアリコイル巻及組工程ノ一般ニツイテ理解シテキルコト

*二 複雑ナ図面カヨメ且仕様書カワカルコト

三 工数見積カ出来ルコト

四 計器ニ依リ接ノ良否、絶縁抵抗及絶縁耐力測定

五 カ出来ルコト

コイルノ接合用材料ニツイテ概略ノ知識ヲモツテキ

六 巻線用鋼材料ノ加工程ニ精通シテキルコト

七 製品ノワニス処理及乾燥カ出来ルコト

八 周辺ノバランシング作業カ出来ルコト

九 コイル及絶縁物ノ乾燥程度ノ見分カ出来ルコト

一〇 絶縁物及ワニスノ性質ヲ理解シテキルコト

〇二 コイル巻キ方ニ従事スル者ニツイテハ次ノ事項中

コイルノ納メ方ニ従事スル者ニツイテハ次ノ事項中

*印ハ必須他一項ヲ選択スル合計三ツ以上ノ能力

技能程度申請書

*一 仕様書カワカルコト

二 鋼線ノ被覆ノ良否ノ見分カ出来ルコト

三 鋼線ノ接合ニツイテ知識カアリ且接合ノ良否ノ見分

鋼線ノ接合ニツイテ知識カアリ且接合ノ良否ノ見分

*印ハ必須他一項ヲ選択スル者ニツイテハ次ノ事項中

*印ハ必須他一項ヲ選択スル合計三ツ以上ノ能力

技能程度申請書

四三

技能度申請事

			仕様書カワカルコト
			指定ノ取扱ヲ知ッテイルコト
			簡単ナ図面カヨメルコト
			以上ノ能力ヲ有スル者
			簡単ナ図面又ハ現図ニ依リ普通木型ノ製作出来ルコト
			木工機械ノ取扱ガ出来ルコト
			木材ノ性質ヲ考ヘテ木型ノ製作ガ出来ルコト
			簡単ナ機械部分品ノ見取図及スケッチガ出来ルコト
			船尾軸管リングヲバイタ作業ガ出来ルコト
			二級ニ進ンダ者
			木ノ事項中印ハ必須他一項ヲ選ンデ合計三ツ
			以上ノ能力ヲ有スル者
			簡単ナ図面カヨメルコト

八　六〇粍以上ノプリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業カ正確ニ出來ルコト

九　大型窓プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業カ正確ニ出來ルコト

一〇　精密ナ角度ヲ要スルプリズムノバルサム作業カ出來ルコト

〔二級〕　次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　直徑三〇粍以上ノ普通對物レンズノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業カ正確ニ出來ルコト

二　三〇粍以上ノプリズムノ荒摺作業、研磨作業、又ハ心取作業カ正確ニ出來ルコト

三　特殊接眼レンズノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業カ正確ニ出來ルコト

四　小型窓プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業カ正確ニ出來ルコト

五　水準器ガラスノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業カ正確ニ出確ルコト

六　プリズム及精度ノ高イレンズノバルサム作業カ出來ルコト

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

有線電信通信士

〔一級〕　普響通信ニテ一分間八五字以上ノ發受信カ完全ニ出來ル者

〔二級〕　普響通信ニテ一分間七五字以上ノ發受信カ完全ニ出來ル者

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

有線電信通信士

〔一級〕　次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　條件ヲ與ヘラレテ簡單ナ設計カ出來ルコト

二　複雜ナ製圖出カ來ルコト

三　見取圖カカケルコト

四　精密ナ圖面ノトレースカ明確ニ出來ルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

（備考）　宮圖タケシカ出來ナイ者ハ一級トスルコト

起重機運轉工

〔一級〕　次ノ事項中＊印ハ必能他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

＊一　起重機ノ運轉カ完全ニ出來ルコト

二　起重機ノ構造ヲ知ッテキルコト

三　起重機ノ故障ノ原因ヲ知リ且其ノ修繕及調整方法ノ判斷カ出來ルコト

四　取扱フ品物ヲ見テ其ノ重サノ判斷カ出來ルコト

五　揚重用補助具ノ使ヒ方ヲ知ッテキルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

メッキエ

〔一級〕　次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　メッキ操作ニ心要ナ準備段取カ出來ルコト

二　鍍當スルメッキ原液ノ作リ方ヲ知ッテキルコト

三　熱式メッキニツイテ材料熔融爐ノ溫度ノ調節カ出來ルコト

四　指圖ヲ受ケスニ電氣、熱式又ハ乾式ノメッキカ出來ルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

（備考）　メッキ操作ノ前後ノ研磨作業タケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

塗裝工

〔一級〕　次ノ事項中三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　普通ニ用ヒル數種類ノ塗料ニツイテ其ノ性質、用途及色合ヲ知ッテキルコト

二　材料ノ配合方法ヲ知ッテキルコト

三　手塗、吹附又ハ燒附ニ熟練シテキルコト

四　各種塗裝用工具ノ使用ニ熟練シテキルコト

五　工數見積カ出來ルコト

〔二級〕　一級ニ達シナイ者

（備考）　下盤タケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

潛水夫

〔一級〕　海難救助作業、解纜作業又ハ各種土木作業ノ經驗カアリ且四〇米以上ノ潛水カ出來ル者

〔二級〕　海難救助作業、解纜作業又ハ各種土木作業ノ經驗カアリ且二〇米以上ノ潛水ガ出來ル者

〔三級〕　二級ニ達シナイ者

國民徵用令

勅令第四百五十一號（昭和十四年七月七日）

朕國民徵用令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

國民徵用令

第一條　國家總動員法第四條ノ規定ニ基ク帝國臣民ノ徵用ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　徵用ハ特別ノ事由アル場合ノ外職業紹介所ノ職業紹介其ノ他募集ノ方法ニ依リ所要ノ人員ヲ得ラレサル場合ニ限リ之ヲ行フモノトス

第三條　徵用ハ國民職業能力申告令ニ依ル要申告者（以下要申告者ト稱ス）ニ限リ之ヲ行フ但シ徵用中要申告者タラサルニ至リタル者ヲ引續キ徵用スル必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　本令ニ依リ徵用スル者ハ國ノ行フ總動員業務ニ從事セシムルモノトス

第五條　徵用及徵用ノ解除ハ厚生大臣ノ命令ニ依リ之ヲ實施ス

第六條　總動員業務ヲ行フ官衙（陸海軍ノ部隊及學校ヲ含ム以下之ニ同シ）ノ所管大臣徵用ニ依リ當該官衙ニ人員ノ配置ヲ必要ト認ムルトキハ厚生大臣ニ之ヲ請求スヘシ

第七條　厚生大臣前條ノ規定ニ依ル請求アリタル場合ニ於テ徵用ノ必要アリト認ムルトキハ徵用命令ヲ發シ徵用セラレヘキ者ノ居住地（國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業ニ從事スル者ニ付テハ其ノ者ノ就業地）ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達スヘシ

地方長官徵用命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ直ニ徵用令書ヲ發シ徵用セラルヘキ者ニ之ヲ交付スヘシ

第八條　徵用令書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ但シ軍機保護上特ニ必要アルトキハ第三號ニ揭クル事項ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　徵用セラルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍、居住ノ場所（國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業ニ從事スル者ニ付テハ就業ノ場所）

二　從事スヘキ總動員業務ノ名稱及所在地

三　從事スヘキ總動員業務、職業及場所

四　徵用ノ期間

五　出頭スヘキ日時及場所

六　其ノ他必要ト認ムル事項

第九條　地方長官ハ徵用セラルヘキ者ノ居住及就業ノ場所、職業、技能程度、身體ノ狀態、家庭ノ狀況、希望等ヲ斟酌シ徵用ノ適否竝ニ從事スヘキ總動員業務職業及場所ヲ決定シ徵用令書ヲ發スヘシ

第十條　地方長官ハ徵用ノ適否其ノ他ヲ判定スル爲必要アルトキハ徵用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第十一條　徵用令書ノ交付ヲ受ケタル者疾病其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ指定ノ日時及場所ニ出頭スルコト能ハサル場合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル屆出アリタル場合ニ於テ地方長官必要アリト認ムルトキハ出頭ノ日時若ハ場所ヲ變更シ又ハ其ノ者徵用ニ適セスト認ムルトキハ徵用ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出頭變更令書又ハ徵用取消令書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付スヘシ

第十二條　被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣被徵用者ノ從事スル總動員業務職業、若ハ場所又ハ徵用ノ期限ニ付變更ヲ必要トスルトキハ厚生大臣ニ之ヲ請求スヘシ

第十三條　厚生大臣前條ノ規定ニ依ル請求アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ被徵用者ノ從事スル總動員業務職業若ハ場所又ハ徵用ノ期間ヲ變更スルコトヲ得

第十四條　被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣被徵用者カ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ總動員業務ニ從事スルニ適セスト認ムルトキ又ハ其ノ者ヲシテ總動員業務ニ從事セシムル必要ナキニ至リタルトキハ厚生大臣ニ徵用ノ解除ヲ請求スヘシ

被徵用者疾病其ノ他ノ事由ニ因リ總動員業務ニ從事シ難キ場合ニ於テハ被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣ニ其ノ旨ヲ申出ツルコトヲ得

第十五條　厚生大臣前條第一項ノ規定ニ依ル請求アリタル場合ニ於テハ徵用ヲ解除スルコトヲ得

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前條第一項ノ規定ニ依ル請求ナキ場合ト雖モ被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣ト協議シ徵用ヲ解除スルコトヲ得

第十六條　厚生大臣徵用ノ變更又ハ解除ヲ爲サントスルトキハ徵用變更命令又ハ徵用解除命令ヲ發シ命令ノ定ムル所ニ依リ被徵用者ノ就業地ヲ管轄スル地方長官、徵用令書ヲ發シタル地方長官又ハ第八條第五號ノ出頭ノ場所ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達スヘシ

地方長官徵用變更命令又ハ徵用解除命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ直ニ徵用變更令書又ハ徵用解除令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付スヘシ

國民徵用令

被徵用者本令施行地外ノ場所ニ於テ就業スル場合ニ於テ徵用ノ變更又ハ解除ヲ爲サントスルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス厚生大臣徵用變更令書又ハ徵用解除令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付スヘシ

第十七條　被徵用者總動員業務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ總動員業務ヲ行フ官衙ノ長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十八條　被徵用者ニ對スル給與ハ其ノ者ノ技能程度、從事スル業務及場所等ニ應シ且從前ノ給與其ノ他之ニ準スヘキ收入ヲ斟酌シテ之ヲ支給ス

被徵用者ニ對スル給與ニ關シ必要ナル事項ハ被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣厚生大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第十九條　徵用セラルヘキ者第十條ノ規定ニ依リ出頭スル場合、被徵用者徵用令書ノ交付ヲ受ケ指定ノ場所ニ出頭スル場合又ハ徵用ヲ解除セラレ歸鄉スル場合ニ於テハ旅費ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ前金拂ヲ爲スニ非サレハ出頭スルコト能ハサル者ノ旅費ハ其ノ者ノ居住地ノ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ一時繰替支辨スヘシ

徵用セラルヘキ者第十條ノ規定ニ依リ出頭スル場合ノ旅費及其ノ一時繰替支辨ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

被徵用者徵用令書ノ交付ヲ受ケ指定ノ場所ニ出頭スル場合

ノ旅費及其ノ一時繰替支辨並ニ徵用ヲ解除セラレ歸鄕スル場合ノ旅費ニ關シ必要ナル事項ハ被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣厚生大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第二十條 厚生大臣又ハ地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ徵用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徵スルコトヲ得

厚生大臣又ハ地方長官徵用ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ工場事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ徵用セス

一 陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（未タ入營セサル者ヲ除ク）及召集中ノモノ（召集中ノ身分取扱ヲ受クル者ヲ含ム）

二 陸海軍學生生徒（海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ヲ含ム）

三 陸海軍軍屬（被徵用者ニシテ之ニ該當スルニ至リタルモノヲ除ク）

四 警察關係者職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スヘキ者

五 獸醫師職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スヘキ者

六 船員法ノ船員、朝鮮船員令ノ船員及關東州船員令ノ船

七 法令ニ依リ拘禁中ノ者

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ特別ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ徵用セス

一 餘人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ル官吏、待遇官吏又ハ公吏

二 帝國議會、道府縣會、市町村會其ノ他之ニ準スヘキモノノ議員

三 總動員業務ニ從事スル者ニシテ餘人ヲ以テ代フヘカラサルモノ

第二十三條 厚生大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ職業紹介所長ヲシテ徵用ニ關スル事務ノ一部ヲ分掌セシメ又ハ市町村長（東京市、京都市、大阪市、名古屋市、橫濱市、及神戶市ニ在リテハ區長）若ハ之ニ準スヘキモノヲシテ徵用ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

市町村長（東京市、京都市、大阪市、名古屋市、橫濱市及神戶市ニ在リテハ區長）又ハ之ニ準スヘキモノノ前項ノ規定ニ依リ徵用ニ關スル事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ一時繰替支辨スヘシ

前項ノ費用及其ノ一時繰替支辨ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

第二十四條 厚生大臣ハ本令ノ施行ニ關スル重要事項ニ付內閣總理大臣ニ協議スヘシ

第二十五條 本令中厚生大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太長官又ハ南洋廳長官トシ總動員業務ヲ行フ官衙ノ所管大臣又ハ被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣トアルハ其ノ官衙ノ所管大臣カ陸軍大臣又ハ海軍大臣タル場合ヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス

本令中地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ職業紹介所長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹、郡守又ハ島司、臺灣ニ在リテハ市尹又ハ郡守（澎湖廳ニ在リテハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳、支廳長、南洋群島ニアリテハ南洋廳支廳長トス

第二十六條 本令ニ規定スルモノノ外徵用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本令ハ昭和十四年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

國民徵用令施行規則

厚生省令第十七號（昭和十四年七月十一日）

國民徵用令施行規則左ノ通定ム

國民徵用令施行規則

第一條 厚生大臣ノ發スル徵用命令、徵用變更命令又ハ徵用解除命令ハ文書ニ依リ之ヲ通達ス但シ緊急ニシテ之ニ依リ難キ場合ハ電信（至急官報）ニ依ル

第二條 地方長官徵用ノ適否其ノ他ヲ判定スル爲必要アリト認ムルトキハ職業紹介所長ヲシテ徵用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求メシムルコトヲ得

第三條 地方長官又ハ職業紹介所長徵用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求ムル場合ハ別表樣式第一號ニ依ル出頭要求書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付スヘシ

第四條 徵用セラルヘキ者出頭要求書ノ交付ヲ受ケタルトキハ出頭要求書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ屆出ツヘシ

第五條 徵用令書、出頭變更令書、徵用取消令書、徵用變更令書及徵用解除令書ハ別表樣式第二號ニ依ル

第六條 徵用令書、出頭變更令書及徵用取消令書ハ職業紹介所長又ハ市町村長（東京市、京都市、大阪市、名古屋市、

横濱市及神戸市ニ在リテハ區長以下之ニ同シ）若ハ之ニ準スヘキモノヲシテ徵用セラルヘキ者又ハ被徵用者ニ之ヲ交付セシムヘシ

第七條　徵用セラルヘキ者又ハ被徵用者徵用令書、出頭變更令書又ハ徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ該令書ニ添附シタル受領證ニ受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スヘシ

第八條　徵用セラルヘキ者又ハ被徵用者徵用令書又ハ出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ徵用令書又ハ出頭變更令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ屆出ツヘシ

第九條　國民徵用令（以下令ト稱ス）第十一條第一項ノ規定ニ依ル屆出ハ左ノ書類ヲ添附シ徵用令書ヲ發シタル地方長官ニ遲滯ナク之ヲ爲スヘシ

一　傷痍疾病ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書（已ムヲ得サル事情ニ因リ醫師ノ診斷書ヲ得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書）

二　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長若ハ之ニ準スヘキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書

第十條　令第十六條第一項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ發スル徵用變更命令又ハ徵用解除命令ハ被徵用者カ指定ノ場所ニ出頭スル前ニ在リテハ徵用令書ヲ發シタル地方長官被徵用者カ指定ノ場所ニ出頭シタル場合ニ在リテハ出頭地ヲ管轄スル地方長官、被徵用者カ總動員業務ニ從事スル場合ニ在リテハ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達ス

第十一條　令第十六條第二項ノ規定ニ依リ地方長官ノ發スル徵用變更令書又ハ徵用解除令書ハ被徵用者總動員業務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ者ヲ使用スル官衙ノ長ヲ經由シテ之ヲ交付スヘシ

第十二條　前條ノ規定ハ令第十六條第三項ノ規定ニ依リ厚生大臣ニ於テ徵用變更令書又ハ徵用解除令書ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　被徵用者徵用變更令書又ハ徵用解除令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ該令書ニ添附シタル受領證ニ受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スヘシ

第十四條　厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ徵用ニ關シ徵用セラルヘキ者又ハ其ノ者ヲ使用シ若ハ使用シタル者ヨリ報告ヲ徵スルコトヲ得

前項ノ報告ハ緊急ノ必要アル場合又ハ輕微ナル事項ニ付テハ職業紹介所長之ヲ徵スルコトヲ得

第十五條　當該官吏令第二十條第二項ノ規定ニ依リ臨檢スル場合ニハ別表樣式第三號ノ證票ヲ携帶スヘシ

附　則

本令ハ昭和十四年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式省略）

工場事業場技能者養成令

勅令第百三十一號（昭和十四年三月三十日）

朕工場事業場技能者飲成令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

工場事業場技能者養成令

第一條　國家總動員法第二十二條ノ規定ニ基ク工場及事業場ニ於ケル技能者ノ養成ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　厚生大臣ノ指定スル事業ニ屬スル工場又ハ事業場ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ事業主（以下事業主ト稱ス）ハ技能者ノ養成ヲ爲スヘシ但シ第一號ニ該當スル工場ハ事業場ノ事業主ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ厚生大臣ノ設可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　年齡十六年以上ノ男子勞働者ヲ當時二百人以上使用スル工場又ハ事業場

二　年齡十六年以上ノ男子勞働者ヲ當時二百人未滿五十人以上使用スル工場又ハ事業場ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノ

第三條　前條ノ規定ニ依リ養成セラルヘキ者（以下養成工ト稱ス）ノ員數ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　養成工ハ事業主ニ雇傭セラルル養成開始ノ際年齡十四年以上十七年未滿ノ男子ニシテ修養年限二年ノ高等小學校ヲ卒業シ若ハ青年學校普通科ノ課程ヲ修了シタルモノ又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認メタルモノナルコトヲ要ス

事業主ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）ノ許可ヲ受ケ養成工ノ年齡又ハ教育程度ニ付前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五條　事業主ハ養成工ニ對シ其ノ德性ヲ涵養シ中堅職工タルニ須要ナル知識及技能ヲ授クヘシ

第六條　養成工ノ養成期間ハ三年トス

前項ノ養成期間ハ養成ニ關スル施設ノ狀況其ノ他特別ノ事情ニ依リ養成上別段ノ支障ナキ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ二年迄短縮スルコトヲ得

養成ニ必要ナル時教ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ養成計畫ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

地方長官必要アリト認ムルトキハ養成計畫ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第八條　厚生大臣戰時（戰爭ニ準スヘキ事變ノ場合ヲ含ム）ニ際シ特別ノ必要アリト認ムルトキハ前五條ノ規定ニ拘ラス事業主ニ對シ短期ノ養成期間ニ依ル技能者ノ養成ヲ命スルコトヲ得

厚生大臣ハ前項ノ規定ニ依リ技能者ノ養成ヲ命セラレタル事業主ニ對シ前五條ノ規定ニ依ル技能者養成ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第九條 地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業主ニ對シ養成ヲ行フニ必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ命スルコトヲ得ヘキ設備ノ種類ハ工場又ハ事業場ノ規模ニ應シ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 他ノ法令ニ於テ就業時間ニ關スル規定アルトキハ養成工ノ養成ハ其ノ就業時間内ニ於テ之ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ養成ニ要スル時間ハ之ヲ就業時間ト看做ス

第十一條 事業主ハ養成工ヲシテ授業料其ノ他養成ヲ行フ爲必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 厚生大臣又ハ地方長官ハ技能者ノ養成ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十三條 厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ技能者ノ養成ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ養成ノ狀況又ハ之ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第十五條 厚生大臣ハ其ノ定ムル所ニ依リ本令ニ依リ技能者ノ養成ヲ爲ス者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

厚生大臣ハ本令ニ依ル技能者養成ニ因リ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ通常生スヘキ損失ヲ補償ス

損失ノ補償ヲ請求セントスル者ハ養成期間ノ終了後之ヲ請求スヘシ但シ厚生大臣ノ定ムル所ニ依リ別段ノ時期ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 本令中地方長官トアルハ内地ニ於ケル鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ニ付テハ鑛山監督局長トス

第十七條 本令中厚生大臣又ハ文部大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

本令中地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道府知事、臺灣ニ在リテハ臺灣鑛業規則ノ適用ヲ受クル事業ニ付テハ臺灣總督、其ノ他ノ事業ニ付テハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

附 則

本令ハ昭和十四年四月五日ヨリ之ヲ施行ス

工場事業場技能者養成令施行規則

厚生省令第三號（昭和十四年四月四日）

工場事業場技能者養成令施行規則左ノ通定ム

工場事業場技能者養成令施行規則

第一條 工場事業場技能者養成令（以下令ト稱ス）ニ基キ地方長官ニ對シ爲スヘキ申請又ハ報告ハ工場又ハ事業場別ニ工場又ハ事業場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ之ヲ爲スヘシ

第二條 令第二條但書ノ設可ノ申請ハ左ニ掲クル事項ヲ具シ工場又ハ事業場別ニ工場又ハ事業場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シテ之ヲ爲スヘシ

一 工場又ハ事業場ノ名稱及所在地

二 工場又ハ事業場ノ事業ノ種類

三 現ニ工場又ハ事業場ニ於テ令第二條ノ事業ニ使用セラルル者ニシテ國民職業能力申告令第二條第一號ニ該當スル要申告者（技術者ヲ除ク）タルモノノ員數

四 現ニ工場又ハ事業場ニ於テ令第二條ノ事業ニ使用セラルル者ニシテ令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成工タルノ資格ヲ有スルモノノ職種別員數

五 現ニ工場又ハ事業場ニ於テ養成工タル者ノ職種別員數

六 技能者ノ養成ヲ爲スコト困難ナル理由

第三條 養成工ノ養成ハ一月一日ヨリ二月末日迄ノ間ニ於テ技能者ノ養成ヲ爲スヘキ義務ノ生シタル者ニ在リテハ其ノ義務ノ生シタル年ヨリ、三月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ間ニ於テ技能者ノ養成ヲ爲スヘキ義務ノ生シタル者ニ在リテハ其ノ義務ノ生シタル年ノ翌年ヨリ毎年四月ニ於テ之ヲ開始スヘシ但シ厚生大臣又ハ地方長官ニ於テ特ニ養成開始ノ時期ヲ指定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 毎年養成ヲ開始スヘキ養成工ノ員數ハ其ノ年ノ前年十二月三十一日現在當該工場又ハ事業場ニ於テ令第二條ノ事業ニ使用セラルル者ニシテ國民職業能力申告令第二條第一號ニ該當スル要申告者（技術者ヲ除ク）タルモノノ員數ニ別ニ告示ヲ以テ定ムル比率ヲ乘シテ得タル員數（以下員數ト稱ス）以上トス

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス左ノ各號ノ一ニ該當スル工場又ハ事業場ニ付毎年養成ヲ開始スヘキ養成工ノ員數ヲ告示員數ノ二倍ヲ超エサル範圍内ニ於テ定ムルコトヲ得

一 年齡十六年以上ノ男子勞働者ヲ常時千人以上使用スルモノ

二　實習工場其ノ他養成ニ適スル施設ヲ有スルモノ

毎年十二月三十一日現在ニ於テ養成工ノ員數ニ關員アルトキハ其ノ翌年ニ於テ養成ヲ開始スヘキ員數ハ第一項又ハ前項ノ規定ニ依ル員數ニ其ノ關員ノ員數ヲ加ヘタル員數トス

第五條　令第二條ノ事業主（以下事業主ト稱ス）前條ノ規定ニ依ル養成ヲ開始スヘキ員數ノ養成工ノ養成ヲ開始スルコト困難ナルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ員數ノ全部又ハ一部ニ付養成ヲ開始セサルコトヲ得

前項認可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ之ヲ爲スヘシ

一　第二條第一號乃至第五號ニ揭クル事項

二　前條ノ規定ニ依ル養成ヲ開始スヘキ員數中養成ヲ開始スルコト困難ナル員數

三　養成ヲ開始スルコト困難ナル理由

第六條　事業主養成ヲ開始シタル養成工中堅職工タルノ見込ナシト認メタルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ養成工ノ養成工ヲ廢止スルコトヲ得

前項認可ノ申請ハ養成ヲ廢止セントスル養成工ノ氏名及中堅職工タルノ見込ナシト認メタル理由ヲ具シ之ヲ爲スヘシ

第七條　養成開始後養成工ノ員數ニ關員ヲ生シタルトキハ其ノ關員ヲ生シタル時期カ養成開始後三月以内ノ場合ニ限リ之ヲ補充スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ養成工ノ關員ヲ補充スルトキハ關員ヲ生シタル後遲滯ナク之ヲ補充スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リ補充シタル養成工ノ養成期間ハ前ノ養成工ノ殘存ノ期間トス

第八條　事業主養成開始後養成工ノ全部又ハ一部ノ員數ニ付養成ヲ繼續スルコト困難トナリタルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ員數ノ養成ヲ廢止スルコトヲ得

前項認可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ之ヲ爲スヘシ

一　第二條第一號乃至第號及第五號ニ揭クル事項

二　養成ヲ繼續スルコト困難ナル員數

三　養成ヲ繼續スルコト困難ナル理由

第九條　令第四條第二項ノ許可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ之ヲ爲スヘシ

一　第二條第一號乃至第五號ニ揭クル事項

二　許可申請ノ理由

第十條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ事業主ノ申請ニ依リ令第六條第二項ノ規定ニ依ル養成期間ノ短縮ヲ爲スコトヲ得

一　實習工場ニ於テ一年以上養成工ノ技能ヲ授クル場合

二　前號ノ外地方長官ニ於テ養成期間ヲ短縮スルモ養成上妨ケナシト認メタル場合

前項ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ之ヲ爲スヘシ

一　第二條第一號乃至第五號ニ揭クル事項

二　短縮セントスル期間

三　短縮セントスル理由

第十一條　令第六條第三項ノ養成ニ必要ナル時數ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、德性ノ涵養ニ充ツヘキ時數　毎年四十時間以上

二　中堅職工タルニ須要ナル知識ヲ授クルニ充ツヘキ時數

養成期間ヲ通シ七百二十時間以上

三　中堅職工タルニ須要ナル技能ヲ授クルニ充ツヘキ時數

養成期間ヲ通シ五千時間以上（令第六條第二項ノ規定ニ依リ養成期間ヲ短縮シタル場合ハ三千五百時間以上）

事業主ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項第二號ノ時數ヲ五百五十時間迄短縮スルコトヲ得

前項認可ノ申請ハ短縮セントスル時數及短縮セントスル理由ヲ具シ之ヲ爲スヘシ

第十二條　令第七條ノ養成計畫ハ養成ヲ開始スル毎ニ之ヲ定ムヘシ

第十三條　令第七條第一項ノ養成計畫ノ認可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ養成ヲ開始スヘキ年ノ二月十日ヨリ前二月二十日迄ノ間ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ一月一日ヨリ二月末日迄ノ間ニ於テ技能者ノ養成ヲ爲スヘキ義務ノ生シタル者ニ在リテハ三月二十日迄ニ之ヲ爲スヲ妨ケス

一　第二條第一號及第二號ニ揭クル事項

二　養成ヲ開始スヘキ年ノ前年十二月三十一日現在當該工場又ハ事業場ニ於テ令第二條ノ事業ニ使用セラルル者ニシテ國民職業能力申告令第二條第一號ニ該當スル要申"者（技能者ヲ除ク）タルモノノ職種別員數

三　養成ヲ開始スヘキ年ノ前年十二月三十一日現在當該工場又ハ事業場ニ於テ令第二條ノ使用セラルル者ニシテ令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成工タルノ資格ヲ有スルモノノ員數

四　養成ヲ開始スヘキ年ノ前年十二月三十一日現在ノ養成工ノ職種別員數

五　養成ヲ開始セントスル養成業ノ職種別員數

六　養成業ノ詮衡方法

七　養成工ヲ擔任スル者（以下養成指導員ト稱ス）ノ擔任事項別員數

八　教室、實習工場、寄宿舍其ノ他養成ニ關スル設備ニ關スル事項

九　養成工ノ德性涵以ニ充ツヘキ各年別時數

十　養成工ニ授クヘキ學科ノ種目及其ノ各種目ノ各年別授業時數

十一　養成工ノ實習種目及其ノ各種目ノ各年別實習時數

十二　養成工ノ養成期間中ニ於ケル賃金其ノ他ノ給與

十三　一日ノ就業時數（養成時數ヲ含ム）

十四　休日及休憩時間
十五　養成ニ要スル經費ノ概算
十六　養成工ノ全部又ハ一部ヲ學校又ハ當該工場若ハ事業場以外ノ施設ニ於テ養成セントスル場合ニ於テハ前各號ニ掲クルモノノ外左ニ掲クル事項
(一)　當該施設ノ名稱及所在地
(二)　當該施設ニ於テ養成セントスル養成工ノ職種別員數
(三)　養成工ヲシテ當該施設ニ於テ修習セシムヘキ事項
(四)　當該施設ニ於テ養成セントスル期間
十七　其ノ他養成ニ關スル事項

第三條但書ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス厚生大臣又ハ地方長官ノ指定シタル期間ニ於テ令第七條第一項ノ養成計畫ノ認可ノ申請ヲ爲スヘシ

第十四條　令第七條第一項ノ養成計畫變更ノ認可ノ申請ハ變更セントスル事項及理由ヲ具シ之ヲ爲スヘシ

第十五條　地方長官ハ令第九條ノ規定ニ依リ事業主ニ對シ養成指導員ヲ置クコトヲ、令第二條第一號ニ該當スル工場又ハ事業主ニ對シ教室又ハ其ノ附屬設備ノ設置ヲ、年齡十六年以上ノ男子勞働者ヲ常時千人以上使用スル工場又ハ事業主ニ對シ實習工場ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第十六條　令第十一條但書ノ許可ノ申請ハ左ニ掲クル事項ヲ具シ之ヲ爲スヘシ

一　第二條第一號及第二號ニ掲クル事項
二　養成工ヲシテ負擔セシメントスル費用ノ種目
三　許可申請ノ理由

第十七條　事業主養成指導員ヲ置キタルトキハ遲滯ナク其ノ者ノ氏名、履歷及擔任事項ヲ樣式第一號ニ依リ地方長官ニ報告スヘシ之ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十八條　事業主ハ工場又ハ事業場毎ニ樣式第二號ニ依ル養成工名簿ヲ備付クヘシ

養成工名簿ハ養成工ノ養成終了後五年間之ヲ保存スヘシ

第十九條　事業主ハ養成ノ狀況ヲ樣式第三號ニ依リ毎年六月三十日迄ニ地方長官ニ報告スヘシ

第二十條　令第十四條ノ證票ハ樣式第四號ニ依ルモノトス

第二十一條　本令中地方長官トアルハ鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ニ付テハ鑛山監督局長トシ其ノ他ノ事業ニ付テハ東京府ニ在リテハ警視總監トス

附　則

本令ハ工場事業場技能者養成令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際技能者ノ養成ヲ爲スヘキ義務アル者ハ第三條ノ規定ニ拘ラス昭和十四年ヨリ毎年養成ヲ開始スヘシ

前項ノ規定ニ依リ昭和十四年ヨリ開始スヘシ前項ノ規定ニ依リ昭和十四年ヨリ開始スヘキ養成ハ五月ニ於テ之ヲ開始シ其ノ養成計畫ノ認可ノ申請ハ第十三條中ノ申請期間ニ關スル規定ニ拘ラス昭和十四年四月二十日迄ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ養成ニ付テハ養成ヲ開始スヘキ養成工ノ人員ハ第四條中養成ヲ開始スヘキ年ノ前年十二月三十一日現在トアルヲ昭和十四年三月一日現在トシテ算定シタル員數トス

樣式第一號

養成指導員（變更）届

工場又ハ事業場ノ名稱								
所在地								
任免又ハ變更年月日	氏名	專任又ハ兼任ノ別	履歷	擔任事項				
	年月日生							

第三項ノ規定ニ依リ提出スヘキ養成計畫ノ認可ノ申請ニ付テハ第十三條第一項第二號及第三號中養成ヲ開始スヘキ年ノ前年十二月三十一日現在トアルヲ各々昭和十四年三月一日現在トス

昭和　年　月　日

住所
事業主氏名　（法人ニ在リテハ其名稱及代表者氏名）　㊞

工場事業場技能者養成令施行規則

地方長官宛

備考

一　本届書ノ用紙ノ大サハ國定規格B5判（182㎜×257㎜）トスルコト

二　氏名ノ左側ニ生年月日ヲ記載スルコト

三　工場又ハ事業場ノ業務ニ従事スル傍ラ養成ヲ擔任スル者ハ參任トシテ記載スルコト

四　履歴欄ニハ指導員ノ最後ニ卒業シタル學校名、學科名及職業ニ關スル履歴ノ概要ヲ記載スルコト

五　擔任事項欄ニハ指導員ノ擔任スル學科（修身及公民科ヲ含ム）名又ハ實習種目名等ヲ記載ノコト

六　變更ノ場合ハ各相當欄ニ其ノ變更要領ヲ記載シ變更届トシテ提出スルコト

様式第二號

（表面）　養成工名簿

職種		氏名及生年月日			
本籍					
雇入	年　月　日	貸金	年　月　日		
養成開始	年　月　日		年　月　日		
養成廢止	年　月　日		年　月　日		
養成終了	年　月　日		年　月　日		
學歷					
職歷					

（裏面）

備考

備考

一　本名簿ハ用紙ノ大サヲ國定規格B5判（182㎜×257㎜）トシカード式トスルコト

二　賃金ハ時給、日給ノ區別ヲ明ニシ尚變更アリタルトキハ其ノ年月日及變更額ヲ順次左方ニ記載スルコト

三　裏面備考欄ニハ養成ニ關スル經過等ヲ記載スルコト

様式第三號

養成狀況報告

工場又ハ事業場ノ名稱	

工場事業場技能者養成令施行規則

工場事業場技能者養成令施行規則

所在地	職種	六月一日現在ノ養成工ノ職種別員數				備考
		本年養成ヲ開始セルモノ	前年養成ヲ開始セルモノ	前々年以前ニ於テ養成ヲ終了シタル養成工ノ員數	計	
		人	人	人	人	

工場事業場技能者養成令施行規則第四條第一項ノ比率（昭和十四年分）

工場又ハ事業場ノ種類	比率
一　金屬製錬業	百分ノ四
二　金屬壓延業（金屬線製造業及金屬箔製造業ヲ除ク）	百分ノ四
三　鍛冶業	百分ノ四
四　鑄造業	百分ノ四
五　金屬熔接業	百分ノ四
六　金屬工用、木工用機械器具製造業（製鐵用機械器具製造業ヲ含ム）	百分ノ六
七　採鑛、選鑛、製錬用機械器具製造業	百分ノ六
八　銃砲、彈丸、水雷及兵器類製造業	百分ノ六
九　原動機製造業（汽罐、ガス發生機製造業ヲ含ム）	百分ノ六
十　電動機、電氣機械器具製造業	百分ノ六
十一　電氣通信機械器具製造業	百分ノ六
十二　化學工業用機械裝置製造業	百分ノ六
十三　ポンプ、水壓機、氣體壓縮機、送風機、弁及コック製造業	百分ノ六
十四　ベルト車、齒車、車軸及軸受製造業	百分ノ六
十五　造船業	百分ノ六
十六　鐵道軌道車輛製造業	百分ノ六
十七　航空機製造業	百分ノ六
十八　自動車、自動自轉車製造業	百分ノ六
十九　起重機製造業	百分ノ六
二十　計器、試驗檢定及學術用器械製造業	百分ノ六
二十一　光學機械器具製造業	百分ノ六
二十二　醫療器械製造業	百分ノ六

工場事業場技能者養成令施行細則

警視廳令第九號（昭和十四年四月二十日）

工場事業場技能者養成令施行細則左ノ通定ム

工場事業場技能者養成令施行細則

第一條　本令ニ於テ令ト稱スルハ工場事業場技能者養成令ヲ、規則ト稱スルハ工場事業場技能者養成令施行規則ヲ謂フ

第二條　令、規則ハ本令ニ依ル申請書又ハ屆書ハ工場又ハ事業場所在地ノ所轄警察署ヲ經由スヘシ

第三條　令第二條但書、第七條、規則第五條第一項、第八條第一項及第十條第一項ノ規定ニ依ル申請書ハ三通ヲ、其ノ他ノ申請書ハ二通ヲ提出スヘシ

第四條　令第二條ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定スル事業ニ屬スル工場又ハ事業場ニシテ年齡十六年以上ノ男子勞働者常時五十人以上ヲ使用スルモノノ事業主ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ十日以內ニ警視總監ニ屆出ッヘシ年齡十六年以上ノ男子勞働者常時二百人未滿五十人以上ヲ使行スル工場又ハ事業場ニシテ常時二百人以上ヲ使用スルニ至リタルトキ亦同シ

一　工場又ハ事業場ノ名稱、所在地及事業ノ種類

二　事業主ノ氏名及住所（法人タル事業主ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名以下之ニ同シ）

三　常時使用スル年齢十六年以上ノ男子勞働者數

四　現ニ工場又ハ事業場ニ於テ令第二條ノ事業ニ使用セラレル者ニシテ國民職業能力申告令第二條第一項ニ該當スル要申告者（技術者ヲ除ク）タル者ノ員數

五　現ニ工場又ハ事業場ニ於テ令第二條ノ事業ニ使用セラルル者ニシテ令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成工タルノ資格ヲ有スル者ノ職種別員數

前項第一號及第二項ノ事項ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク其ノ旨屆出ツヘシ

第五條　前條ノ事業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遲滯ナク警視總監ニ屆出ツヘシ

一　年齢十六年以上ノ男子勞働者常時二百人以上ヲ使用スル工場又ハ事業場ニシテ其ノ勞働者數二百人未滿トナリタルトキ

二　年齢十六年以上ノ男子勞働者常時五十人以上ヲ使用スル工場又ハ事業場ニシテ其ノ勞働者數五十人未滿トナリタルトキ

三　事業ヲ廢止シタルトキ

前項ノ屆書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　前條第一項第一號及第二號ニ揭クル事項

二　屆出當時使用スル年齢十六年以上ノ男子勞働者數

三　事業廢止ノ場合ニ在リテハ其ノ年月日

第六條　令第二條ノ事業主（以下事業主ト稱ス）養成工ノ一部ニ付令第四條第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ規則第九條ニ揭クル事項ノ外許可ヲ受ケントスル養成工ノ職種別員數ヲ記載スヘシ

第七條　事業主養成工ノ一部ニ付規則第十條第一項ノ規定ニ依ル養成期間短縮ノ申請ヲ爲サントスルトキハ申請書ニ同條第二項ニ揭クル事項ノ外短縮セントスル養成工ノ職種別員數ヲ記載スヘシ

第八條　事業主養成工ノ一部ニ付規則第十一條第二項ノ規定ニ依ル養成時數短縮ノ認可ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ同條第一項ニ揭クル事項ノ外短縮セントスル養成工ノ職種別員數ヲ記載スヘシ

第九條　事業主ハ技能者養成ニ關スル日誌ヲ作成シ記載スヘシ

第十條　事業主ハ養成ニ關スル時間ヲ作成シ教室又ハ事務所ノ見易キ箇所ニ揭示スヘシ

第十一條　事業主技能者養成ニ關スル規程ヲ作成シタルトキハ其ノ規程ノ第四條第一項第一號及第二號ニ揭クル事項ヲ具シ遲滯ナク警視總監ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦

同シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

工場事業場技能者養成補助規則

厚生省令第二十二號（昭和十四年七月十八日）

工場事業場技能者養成補助規則左ノ通定ム

工場事業場技能者養成補助規則

第一條　工場事業場技能者養成令第十五條第一項ノ規定ニ依ル補助金ハ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ本令ニ依リ之ヲ交付ス

第二條　補助金ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ交付ス

一　專任ノ養成指導員（以下專任指導員ト稱ス）ノ給料又ハ手當ニ付　二分ノ一以內

二　專任ニ非サル養成指導員ニシテ實習ヲ擔任スルモノ（以下實習指導員ト稱ス）ノ手當ニ付　一人當一年ニ付六十圓以內

三　教室及其ノ附屬設備ノ營繕費及之ニ伴フ初度調辨費ニ付　二分ノ一以內

四　養成工ヲ當該工場又ハ事業場以外ノ施設ニ委託シテ養成スル場合ノ授業料其ノ他ノ經費ニ付　二分ノ一以內

工場事業場技能者養成補助規則

年齢十六年以上ノ男子勞働者ヲ常時二百人未滿五十人以上使用スル工場又ハ事業場ノ事業主ニ對シ厚生大臣必要アリト認ムル場合ニ於テハ前項第一號、第三號、又ハ第四號ノ補助ノ率ヲ高メ又ハ前項第二號ノ額ヲ增加スルコトアルヘシ

第三條　年齢十六年以上ノ男子勞働者ヲ常時千人以上使用スル工場又ハ事業場ノ事業主ニ對シテハ厚生大臣特ニ補助スルノ必要アリト認ムル經費ニ對スルモノノ外補助金ヲ交付セス

第四條　補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ工場又ハ事業場別ニ左ニ揭クル事項ヲ具シ每年五月三十一日迄ニ當該工場又ハ事業場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官（鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ニ付テハ鑛山監督局長トシ其ノ他ノ事業ニ付テハ東京府ニ在リテハ警視總監トス以下之ニ同シ）ヲ經由シテ厚生大臣ニ申請スヘシ

一　工場又ハ事業場ノ名稱、所在地及事業ノ種類

二　常時使用スル年齢十六年以上ノ男子勞働者ノ員數

三　其ノ年三月一日ヨリ翌年二月末日迄ノ間ニ於ケル專任指導員ノ員數及手當所要額

四　其ノ年三月一日ヨリ翌年二月末日迄ノ間ニ於ケル實習指導員ノ員數及給料又ハ手當所要額

五　其ノ年三月一日ヨリ翌年二月末日迄ノ間ニ於ケル教室

及其ノ附屬設備ノ營繕費竝ニ之ニ伴フ初度調辨費ニ關シ左ニ揭クル事項

イ　教室及其ノ附屬設備ヲ建設セントスル場所

ロ　教室ノ構造室數平面圖及各教室ノ坪數竝ニ收容人員

ハ　教室ノ附屬設備ノ種目及各種目別ノ構造及坪數

ニ　教室及其ノ附屬設備ノ營繕費ノ額及其ノ內譯

ホ　教室及其ノ附屬設備ノ營繕ノ着手及完成豫定年月日

ヘ　初度調辨費ノ額及其ノ內譯

六　養成工ノ委託ニ關シ左ニ揭クル事項

イ　養成工ヲ委託セントスル施設ノ名稱及所在地

ロ　其ノ年三月一日ヨリ翌年二月末日迄ノ間ニ於テ委託セントスル養成工ノ職種別員數竝ニ所要經費ノ種目及額

第五條　前條ノ申請ニシテ二以上ノ工場又ハ事業場ノ共同養成施設ニ對スル補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ當該養成施設ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ其ノ代表者ニ於テ之ヲ爲スヘシ

一　當該養成施設ニ於テ養成工ヲ養成シ又ハ養成セントスル工場又ハ事業場ノ名稱、所在地及事業ノ種類

二　前號ノ工場又ハ事業場ニ於テ常時使用スル年齡十六年以上ノ男子勞働者ノ員數

三　當該養成施設ニ於テ養成シ又ハ養成セントスル養成工ノ職種別員數竝ニ所要經費ノ種目及額

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中五月三十一日迄トアルハ昭和十四年ニ限リ八月三十一日迄トス

工場就業時間制限令

勅令第百二十七號（昭和十四年三月三十日）

脫工場就業時間制限令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

ノ工場又ハ事業場別ノ職種別員數

四　當該養成施設ニ於テ養成工ヲシテ修習セシムヘキ事項

五　前條第三號乃至第五號ニ揭クル事項前項ノ申請書ニハ申請者ノ代表者タルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第六條　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者補助金ノ交付ヲ請求セントスルトキハ每年三月五日迄ニ補助金交付請求書ニ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ間ニ於ケル第四條第三號乃至第六號ニ規定スル經費ノ支出精算書ヲ添附シ第四條又ハ第五條ノ補助金交付ノ申請ヲ經由シタル地方長官ニ提出スヘシ

第七條　補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキハ厚生大臣ハ補助金交付ノ指令ヲ取消シ、補助金額ヲ減少シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

附　則

第一條　國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク工場ニ於ケル就業時間ノ制限ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニシテ厚生大臣ノ指定スル事業ヲ營ムモノニ之ヲ適用ス

第三條　工業主ハ十六歲以上ノ男子職工ヲシテ二日ニ付十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

第四條　工業主ハ十六歲以上ノ男子職工ニ對シ每月少クトモ二同ノ休日ヲ設ケ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ

第五條　十六歲以上ノ男子職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル爲又ハ業務ノ性質上特ニ必要アル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ工業主ハ勞務ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）ニ屆出テ第三條ノ就業時間ヲ延長スルコトヲ得

第六條　已ムヲ得サル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第三條ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ又ハ第四條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度遲滯ナク地方長官ニ屆出テ一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以內延長スルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ遲滯ナク地方長官ニ屆ツヘシ

第七條　厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ就業時間ノ制限ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ工業主ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第八條　本令ハ國ノ事業ニ之ヲ適用セス

第九條　本令中工場法ノ適用ヲ受クル工場トアルハ朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ在リテハ常時十人以上ノ職工ヲ使用スル工場樺太ニ在リテハ工場取締規則ノ適用ヲ受クル工場トシ十六歲以上ノ男子職工トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ職工トス

本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長廳トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

附　則

本令ハ昭和十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

工場就業時間制限令施行規則

厚生省令第七號（昭和十四年四月十九日）

工場就業時間制限令施行規則左ノ通定ム

工場就業時間制限令施行規則

第一條 工業主左ニ掲クル場合ニ於テハ工場就業時間制限令（以下令ト稱ス）第五條ノ規定ニ依リ必要ナル限度ニ於テ就業時間ノ延長ヲ爲スコトヲ得

一 十六歳以上ノ男子職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テ交替班ノ就業時ヲ轉換スル爲又ハ交替時ニ作業ノ引繼ヲ爲サシムル爲特ニ必要アルトキ

二 炉、汽罐、原動機又ハ起重機等ノ取扱ニ從事セシムル爲特ニ必要アルトキ

三 機械ノ保全、設備ノ修理、工具ノ出納、掃除等補助的業務ニ專ラ從事セシムル爲特ニ必要アルトキ

四 其ノ他前各號ニ準スル場合

第二條 令第五條ノ屆出書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 工場ノ名稱所在地及事業ノ種類

二 工場主ノ氏名及住所（法人タル工業主ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名）

三 常時使用スル男女別職工數

四 所定ノ就業時間、休憩時間、業休日及十六歳以上ノ男子職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ就業時間轉換ニ關スル事項

五 延長セントスル就業時間

六 就業時間ノ延長ヲ必要トスル作業ノ種類及其ノ作業ニ從事スル十六歳以上ノ男子職工數

七 就業時間ノ延長ヲ必要トスル事由

第三條 令第六條第一項ノ許可ノ申請書ニハ前條第一號乃至第四號ノ事項ノ外左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 就業時間ヲ延長シ又ハ休日ヲ廢セントスル期間

二 延長セントスル就業時間又ハ廢セントスル休日

三 就業時間ノ延長ヲ必要トシ又ハ休日ノ廢止ヲ必要トスル作業ノ種類及其ノ作業ニ從事スル十六歳以上ノ男子職工數

四 就業時間ノ延長ヲ必要トシ又ハ休日ノ廢止ヲ必要トスル事由

第四條 令第六條第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受クルコトヲ要セサル場合左ノ如シ

一 災害事故等ニ因リ緊急ノ處置ヲ必要トスルトキ

二 工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ管理スル工場ニ於テ同令ニ基キ作業時間ノ延長ヲ命セラレタルトキ

第五條 令第六條第二項ノ屆出書ニハ第二條各號ノ事項ノ外就業時間ヲ延長セントスル期間ヲ記載スヘシ

第六條 令第六條第三項ノ屆出書ニハ第二條第一號乃至第四號ノ事項ノ外左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 就業時間ヲ延長シ又ハ休日ヲ廢シタル期間

二 延長ヲ爲シタル就業時間又ハ廢シタル休日

三 就業時間ノ延長ヲ爲シ又ハ休日ヲ廢シタル作業ノ種類及其ノ作業ニ從事シタル十六歳以上ノ男子職工數

四 就業時間ノ延長ヲ必要トシ又ハ休日ノ廢止ヲ必要トシタル事由

第七條 令第七條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記樣式ニ依ル

附則

本令ハ昭和十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式省略）

工場就業時間制限令ニ依ル書類提出方

警視廳令第十四號（昭和十四年五月一日）

工場就業時間制限令ニ依ル書類提出方　適用事業指定ニ關スル件　從業者移動防止令

工場就業時間制限令ニ依リ警視總監ニ提出スヘキ申請書（正副二通）又ハ屆書ハ工場所在地所轄警察署長ヲ經由スヘシ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

適用事業指定ニ關スル件

厚生省告示第七十四號（昭和十四年四月十九日）

工場就業時間制限令第二條ノ事業ヲ左ノ通指定ス

一 機械製造業

二 船舶車輛製造業

三 器具製造業

四 金屬品製造業

五 金屬精錬業

警視廳令第十四號

工場就業時間制限令ニ依リ警視總監ニ提出スヘキ申請書（正副二通）又ハ屆書ハ工場所在地所轄警察署長ヲ經由スヘシ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年五月一日

從業者移動防止令

勅令第七百五十號

第一條　従業者移動防止令従業者移動防止ノ爲ニスル國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ）第六條ノ規定ニ基ク従業者ノ雇入及使用ノ制限竝ニ解雇ニ關スル命令ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ指定従業者ト稱スルハ年齢十四年以上六十年未滿ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモヲ謂フ

一　厚生大臣ノ指定スル事業ヲ行フ工場事業場其ノ他ノ場所ニ於テ引續キ一月以上雇傭契約ニ基キ指定勞務者トシテ使用セラレ本令施行後ニ於テ雇傭ヲ終了シ且其ノ雇傭ヲ終了シタル日ヨル一年ヲ經過セサル者

二　前號ノ事業ヲ行フ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ於テ引續キ一月以上雇傭契約ニ基キ指定勞務者トシテ使用セラレ本令施行後ニ於テ雇傭ヲ終了シ且其ノ雇傭ヲ終了シタル日ヨル一年ヲ經過セサル者

三　引續キ一月以上雇傭契約ニ基キ厚生大臣ノ指定スル技術者（以下指定技術者ト稱ス）トシテ使用セラルル者

四　引續キ一月以上雇傭契約ニ基キ指定技術者トシテ使用セラレ本令施行後ニ於テ其ノ雇傭ヲ終了シ且其ノ雇傭ヲ終了シタル日ヨリ一年ヲ經過セサル者

第三條　何人ト雖モ工場若シクハ事業場ニ於テ使用スル爲又ハ前條第一號又ハ第三號ノ指定従業者ニ對シ自ラ又ハ他人ヲシテ其ノ被傭者タルコトヲ勸誘セシムルコトヲ得ス他人ノ工場若ハ事業場ニ於テ使用セシムル爲又ハ指定技術者トシテ使用セシムル爲他人ノ被傭者タルコトヲ勸誘シ又ハ勸誘セシムルコト亦同シ

第四條　工場若ハ事業場ニ於テ使用スル爲又ハ指定技術者トシテ使用スル爲他人ヲ雇入レントスルトキハ豫メ其ノ者カ指定従業者ナルヤ否ヲ確認スルコトヲ要ス但シ職業紹介所ノ紹介ニ依リ雇入ルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

指定従業者工場若ハ事業場ニ於テ使用セラルル爲又ハ指定技術者トシテ使用セラルル爲雇入レラレントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ其ノ前歷ニ關スル事項ヲ職業紹介所長ニ報告スヘシ但命令ヲ以テ定ムル場合此ノ限ニ在ラス

前項ノ報告ハ職業紹介所ノ紹介ニ依ラスシテ雇入レラレントスル場合ニ在リテハ雇入レントスル者ヲ經由シテ之ヲ爲スヘシ

第五條　工場若ハ事業上ニ於テ使用スル爲又ハ指定技術者トシテ使用スル爲雇入レントスル者カ指定従業者ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ職業紹介所長ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ雇入ルルコトヲ得ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ

此ノ限ニ在ラス

第六條　何人ト雖モ勞務供給契約ニ基キ工場又ハ事業場ニ於テ指定従業者ヲ使用ルコトヲ得ス

第七條　職業紹介所長第五條ノ認可ノ申請ニ付不正又ハ虚僞ノ事實アリト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトヲ得

第八條　第五條ノ規定ニ違反シテ指定従業者ヲ雇入レタル者アルトキハ職業紹介所長ハ其ノ者ニ對シ指定従業者ヲ解雇スヘキコトヲ命スルコトヲ得前條ノ規定ニ依リ認可ノ取消ヲ爲シタルトキハ亦同シ

第九條　地方長官従業者ノ移動ヲ防止スル爲必要アリト認ムルトキハ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ於テ指定技術者又ハ指定勞務者ヲ雇傭スル者ニ對シ指定従業者以外ノ従業者ノ雇入ノ方法ニ關シ制限ヲ爲スコトヲ得

第十條　何人ト雖モ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス第五條又ハ第六條ノ規定ニ依ル制限ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　厚生大臣、地方長官又ハ職業紹介所長必要アリト認ムルトキハ指定従業者ノ雇入、使用又ハ解雇ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ關係人ヨリ報告ヲ徵スルコトヲ得

第十二條　厚生大臣、地方長官又ハ職業紹介所長必要アリト認ムルトキハ指定従業者ノ雇入又ハ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ指定従業者ヲ雇入レ若ハ雇入レントスル者又ハ使用シ若ハ使用セントスル者ノ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第十三條　第三條乃至第五條、第七條、第十條及第十一條ノ規定ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニ於テ指定従業者ヲ吏員トシテ採用スル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　本令ハ國又ハ道府縣ニ於ケル従業者ノ雇入又ハ使用ニハ之ヲ適用セス

第十五條　本令ハ學校卒業者使用制限令及青少年雇入制限令ノ適用ヲ妨ケス

第十六條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋郡島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ職業紹介所長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹、郡守又ハ島司、臺灣ニ在リテハ市長又ハ郡守（澎湖廳ニ在リテハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳支廳長トシ職業紹介所トアルハ朝鮮ニ在リテハ國トシ道府縣トアルハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ

南洋群島朝鮮ニアリテハ地方費トス

本令中職業紹介所ニ關スル規定ハ臺灣及南洋群島ニ在リテハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ昭和十五年十一月二十ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十二月五日ヨリ之ヲ施行ス

從業者雇入制限令ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本令施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

本令施行ノ際現ニ從業者雇入制限令第一條第二號又ハ第四號ニ當該スル者ニシテ本令施行前ニ於テ其ノ履修ヲ終了シタルモノハ其ノ履修セラレタル場所カ第二條第一號ノ事業ヲ行フ工場事業場其ノ他ノ場所ニ該當スル場合又ハ其ノ者カ指定技術者ニ該當スル場合ニ於テハ從業者雇入制限令第二條第二號ノ學校卒業者ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ履修終了後一年間、其ノ他ノ者ニ在リテハ其ノ履修終了後六月間之ヲ本令ノ規定ニ依ル指定從業者ト看做ス

從業者雇入制限令第一條第二號ノ學校卒業者指定

厚生省告示第六十一號(昭和十四年四月十日)

從業者雇入制限令第一條第二號ノ學校卒業者ヲ左ノ通リ指定ス

左ノ學校ニ於テ左ノ學科ヲ修メ其ノ學校ヲ卒業シタル者

學　校

一　大　學

(一)　大學ノ工學部及理工學部

(二)　旅順工科大學

二　專門學校

(一)　工業ニ關スル專門學校

(二)　朝鮮及臺灣ノ工業ニ關スル專門學校

(三)　南滿洲工業專門學校

三　實業學校

(一)　工業學校(大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム)並ニ朝鮮及臺灣ノ工業學校(大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム)ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ

(イ)　尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ五年以上トスルモノ

(ロ)　高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ三年(夜間授業ノモノニ在リテハ四年)以上トスルモノ

(ハ)　前二號ト同號以上ノモノ

(ニ)　工業學校規程第十一條ノ二又ハ臺灣公立工業學校規則第四條ノ規定ニ依リ設ケタル第二部

(二)　大連工業學校

(三)　撫順工業學校

四　各種學校

(一)　工業學校ニ準スヘキ私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ一年以上トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ

學　科

一　大　學

(一)　機械工學科(北海道帝國大學工學部第三部類ヲ含ム)

(二)　船舶工學科(造船學科ヲ含ム)

(三)　航空學科

(四)　造兵學科

(五)　電氣工學科(北海道帝國大學工學部第四部類ヲ含ム)

(六)　應用化學科(工業化學科、化學工業科及電氣化學科ヲ含ム

(七)　採鑛冶金學科、鑛山及冶金學科、採鑛學科、冶金學科、金屬工學科、應用金屬學科及北海道帝國大學工學部第二部類甲ヲ含ム)

(八)　火藥學科

(九)　燃料化學科(北海道帝國大學工學部第二部類乙ヲ含ム)

(一)及(五)乃至(七)ノ學科ノ中早稻田大學ノ工業經營分科ハ之ヲ除ク

二　專門學校(專門學校ニ非サル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ三年以上トスルモノヲ含ム)

(一)　機械工學科(精密機械科及鑛山機械科ヲ含ム)

(二)　造船工學科

(三)　航空工學科

(四)　電氣工學科

(五)　應用化學科(電氣化學科ヲ含ム)

（六）採鑛冶金學科（採鑛學科、鑛山工學科、鑛山學科、冶金學科、冶金工學科及採炭工學科ヲ含ム）

（七）燃料學科

三　工業學校（大正十一年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條又ハ大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノ竝ニ專門學校及實業學校ニ非サル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ一年以上三年未滿トスルモノ竝ニ之ト同等ノモノヲ含ム）

（一）機械科（機械工作科、精密機械科、精密機械工作科、計器科、原動機科、採鑛機械科、電氣機械科、電機機科、電氣機械工作科、機械電氣科、化學機械科、木型科、鑄工科、鍛工科、鑄工冶金科、鍛工冶金科、其ノ他機械科ニ準スヘキ校科ヲ含ム）

（二）造船科

（三）航空科（機體製作科及航空機關科ヲ含ム）

（四）電氣科

（五）應用化學科（工業化學科、化學工業科、電氣化學科其ノ他應用化學科準スヘキ學科ヲ含ム）

（六）採鑛冶金科（採鑛科及冶金科其ノ他之ヲ準スヘキ學科ヲ含ム）

青少年雇入制限令

勅令第三十六號（昭和十五年一月三十一日）

朕青少年雇入制限令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

青少年雇入制限令

第一條　青少年ノ國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ）第六條ノ規定ニ基ク雇入制限ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ青少年ト稱スルハ年齡十二年以上三十年未滿ノ男子又ハ年齡十二年以上二十年未滿ノ女子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサルモノヲ謂フ

一　大學、大學豫科、高等師範學校、高等學校高等科、專門學校、實業專門學校、師範學校又ハ厚生大臣ノ指定スル學校（養成所ヲ含ム）ヲ卒業又ハ修了シタル者

二　學校卒業者使用制限令第一條ノ卒業者ニシテ前號ニ該當セサルモノ

三　厚生大臣ノ指定スル檢定若ハ試驗ニ合格シタル者又ハ厚生大臣ノ指定スル免許ヲ受ケタル者

四　其ノ他厚生大臣ノ指定スル者

第三條　男子タル青少年（以下男子青少年ト稱ス）ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外之ヲ雇入ルルコトヲ得ス

一　男子青少年ノ雇傭員數カ命令ヲ以テ定ムル員數ニ滿タサル場合ニ於テ其ノ員數ニ滿ツル迄之ヲ雇入ルル場合

二　厚生大臣ノ指定スル事業ヲ營ム者其ノ事業ニ使用スヘキ男子青少年ノ雇入ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合

三　男子青少年ヲ雇傭シ得ヘキ總員數ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ職業紹介所長ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ員數ニ滿ツル迄之ヲ雇入ルル場合

四　入營（應召ノ場合ヲ含ム以下同シ）ヲ命セラレタル青少年ヲ解雇シタル場合又ハ雇傭スル青少年ノ入營雇傭期間ノ滿了シタル場合ニ於テ其ノ青少年カ退營（入營ノ際行フ身體檢査ノ結果歸鄉ヲ命セラレタル場合ヲ含ム）シタル日ヨリ三月以內ニ再ヒ之ヲ雇入ルル場合

五　其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合

第四條　女子タル青少年（以下女子青少年ト稱ス）ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外厚生大臣ノ指定スル業務（以下指定業務ト稱ス）ニ使用スル爲之ヲ雇入ルルコトヲ得ス

一　指定業務ニ使用スル女子青少年ノ雇傭員數カ命令ヲ以テ定ムル員數ニ滿タサル場合ニ於テ其ノ員數ニ滿ツル迄之ヲ雇入ルル場合

青少年雇入制限令

二　指定業務ニ使用スル女子青少年ヲ雇傭シ得ヘキ總員數ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ職業紹介所長ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ員數ニ滿ツル迄之ヲ雇入ルル場合

三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合

第五條　地方長官第三條第二號ノ認可ノ申請ニ付不正又ハ虛僞ノ事實アリト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトヲ得

職業紹介所長第三條第三號又ハ前條第二條ノ認可ノ申請ニ付不正又ハ虛僞ノ事實アリト認ムルトキハ認可シタル員數ヲ減少シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第六條　厚生大臣又ハ地方長官ハ青少年ノ雇入ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條　厚生大臣地方長官又ハ職業紹介所長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ青少年ノ雇入ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徵スルコトヲ得

第八條　地方長官又ハ職業紹介所長必要ト認ムルトキハ青少年ノ雇入ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ青少年ヲ雇入レタル者又ハ雇入レントスル者ノ工場、事業場、事務所、店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第九條　年齢十二年未滿ノ者ヲ雇入レ引續キ其ノ者ヲ雇傭スル場合ニ於テハ本令ノ適用ニ付テハ其ノ者カ年齢十二年ニ達スル時ニ於テ新ニ雇入ルルモノト看做ス但シ此ノ場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ新ナル雇入ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依ル認可ノ申請アリタルトキハ其ノ申請ニ對スル認可又ハ不認可ノ處分アル時ニ新ニ雇入ルルモノト看做ス

第十條　本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業（命令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク）ニ使用スル爲又ハ船員トシテ使用スル爲青少年ヲ雇入ルル場合ニハ之ヲ適用セス

一　土地ノ耕作若ハ開墾又ハ植物ノ栽植、栽培、採取若ハ伐採ノ事業其ノ他ノ農業又ハ林業

二　動物ノ飼育又ハ水產動物ノ採捕若ハ養殖ノ事業其ノ他ノ畜產業、養蠶業又ハ水產業

第十一條　本令ハ國、道府縣竝ニ市町村及之ニ準スヘキモノ其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノノ青少年ノ雇入ニハ之ヲ適用セス

第十二條　本令ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ於ケル女子青少年ノ雇入ニハ之ヲ適用セス

第十三條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ職業紹介所長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹、郡守又ハ島司臺灣ニ在リテハ市尹又ハ郡守（澎湖廳ニ在リテハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳支廳長トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方廳トス

附　則

本令ハ昭和十五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ第三條第二號ノ事業ヲ營ム者ハ本令施行後六十日間ヲ限リ同條同號ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第九條ノ規定ハ本令施行前年齢十二年未滿ノ者ヲ雇入レ引續キ其ノ者ヲ雇傭スル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

青少年雇入制限令施行規則

厚生省令第二號（昭和十五年二月十五日）

青少年雇入制限令施行規則左ノ通定ム

青少年雇入制限令施行規則

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ青少年雇入制限令（以下令ト稱ス）第二條第四號ノ規定ニ依リ令第二條ノ青少年（以下青少年ト稱ス）タラサルモノトス

一　軍人又ハ之ニ準スヘキ者（軍屬ヲ含ム）トシテ戰鬪其ノ他ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニシテ其ノ固定シタル症狀恩給法施行令第二十四條、第二十四條ノ二又ハ第三十一條ニ規定スル傷病ノ程度ニ達スルモノ

二　職業紹介所長ニ於テ身體ノ障碍ニ因リ作業能力著シク劣レルモノト認定シタル者

前項第二號ノ認定ヲ受ケントスル者ハ樣式第一號ニ依リ居住地ノ所轄職業紹介所長ニ申請スヘシ

第二條　令第三條第一號ノ員數ハ工場、事業場、事務所、店舖其ノ他男子青少年ヲ雇傭スル場所（本則施行地外ニ在ルモノヲ除ク）毎ニ昭和十四年十二月三十日現在ニ於テ雇傭シ居リタル男子青少年（日日雇傭シ居リタル者又ハ三十日未滿ノ期間ヲ定メテ雇傭シ居リタル者ヲ除ク）ノ員數ノ百分ノ七十ニ相當スル員數ト雇傭ノ算定ニ付一未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ端數ハ之ヲ一トシテ計算スルモノトス

男子青少年ヲ雇入ルル日ニ於テ現ニ雇傭スル男子青少年中ニ入營（應召ノ場合ヲ含ム）中ノ者アルトキハ其ノ員數ヲ前項ノ規定ニ依リ算定シタル員數ニ加ヘタル員數ヲ以テ令第三條第一號ノ員數トス

第三條　令第三條第二號ノ認可ヲ受ケントスル者ハ樣式第二號ニ依リ工場事業場其ノ他男子青少年ヲ雇傭スル場所ノ所在地ノ所轄職業紹介所長ヲ經由シテ當該場所ノ所在地ノ所轄地方長官ニ申請スヘシ但シ工場、事業場其ノ他男子青少年ヲ雇傭スル場所カ本則施行地外ニ在ルトキハ本則施行地內ニ於ケル主タル事務所ノ所在地（主タル事務所ナキ場合ハ主トシテ雇入ヲ爲スヘキ地）ノ所轄地方長官ニ申請スヘシ

第四條　地方長官必要ト認ムルトキハ令第三條第二號ノ認可ニ期限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第五條　令第三條第三號ノ認可ヲ受ケントスル者ハ樣式第三號ニ依リ工場、事業場、事務所、店舖其ノ他男子青少年ヲ雇傭スル場所ノ所在地ノ所轄職業紹介所長ニ申請スヘシ

第六條　職業紹介所長必要ト認ムルトキハ令第三條第三號ノ認可ニ期限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第七條　令第三條第五號ノ場合トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合トス

一　日日男子青少年ヲ雇入スル場合

二　三十日未滿ノ期間ヲ定メテ男子青少年ヲ雇入ルル場合

三　事業ノ經營其ノ他ノ事由ノ爲特ニ必要アル場合ニ於テ特定ノ男子青少年ノ雇入ニ付職業紹介所長ノ認可ヲ受ケタル場合

四　工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ管理スル工場又ハ事業場ニ於テ同令ニ基キ人員ノ增加ヲ命セラレタル場合

五　營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ從前雇傭シ居リタル男子青少年ヲ引續キ雇入ルル場合

六　工場、事業場、事務所、店舗其ノ他男子青少年ヲ雇傭スル場所カ本則施行地外ニ在ル場合ニ於テ男子青少年ノ雇入員數ニ付厚生大臣又ハ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合

前項第二號ノ規定ニ依リ雇入レタル男子青少年ヲ所定ノ期間ヲ超エテ引續キ雇傭セントスル場合ハ所定ノ期間ヲ滿了スル時ニ於テ其ノ者ヲ新ニ雇入ルルモノト看做ス

第一項第一號ノ規定ニ依リ雇入レタル男子青少年ヲ三十日ヲ超エテ引續キ雇入ルル場合又ハ前項ノ場合ハ第一項第一號又ハ第二號ニ該當セサルモノトス

第一項第三號ノ認可ヲ受ケントスル者ハ樣式第四號ニ依リ工場、事業場、事務所、店舗其ノ他男子青少年ヲ雇傭スル場所ノ所在地ノ所轄職業紹介所長ニ申請スヘシ

第十條　令第四條第二號ノ認可ヲ受ケントスル者ハ樣式第六號ニ依リ女子青少年ヲ雇傭スル場所ノ所在地ノ所轄職業紹介所長ニ申請スヘシ

第十一條　令第四條第三號ノ場合トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合トス

一　營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ從前雇傭シ居リタル女子青少年ヲ引續キ雇入ルル場合

二　女子青少年ヲ雇傭スル場所カ本則施方地外ニ在ル場合

第一項第六號ノ認可ヲ受ケントスル者ハ樣式第五號ニ依リ雇入ヲ爲スヘキ地力二道府縣以上ニ亘リ且雇入レントスル男子青少年ノ員數カ三十人以上ナル場合ニ在リテ厚生大臣ニ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ雇入ヲ爲スヘキ地ノ所轄地方長官ニ申請スヘシ

第八條　厚生大臣又ハ地方長官必要ト認ムルトキハ前條第一項第六號ノ認可ニ期限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第九條　令第四條第一號ノ員數ハ女子青少年ヲ雇傭スル場所（本則施行地外ニ在ルモノヲ除ク）毎ニ昭和十四年十二月三十一日現在ニ於テ令第四條ノ業務（以下指定業務ト稱ス）ニ使用スル爲雇傭シ居リタル女子青少年ノ員數ノ百分ノ六十ニ相當スル員數トス員數ノ算定ニ付一未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ端數ハ之ヲ一トシテ計算スルモノトス

第十條　令第四條第二號ノ認可ヲ受ケントスル者ハ樣式第六號ニ依リ女子青少年ヲ雇傭スル場所ノ所在地ノ所轄職業紹介所長ニ申請スヘシ

第十一條　令第四條第三號ノ場合トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合トス

一　營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ從前雇傭シ居リタル女子青少年ヲ引續キ雇入ルル場合

二　女子青少年ヲ雇傭スル場所カ本則施方地外ニ在ル場合ニ於テ女子青少年ノ雇入員數ニ付職業紹介所長ノ認可ヲ受ケタル場合

前項第二號ノ認可ヲ受ケントスル者ハ樣式第七號ニ依リ雇入ヲ爲スヘキ地ノ所轄職業紹介所長ニ申請スヘシ

第十二條　第六條ノ規定ハ第七號第一項第三號、前號第二號及令第四號第二號ノ認可ニ付之ヲ準用ス

第十三條　雇傭主カ其ノ雇傭スル青少年ニ付工場、事業場、事務所其ノ他青少年ノ使用ノ場所間ニ所屬ノ移動ヲ行フ場合ニ於テハ令ノ適用ニ付テハ後ノ使用ノ場所ニ於テ其ノ者ヲ新ニ雇入ルルモノトス

第十四條　當時五人以上ノ男子青少年ヲ雇傭スル者ハ工場、事業場、事務所、店舗其ノ他男子青少年ヲ雇傭スル場所毎ニ樣式第八號ニ依ル青少年雇傭名簿ヲ備付ケ男子青少年ノ雇入解雇ニ關スル事項ヲ記載スヘシ但シ工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ニ使用スル男子青少年ニ付テハ職工名簿又ハ鑛夫名簿ヲ以テ青少年雇傭名簿ニ代フルコトヲ得

前項指定ハ指定業務ニ使用スル女子青少年ヲ常時五人以上雇傭スル者ニ付之ヲ準用ス

第十五條　令第七號ノ規定ニ依ル報告ハ青少年雇入ノ關係人ヨリ之ヲ徵ス

第十六條　令第八條第二項ノ證票ハ樣式第九號ニ依ルモノトス

第十七條　令第九條但書ノ認可ヲ受ケントスル者ハ年齡十二年末滿ニ於テ雇入レタル者カ年齡十二年ニ達スル日前十日目迄ニ申請スヘシ

第十八條　令第十一號ノ規定ニ依リ左ニ揭クルモノノ青少年ノ雇入ニハ令ハ之ヲ適用セス

一　神　社

二　水利組合

三　北海道土功組合

第十九條　地方長官又ハ職業紹介所長ニ對シ爲スヘキ申請又ハ報告ハ工場、事業場、事務所、店舗其ノ他青少年ヲ雇傭スル場所毎ニ之ヲ爲スヘシ

附　則

本則ハ青少年雇入制限令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式省略）

青少年雇入制限令ニ依ル指定

厚生省告示第二十六號（昭和十五年二月十五日）

青少年制限令第二條第一號ノ學校（養成所ヲ含ム）ヲ左ノ通指定ス

一　學習院高等科

二　臨時教員養成所

三　實業學校教員養成所
四　水產講習所
五　神宮皇學館本科
六　青年學校教員養成所
七　商業學校（大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ノ學科ヲ含ム）
八　商業學校
九　海員養成所（日本海員掖濟會海員養成所ヲ含ム）
十　產業組合學校
十一　專門學校又ハ實業專門學校ニ非サル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ三年以上トスルモノ及之ト同等以上ノモノ
十二　朝鮮、臺灣、樺太、關東洲、南洋群島又ハ外國ニ於ケル學校（養成所ヲ含ム）ニシテ大學、大學豫科、高等師範學校、高等學校高等科、專門學校、實業專門學校、師範學校又ハ前各號ニ揭クル學校（養成所ヲ含ム）ニ相當スルモノ

厚生省告示第二十七號（昭和十五年二月十五日）

青少年雇入制限令第二條第三號ノ檢定、試驗又ハ免許ヲ左ノ通指定ス

一　實業學校卒業程度檢定規程ニ依ル商業學校卒業程度ノ檢定
二　電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依ル電氣事業主任技術者ノ資格檢定
三　無線電信士資格檢定規則ニ依ル無線通信士ノ檢定
四　航空法第十六條ノ規定ニ依ル考查
五　瓦斯事業法施行規則第四十五條ノ規定ニ依ル鑑衡
六　銃砲火藥類取締法施行細則第四條又ハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル鑑衡
七　壓縮瓦斯取締法施行令第十一條ノ規定ニ依ル鑑衡
八　船舶職員法ニ依ル船舶職員試驗
九　教員免許令ニ依ル教員ノ免許
十　小學校令ニ依ル教員ノ免許
十一　醫師法ニ依ル醫師ノ免許
十二　齒科醫師法ニ依ル齒科醫師ノ免許
十三　獸醫師法ニ依ル獸醫師ノ免許
十四　藥劑師法ニ依ル藥劑師ノ免許
十五　踏繼工免許規則ニ依ル踏繼工ノ免許
十六　汽罐取締令ニ依ル汽罐士ノ免許
十七　自動車取締令ニ依ル運轉免許（普通免許ニ限ル）
十八　電氣工事人取締規則ニ依ル電氣工事人ノ免許
十九　電話規則第四十條ノ規定ニ依ル資格認定

厚生省告示第二十八號（昭和十五年二月十五日）

青少年雇入制限令第三條第二號ノ事業ヲ左ノ通指定ス

一　採鑛業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業
（一）金鑛鑛業
（二）石炭鑛業
（三）石油鑛業
（四）其ノ他ノ鑛業ニシテ左ニ揭クルモノ
（イ）燐鑛鑛業
（ロ）黑鉛鑛業
（ハ）硫黃鑛業

二　土石採取業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業
（一）アルミニウム原鑛採取業
（二）石灰耐火材原材料、石綿採取業
（三）瑩石、ドロマイト採取業

三　紡績工業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業
（一）製絲業（軍需用、輸出用ノモノニ限ル）
（二）人造絹絲製造業（同右）
（三）人造纖維製造業（同右）
（四）紡績業（同右）
（五）綴物（フエルトヲ含ム）業（同右）
（六）編物、組物製造業（同右）
（七）染色整理加工業（同右）

四　金屬工業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業

（一）製鐵業（原材料品製造業ヲ含ム）
（二）非鐵金屬製錬業
（三）非鐵金屬材料品製造業
（四）鑄物業（機械用ノモノニ限ル）
（五）鑄物以外ノ金屬製品製造業（軍需用輸出用ノモノニ限ル）
（六）鍛金製造業（同右）
（七）シヤーリング業

五　機械器具工業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業
（一）蒸汽罐製造業
（二）ガス發生裝置製造業
（三）原動機製造業
（四）電氣機械器具（家庭用電氣器具ヲ除ク）製造業
（五）電線及電纜製造業
（六）無線及有線電信電話機械器具（家庭用ラヂオ用具ヲ除ク）製造業
（七）電池製造業
（八）農林漁業用機械器具製造業
（九）土木建築用機械器具製造業
（十）採鑛選鑛及製錬用機械器具製造業
（十一）製織用機械器具製造業
（十二）工作機械器具（部分品ヲ含ム）製造業

（十三）化學工業用機械裝置（製紙用機械ヲ含ム）製造業
（十四）起重機製造業
（十五）昇降機製造業（工場事業場用ノモノニ限ル）
（十六）氣體壓縮機製造業
（十七）ポンプ、水壓器及送風機製造業
（十八）計器製造業
（十九）試驗檢定及學術用器械製造業
（二十）醫療器製造業
（二十一）測量及製圖機械器具製造業
（二十二）照明用機械器具製造業（軍需用、輸出用、工場事業用ノモノニ限ル）
（二十三）光學機械器具製造業（同右）
（二十四）車輛（部分品附屬品ヲ含ム）製造業ニシテ左ニ揭クルモノ
（イ）鐵道及軌道用車輛製造業
（ロ）自動車（部分品及附屬品ヲ含ム）製造業
（ハ）自動車製造業
（ニ）貨物運搬車製造業
（二十五）造船業（部分品及附屬品製造業ヲ含ム）
（二十六）航空機（部分品及附屬品ヲ含ム）製造業
（二十七）工具及軸受製造業
（二十八）ベル下車、齒車、車輛及車軸製造業

六　兵器及兵器部分品製造業
七　窯業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業
（一）陶磁器製造業（軍需用、輸出用ノモノニ限ル）
（二）碍子及碍管製造業
（三）ガラス及ガラス製品製造業（軍需用、輸出用ノモノニ限ル）
（四）耐火物製造業
（五）セメント製造業
（六）セメント製品製造業
（七）琺瑯鐵器製造業（軍需用、輸出用ノモノニ限ル）
八　化學工業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業
（一）製藥（農業藥品ヲ含ム）業
（二）工業藥品製造業
（三）染料及中間物製造業
（四）人造ゴム及精生ゴム製造業
（五）履皮材料製造業
（六）塗料及顏料製造業
（七）發火物製造業（軍需用、輸出用、工場事業場用ノモノニ限ル）
（八）石油精製業
（九）人造石油（頁岩油ヲ含ム）製造業
（十）コークス及コールタール分溜物製造業

（十一）代用液體燃料製造業
（十二）植物油脂製造業（軍需用輸出用ノモノニ限ル）
（十三）動物油脂製造業（同右）
（十四）加工油製造業（同右）
（十五）ゴム製品製造業（軍需用、輸出用、工場事業場用ノモノニ限ル）
（十六）人造樹脂及同製品製造業
（十七）パルプ製造業
（十八）製紙業
（十九）アセチルセルローズ製品製造業
（二十）ヴアルガナイズドファイバー製造業
（二十一）寫眞用フイルム乾板及感光紙製造業（軍需用、輸出用、醫療用ノモノニ限ル）
（二十二）肥料製造業
（二十三）製鹽業
（二十四）製革業（軍需用、輸出用、工場事業場用ノモノニ限ル）
（二十五）撚革製造業
（二十六）研磨材料及研磨用品製造業
（二十七）炭素製品製造業
（二十八）大豆カゼイン工業
九　製材及合板業

十　食料品工業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業
（一）味噌、醬油、食酢製造業
（二）製粉業
（三）澱粉製造業
（四）製糖業
（五）罐詰製造業（軍需用、輸出ノモノニ限ル）
（六）畜產品製造業（同右）
（七）水產品製造業（同右）
（八）製茶業（同右）
十一　電氣及瓦斯業
十二　其ノ他ノ工業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業
（一）綿及麻綢繆製造業
（二）衛生材料品（脫脂綿ヲ含ム）製造業
（三）石綿及雲母製品製造業
（四）燐寸製造業
（五）機械用ベルト製造業
（六）配合飼料製造業
十三　運輸業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業
（一）鐵道及軌道業
（二）自動車業ニシテ左ニ揭クルモノ
（イ）乘合自動車業
（ロ）貨物自動車業

(三) 海運業(鮮業ヲ含ム)
(四) 航空業
(五) 其ノ他ノ運輸業
十四 通信業ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業
(一) 電氣通信業
(二) 郵便物運送請負業
十五 土木建築請負業
十六 農林水産業ノ改良指導ニ關スル事業
十七 前各號ニ揚ケサル軍需品輸出品製造加工業
厚生省告示第二十九號(昭和十五年二月十五日)
青少年雇入制限令第四條ノ業務ヲ左ノ通指定ス
一 左ノ營業ニ關スル業務
(一) 料理店業(割烹店業、飲食店業、酒場業、カフエー業、喫茶店業、ミルクホール業其ノ他之ニ類スルモノヲ含ム)
(二) 貸席業(貸座敷業、待合茶屋業、芝居茶屋業、遊船宿業其ノ他之ニ類スルモノヲ含ム)
(三) 娯樂場業(遊園地業、遊技場〔撞球、麻雀、ゴルフ、射的其ノ他公衆ヲシテ遊技ヲ爲サシムル場所ヲ謂フ〕業、舞踏場〔舞踏教授所ヲ含ム〕業其の他之ニ類スルモノヲ含ム)
(四) 興行場業(劇場業、映畫館業、演藝場業其ノ他之ニ類スルモノヲ含ム)

二 藝妓(見習中ノ者ヲ含ム)、酌婦其ノ他之ニ類スル業務

學校卒業者使用制限令

勅令第五百九十九號(昭和十三年八月二十四日)

第一條 厚生大臣ノ指定スル大學、專門學校、實業學校其ノ他之ニ準スヘキ各種學校ニ於テ厚生大臣ノ指定スル學科ヲ修メ其ノ學校ヲ本令施行後ニ於テ卒業スル者(以下卒業者ト稱ス)ノ國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク使用制限ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 卒業者ヲ雇傭契約ニ基キ使用セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ學校ノ程度及學科別ニ各年ノ卒業者ノ使用員數ニ付厚生大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 厚生大臣前條ノ認可ノ申請ニ付不正又ハ虚僞ノ事實アリト認ムルトキハ認可シタル員數ヲ減少シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第四條 厚生大臣必要ト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ認可ヲ申請シタル者又ハ卒業者ヲ使用スル者ニ付卒業者ノ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徴スルコトヲ得

厚生大臣又ハ地方長官必要ト認ムルトキハ卒業者ノ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ第二條ノ認可ヲ申請シタル者又ハ卒業者ヲ使用スル者ノ工場、事業場又ハ事務所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

第五條 本令ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニ於テ卒業者ヲ吏員トシテ使用スル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 本令ハ國又ハ道府縣ニ於ケル卒業者ノ使用ニハ之ヲ適用セス

第七條 本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ、地方長官トアル朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアル朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

學校卒業者使用制限令施行規則

厚生省令第二十三號(昭和十三年八月二十六日)

學校卒業者使用制限令施行規則

第一條 學校卒業者使用制限令(以下令ト稱ス)第二條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ卒業者ノ卒業ノ前年九月末日迄ニ樣式第一號ニ依リ申請スヘシ

第二條 前條ノ申請ニ對スル認可ヲ爲シタル後ニ於テ使用シ得ヘキ卒業者アルトキ其ノ他特別ノ必要アルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス令第二條ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第三條 令第二條ノ認可ノ申請ハ工場、事業場又ハ事務所別ニ之ヲ爲スヘシ

第四條 令第二條ノ認可ヲ受ケタル者卒業者ヲ使用シ又ハ使用セサルニ至リタルトキハ遲滯ナク樣式第二號ニ依リ卒業者ノ勤務スル工場、事業場又ハ事務所所在地ノ所轄地方官ヲ經由シテ厚生大臣ニ報告スヘシ

第五條 令第四條第二項ノ規定ニ依リ當該官吏臨檢スル場合ニハ樣式第三號ノ證票ヲ携帶スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

秘

學校卒業者使用認可申請書

																記號番號
1 工場、事業場又ハ事務所ノ名稱			2 所在地						3 事業ノ種類							
4 申請員數	學科別 / 學校程度別		機械	造兵	造船	航空	電氣	應用化學	採鑛冶金	火藥	燃料	計				
	大學卒業															
	專門學校卒業															
	實業學校卒業															
5 利用率	軍需	%	官需	%	民需	%	7 主要生産(販賣)品目									
6 初任給	大學卒業	圓	專門學校卒業	圓	實業學校卒業	圓										

8 技術者及從業員ノ者數竝從業者數ニ對スル技術者數ノ割合

區別		學科別	機械	造兵	造船	航空	電氣	應用化學	採鑛冶金	火藥	燃料	計
申請ノ前年七月一日現在ノ狀況	技術者	大學卒業										
		專門學校卒業										
		實業學校卒業										
		計										
	從業者數											
	從業者數ニ對スル技術者數ノ割合		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
申請ノ年七月一日現在ノ狀況	技術者	大學卒業										
		專門學校卒業										
		實業學校卒業										
		計										
	從業者數											
	從業者數ニ對スル技術者數ノ割合		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%

場合ノ狀況												
申請員數全部ヲ採用シタル	技術者	大學卒業										
		專門學校卒業										
		實業學校卒業										
		計										
	從業者數											
	從業者數ニ對スル技術者數ノ割合		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%

9 申請ノ理由	10 備考

昭和　　年　　月　　日

住所又ハ所在地
氏名又ハ名稱　　㊞

商務省ヘ出ス

一、本書面ハ大サ日本標準規格A四判(210mm×297mm)ニ依ルコト
二、本書面ニハ收入印紙ヲ貼用スルコト

3　事業ノ種類欄(3)ニハ國勢調査産業分類ノ中分類ニ依リ記入スルコト

4　利用率欄(5)ノ記入ハ申請ノ年ノ一月一日ヨリ六月末日ニ至ル六月間ニ於ケル生産金額ニ依ルコト尚鑛業又ハ製鐵事業等原料素材製造業ニ在リテハ本欄ノ記入ヲ要セサルコト

5　利用率欄(5)中軍需トハ軍ニ直接納入シタルモノ其ノ他軍ノ用ニ供セラレタルモノヲ謂ヒ官需トハ官ニ直接納入セラレタルモノ（軍需ヲ除ク）ヲ謂フコト

6　初任給欄(6)ニハ給料等ノ基本額ヲ記入シ加給又ハ諸手當ヲ含マシメサルコト尚日給又ハ月給等ノ區別ヲ明ニスルコト

7　學校程度ハ下ノ例ニ依リ區分スコルト

(1)　大學ノ工學部及理工學部、旅順工科大學

(2)　專門學校

イ　工業ニ關スル專門學校、朝鮮及臺灣ノ工業ニ關スル專門學校、南滿洲工業專門學校

ロ　專門學校ニ非サル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ三年以上トスルモノ

(2)　實業學校

イ　工業學校（大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム）並ニ朝鮮及臺灣ノ工業學校（大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム）ニシテ下記各號ノ一ニ該當スルモノ

1　尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシ修業年限ノ五年以上トセルモノ

2　高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ三年以上トスルモノ

3　前二號ト同等以上ノモノ

4　工業學校規程第十一條ノ二又ハ臺灣公立工業學校規則第四條ノ規定ニ依リ設ケタル第二部

ロ　大連工業學校及撫順工業學校

ハ　實業學校及專門學校ニ非サル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ一年以上三年未滿トスルモノ並ニ之ト同等ノモノ

8　學科ハ下ノ例ニ依リ區分スルコト

(1)　機械——機械工學科、鑛山機械科、精密機械科、計器科、原動機科、電氣機械科、機械電氣科、化學機械科、木型科、鑄工科、鍛工科其ノ他之ニ準スヘキ學科

(2)　造兵——造兵學科

(3)　造船——船舶工學科、造船學科其ノ他之ニ準スヘキ學科

(4)　航空——航空學科其ノ他之ニ準スヘキ學科

(5)　電氣——電氣工學科其ノ他之ニ準スヘキ學科

(6)　應用化學——應用化學科、電氣化學科、化學工業科、工業化學科其ノ他之ニ準スヘキ學科

(7)　採鑛冶金——採鑛學科、冶金學科、鑛山工學科、金屬工學科、應用金屬學科其ノ他之ニ準スヘキ學科

(8)　火藥——火藥學科

(9)　燃料——燃料學科其ノ他之ニ準スヘキ學科

9　大學卒業者ヲ希望スルモ之ヲ得ラレサルトキハ專門學校卒業者ノ配當ヲ受ケタキ希望アルトキ等第二次的希望アルトキハ其ノ旨備考欄(10)ニ記載スルコト

10　從業者數ノ欄(8)ニハ技術者ヲ含マサル從業者數ヲ記載スルコト尚工場、鑛山ニ付テハ職工鑛夫ノ數ヲ記載スルコト

11　從業者數ニ對スル技術者數ノ割合ノ欄(8)ニハ學科別技術者數ノ從業者數ニ對スル百分比ヲ記入スルコト

12　申請員數全部ヲ採用シタル場合ノ狀況欄(8)中從業者數ハ其ノ見込數ヲ記入スルコト

13　申請ノ理由ノ欄(9)ニハ現在ニ於ケル技術者不足ノ狀況、今後一年間ニ於ケル生産施設擴充計畫（臨時資金調整法ニ依ル認許可アリタルモノハ其ノ認許可ノ年月日、番號及認許可アリタル事項ノ概要ヲ記載ノコト）及之ニ伴フ要員數（技術者及其ノ他ノ勞働者別）交替制採用ノ計畫及之ニ伴フ要員數（技術者及其ノ他ノ勞働者別）充足シ得サル場合ノ支障ノ程度、使用セントスル卒業者及從前ヨリ使用スル技術者配置ノ豫定並ニ使用セントスル卒業者ヲシテ從事セシムヘキ業務ノ態樣其ノ他ノ參考事項等ヲ記載スルコト

14　鑛業、紡織工業、金屬工業、機械器具工業、窯業及化學工業ニ在リテハ申請ノ前年ニ於ケル生産金額及數量並ニ申請ノ年及其ノ翌年ニ於ケル生産見込金額及數量ヲ主要生産品目（陸、海軍ヨリ直接受註ノモノヲ除ク）別ニ記載シタル別表調書ヲ添附スルコト

15　工場、事業場以外ノ事務所ニ勤務セシムヘキ卒業者ニ付申請スル場合ニ於テ關係工場、事業場アルトキハ各工場、事業場別ニ申請書樣式中4及6ヲ除ク各欄ニ其ノ狀況ニ付記載シタル書類ヲ作成添附スルコト此ノ場合當該關係工場、事業場ニ所屬セシムヘキ者ニ付別途申請スルトキハ其ノ旨備考欄(10)ニ記載シ上ノ書類ノ添附ヲ要セサルコト

16　特ニ斟酌スヘキ事情ノ有スルトキハ其ノ詳細ヲ備考欄(10)ニ記載スルコト

別表

主要生産品目名	申請ノ前年ニ於ケル生産額		申請ノ年ニ於ケル生産見込額		申請ノ翌年ニ於ケル生産見込額	
	金額	數量	金額	數量	金額	數量

（註）1　本表ノ用紙ノ大サハ國定規格A5判（148mm×210mm）又ハA4判（210mm×279mm）トスルコト

2　生産ニ關スル數量ノ單位ハ任意トスルモ全記載ヲ通シ統一スルコト

3　各品目毎ニ生産額ノ內輸出ニ向ケタル額ヲ朱書併記スルコト

樣式第二號

記號番號		學校卒業者使用届					
工場、事業場又ハ事務所	名稱		所在地				
使用開始又ハ解雇ノ年月日	從事セシムル業務ノ種類	卒業學校名	修了シタル學科	氏名		備考	

昭和　年　月　日　　住所又ハ所在地

使用者　氏名又ハ名稱　㊞

記載上ノ注意

1　本報告ハ工場、事業場又ハ事務所別ニ作成スルコト

2　本報告ノ用紙ノ大サハ國定規格B5判（182mm×257mm）トスルコト

3　本報告ノ報届ハ使用届出ニ在リテハ解雇ヲ、使用セサルニ至リタル届書ニ在リテハ使用ノ文字ヲ抹消スルコニ

4　學校名ハ其ノ固有ノ名稱ヲ記載スルコト

5　解雇ノ報告ニハ其ノ理由ヲ備考欄ニ記載スルコト

17　當該工場、事業場、事務所等ノ創立年月日ヲ備考欄(10)ニ記載スルコト

18　申請書ハ厚生省勞務局長宛提出スルコト

樣式第三號

（表面）

學校卒業者使用制限ニ關スル臨檢票

本票ノ用紙ノ大サハ國定規格A7判（74mm×105mm）トシ中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス

（裏面）

第　號　昭和　年　月　日交付

官職　厚生省又ハ地方長官

氏名　㊞

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

學校卒業者使用制限令第四條第二項　厚生大臣又ハ地方長官必要ト認ムルトキハ卒業者ノ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ第二條ノ届出ノ受理、申請ノタルニ關スル事務又ハ卒業者ヲ使用スル者ノ工場、事業場又ハ事務所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

學校卒業者使用制限令第一條ノ學校指定

厚生省告示第百十九號(昭和十三年八月二十六日)

學校卒業者使用制限令第一條ノ學校ヲ左ノ通指定ス

大學

一 大學ノ工學部及理工學部

二 旅順工科大學

專門學校

一 工業ニ關スル專門學校

二 朝鮮及臺灣ノ工業ニ關スル專門學校

三 南滿洲工業專門學校

實業學校

一 工業學校(大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム)竝ニ朝鮮及臺灣ノ工業學校(大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム)

(一) 業年限ヲ五年以上トスルモノ

(二) 高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ三年(夜間授業ノモノニ在リテハ)四年以上トスルモノ

(三) 前二號ト同等以上ノモノ

(四) 工業學校規程第十一條ノ二又ハ臺灣公立工業學校規則第四條ノ規定ニ依リ設ケタル第二部

二 大連工業學校

三 撫順工業學校

各種學校

一 工業學校ニ準スヘキ私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ一年以上トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ(夜間授業ノモノヲ除ク)

學校卒業者使用制限令第一條ノ學科指定

厚生省告示第百二十號(昭和十三年八月二十六日)

學校卒業者使用制限令第一條ノ學科ヲ左ノ通指定ス

大學

一 機械工學科(北海道帝國大學工學部第三部類ヲ含ム)

二 船舶工學科(造船學科ヲ含ム)

三 航空學科

四 造兵學科

五 電氣工學科(北海道帝國大學工學部第四部類ヲ含ム)

六 應用化學科(工業化學科及化學工業科及電氣化學科ヲ含ム)

七 採鑛冶金學科(鑛山及冶金學科、採鑛學科、冶金學科、金屬工學科、應用金屬學科及北海道帝國大學工學部第二部類甲ヲ含ム)

八 火藥學科

九 燃料化學科(北海道帝國大學工學部第二部類乙ヲ含ム)

一及五乃至七ノ學科ノ中早稻田大學ノ工業經營分科ハ之ヲ除ク

專門學校(專門學校ニ非サル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ三年以上トスルモノヲ含ム)

一 機械工學科(精密機械科及鑛山機械科ヲ含ム)

二 造船工學科

三 航空工學科

四 電氣工學科

五 應用化學科(電氣化學科ヲ含ム)

六 採鑛冶金科(採鑛學科、鑛山工學科、鑛山學科、冶金學科、冶金工學科及採炭工學科ヲ含ム)

七 燃料學科

工業學校(大正十一年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條又ハ大正十一年朝鮮總督府令第九號實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノ竝ニ專門學校及實業學校ニ非サル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ一年以上三年未滿トスルモノ竝ニ之ト同等ノモノヲ含ム)

一 機械科(計器科、原動機科、採鑛機械科、電氣機械科、機械電氣科、化學機械科、木型科、鑄工科、鍛工科其ノ他機械科ニ準スヘキ學科ヲ含ム)

二 造船科

三 航空科(機體製作科及航空機關科ヲ含ム)

四 電氣科

五 應用化學科(工業化學科、化學工業科、電氣化學科其ノ他應用化學科ニ準スヘキ學科ヲ含ム)

六 採鑛冶金科(採鑛科及冶金科其ノ他之ニ準スヘキ學科ヲ含ム)

國勢調査産業分類

大分類	中分類	小分類
一、農業	一、農耕	略
	二、畜産	略
	三、蠶業	略
	四、其ノ他ノ農業	略
二、水産業	五、林業	略
	六、漁業	略
三、鑛業	七、採鑛業	一八、金屬鑛業
		一九、石炭鑛業（亞炭ヲ含ム）
		二〇、石油鑛業
	八、土石採取業、窯業、土石加工業	二一、其ノ他ノ採鑛業
		二二、土石採取業
		二三、瓦、土管製造
四、工業	九、	二四、煉瓦製造
		二五、陶磁器、土器製造
		二六、硝子、硝子品製造
		二七、七寶燒、琺瑯品製造
		二八、セメント、石炭石膏類製造
		二九、セメント品、人造石製造
		三〇、其ノ他ノ土石類加工業
	一〇、金屬工業	三一、精錬業—官營
		三二、精錬業—私營
		三三、金屬壓延業—官營
		三四、金屬壓延業—私營
		三五、電線、電纜製造
		三六、鍛冶業
		三七、鑄造業
		三八、釘、鉄、針類製造

		三九、金屬薄板品製造
		四〇、鋼索製造針金細工
		四一、建築用、家具用金物製造
		四二、鑄金業
		四三、其ノ他ノ金屬工業
		四四、金屬工用、木工用機械器具製造
		四五、採鑛、選鑛、精錬用機械器具製造
		四六、紡織機械器具製造
		四七、農業用、土木建築用機械器具製造
		四八、鉄砲、彈丸、水雷製造—官營
		四九、鉄砲、彈丸、水雷製造—私營
		五〇、原動機製造（汽罐、瓦斯發生機ヲ含ミ電動機ヲ除ク）—官營
		五一、原動機製造（汽罐、瓦斯發生機ヲ含ミ電動機ヲ除ク）—私營
		五二、電動機、電氣機械器具製造—官營
		五三、電動機、電氣機械器具製造—私營
		五四、電氣通信機械器具製造
		五五、電球製造
		五六、其ノ他ノ機械器具製造
		五七、電氣機械器具裝置
		五八、其ノ他ノ機械器具裝置
		五九、造船業—官營
		六〇、造船業—私營
		六一、鐵道軌道車輛製造—官營
		六二、鐵道軌道車輛製造—公營
		六三、鐵道軌道車輛製造—私營
		六四、航空機製造—官營
		六五、航空機製造—私營
		六六、自動車、自動自轉車製造
一一、機械器具製造裝置業	一二、造船業、運搬用具製造業	

六七、自轉車製造
六八、其ノ他ノ運搬用具製造
一三、精巧工業
六九、器械、科學的機械器具製造
七〇、光學機械器具製造
七一、醫療機械器具製造
七二、業器製造
七三、時計製造
七四、貴金屬、寶石、飾石細工
一四、化學工業
七五、藥品、寫業、寫業類似品製造
七六、染料、顏料、塗料製造
七七、肥料製造
七八、火藥其ノ他ノ發火物製造—官營
七九、火藥其ノ他ノ發火物製造—私營
八〇、燐寸製造
八一、護謨、護謨品製造（護謨靴ヲ含ム）
一五、紡織工業
八二、セルロイド、セルロイド品製造（セルロイド玩具ヲ含ム）
八三、繊物油精製
八四、動植物油脂製造
八五、石鹸、化粧品製造
八六、木蠟、蠟製合製造
八八、煉炭、骸炭製造、乾餾
八八、其ノ他ノ化學工業
八九、生絲製造
九〇、人造絹絲製造
九一、眞綿製造
九二、綿製造
九三、絹絲紡績
九四、毛絲紡績
九五、麻絲紡績
九六、綿絲紡績

九七、撚絲業
九八、麻絲業、絲返業
九九、絹織物製造
一〇〇、毛織物製造
一〇一、麻織物製造
一〇二、綿織物製造
一〇三、其大小、莫大小品製造
一〇四、組物、組物類製造
一〇五、網、網類製造（漁網製品ヲ含マズ）
一〇六、刺繍業
一〇七、其ノ他ノ紡織、紡織品製造
一〇八、漂白、精練、染色、捺染等ノ絲布加工
一〇九、湯煮、浸抜、洗張、洗濯業
一一〇、衣服裁縫業
一一一、帽子製造
一一二、足袋、シャツ、肩掛類製造
一六、被服、身裝品製造業
一一三、袋物製造
一一四、扇子、團扇、提燈、傘、合羽類製造
一一五、洋傘、杖類製造
一一六、履物類製造
一一七、（護謨靴ヲ除ク）
一一八、其ノ他ノ身裝品製造
一七、紙工業、印刷業
一一九、紙料、紙製造
一二〇、紙製品製造
一二一、製版、印刷業
一二二、製本業
一二三、機具業
一二四、寫眞業
一八、皮革、羽毛品類製造業
一二五、皮革、靴革、其ノ製品製造
一二六、骨、角、甲、牙、貝類細工
一二七、刷毛其ノ他ノ羽毛品類製造
一二八、製材、合板製造

五、南 業 二五、物品販賣業、二六、
業 二六、媒介周旋
業 二七、金融保險
略
略
略

三二、其ノ他ノ運輸、通信業	略		
三三、運輸取扱業	略		
三三、公務、自由業	略		
三四、法務	略		
三五、教育	略		
三六、宗教	略		
三七、醫療	略		
三八、著述、藝術	略		
三九、其ノ他ノ自由業	略		
四〇、家事	略		
四一、其ノ他ノ產業	略		
四二、無職	略		

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於ケル場合ヲ含ム以下同）第六條ノ規定ニ基ク賃金ノ統制ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ勞務者ト稱スル左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ屬傭セラレ勞働ニ從事スル者又ハ他人ニ屬傭セラレ厚生大臣ノ指定スル勞働ニ從事スル者ヲ謂フ但シ命令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク

一　鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他鑛物採取ノ事業

二　物ノ製造、加工、淨洗、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業（電氣、瓦斯又ハ各種動力ノ發生、變更又ハ傳導ヲ爲ス事業及水道ノ事業ヲ含ム）

三　土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、破壞又ハ其ノ準備ノ事業

四　道路、鐵道、軌道、索道、船舶又ハ航空機ニ依ル旅客又ハ貨物ノ運送ノ事業

五　船渠、船舶、岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ノ取扱ノ事業

六　土地ノ耕作若ハ開墾又ハ植物ノ栽培、採取若ハ伐採ノ事業其ノ他ノ農業又ハ林業

七　動物ノ飼育又ハ水產動物採捕若ハ養殖ノ事業其ノ他ノ畜產業、養蠶業又ハ水產業

八　物品ノ販賣又ハ保管ノ事業

第三條　本令ニ於テ賃金ト稱スルハ賃金、給料、手當、賞與其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハス勞務者ヲ屬傭スル者（以下屬傭主ト稱ス）カ勞働ノ對價トシテ支給スル金錢、物其ノ他ノ利益ヲ謂フ

賃金ノ全部又ハ一部カ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナルトキハ其ノ評價ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

第四條　命令ヲ以テ定ムル屬傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賃金規則ヲ作成シ勞務者ニ周知セシムヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條　前條ノ屬傭主ハ賃金規則ニ依リ賃金ノ支拂ヲ爲スコトヲ要ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　第四條ノ屬傭主ハ同條ノ規定ニ依リ賃金規則ヲ作成シタルトキハ十四日以內ニ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ之ヲ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下同シ）ニ報告スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第七條　地方長官ハ賃金規則ニ記載シタル事項カ本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ著シク不適當ト認ムルトキハ屬傭主ニ對シ之カ變更ヲ命スルコトヲ得

第八條　厚生大臣ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ賃金算定方法又ハ賃金支拂方法ニ關シ賃金統制上必要ナル命令ヲ發シ又ハ

處分ヲ爲スコトヲ得

第九條　厚生大臣又ハ地方長官ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ一定ノ勞務者ニ付最低賃金ヲ定ムルコトヲ得

雇傭主ハ前項ノ最低賃金ノ定アル勞務者ニ付其ノ最低賃金ノ額ヲ下ル賃金ヲ以テ之ヲ雇傭スルコトヲ得ス

前項ノ賃金ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　厚生大臣又ハ地方長官ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ一定ノ勞務者ニ付最高初給賃金ヲ定ムルコトヲ得

雇傭主ハ前項ノ最高初給賃金ノ定アル勞務者ニ付其ノ者ノ雇入ノ日ヨリ命令ヲ以テ定ムル期間其ノ最高ノ初給賃金ノ額ヲ超ユル賃金ヲ以テ之ヲ雇傭スルコトヲ得ス

前項ノ賃金ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　厚生大臣又ハ地方長官ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ一定ノ勞務者ニ付最高賃金ヲ定ムルコトヲ得

雇傭主ハ前項ノ最高賃金ノ定アル勞務者ニ付其ノ最高賃金ノ額ヲ超ユル賃金ヲ以テ之ヲ雇傭スルコトヲ得ス

前項ノ賃金ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　第九條第二項、第十條第二項及前條第二項ノ規定ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニハ之ヲ適用セス

第十三條　厚生大臣又ハ地方長官賃金ニシテ高額ニ失スト認メラルルモノアルトキハ其ノ額ノ引下ニ付雇傭主ニ對シ命令ヲ爲スコトヲ得但シ最高初給賃金又ハ最高賃金ノ定アル勞務者ノ賃金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　雇傭主ハ左ニ揭クル勞務者以外ノ勞務者ニ對シ命令ヲ以テ定ムル期間ニ支拂フ賃金ノ總額カ厚生大臣又ハ地方長官ノ定ムル平均時間割賃金ニ其ノ就業時間ノ總數ヲ乘シテ得タル額ノ合計額ヲ超ユルトキハ命令ヲ以テ定ムル所ニ依リ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　其ノ者ニ支拂フ賃金ニ付第十五條ノ認可アリタルモノ

二　請負單價又ハ請負歩合及賃金算定方法ニ付第十六條ノ規定ニ依リ認可アリタル請負賃金制ニ依ル賃金ヲ以テ雇傭スルモノ

三　第十七條ノ規定ニ依リ認可アリタル初給賃金及昇給ノ規程ニ依リ雇入レ又ハ其ノ賃金ヲ增スヘキモノ

四　前各號ニ揭クルモノノ外命令ヲ以テ定ムルモノ

前項ノ賃金ノ範圍、平均時間割賃金及就業時間ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　雇傭主ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ一定ノ勞務者ニ支拂フ賃金ニ付單位生產量ニ對スル額ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一定ノ勞務者ニ對シ支拂フ賃金ノ總額ハ其ノ單位生產量ニ對スル額ニ生產量ヲ乘シテ得タル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　雇傭主ハ請負單位又ハ請負歩合及賃金算定方法ニ付キ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ請負賃金制ニ依ル賃金ヲ以テ勞務者ヲ雇傭スルコトヲ得但シ第九條第二項第十條第二項又ハ第十一條第二項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第十七條　雇傭主ハ一定ノ勞務者ノ初給賃金及昇給ノ規程ニ付地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ規程ノ適用アル勞務者ニ付其ノ規程ニ依リ之ヲ雇入レ其ノ賃金ヲ增スコトヲ得

第十八條　地方長官ハ左ノ場合ニ於テハ前四條ノ規定ニ依ル認可ヲ取消スコトヲ得

一　詐僞又ハ不正ノ手段ニ依リ認可ヲ受ケタルモノナルトキ

二　認可ノ條件ニ違反シタルトキ

三　認可後ノ事情ニ著シキ變更アリタルトキ

第十九條　厚生大臣ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ手當、實物給與、賞與又ハ臨時ノ給與ノ種類又ハ額ニ關シ賃金統制上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第二十條　厚生大臣ハ勞務者ニ對スル物品ノ販賣又ハ其ノ委託ノ方法ニ依リ事實上賃金ノ額カ增減セラルル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ雇傭主ニ對シ勞務者ニ對スル物品ノ販賣又ハ其ノ委託ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　雇傭主相互間ニ於テ又ハ厚生大臣若ハ地方長官ノ指定スル組合若ハ團體ニ於テ賃金ノ協定ヲ爲シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ雇傭主又ハ其ノ組合若ハ團體ノ組合員若ハ團體員（組合又ハ團體ヲ組織スル組合又ハ團體ノ組合員又ハ團體員ヲ含ム以下同シ）タル雇傭主ノ爲ス雇傭ニ於テハ其ノ協定ニ依ルヘシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　賃金ノ協定ハ左ノ事項ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得

一　最低賃金

二　最高初給賃金

三　最高賃金

四　定額賃金制ニ於ケル定額給

五　請負賃金制ニ於ケル保證給又ハ單位時間給

六　請負賃金制ニ於ケル請負單價、請負時間又ハ請負歩合及賃金算定方法

七　手當

八　實物給與

九　昇給規程

十　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

第二十三條　賃金ノ協定ニシテ最低賃金ノ額ヲ下リ又ハ最高初給賃金若ハ最高賃金ノ額ヲ超ユルモノニ付認可アリタルトキハ其ノ協定シタル事項ニ付テハ各第九條第二項、第十條第二項又ハ第十一條第二項ノ規定ハ之ヲ適用セス

賃金ノ協定ニシテ第十五條、第十六條又ハ第十七條ノ事項ニ關スルモノニ付認可アリタルトキハ其ノ協定シタル事項ニ付テハ各第十五條、第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十四條　賃金ノ協定ヲ爲シタル雇傭主又ハ組合若ハ團體ニ於テ其ノ協定ヲ廢止シ又ハ其ノ內容ヲ變更セントスルトキ

キハ地方長官ノ認可ヲ受クルヘシ

第二十五條　地方長官賃金ノ協定存スル場合ニ於テ賃金統制上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ協定ニ加ハラサル履備主又ハ協定ヲ爲シタル組合若ハ團體ノ組合員若ハ團體員ニ非サル履備主ニ對シ協定ニ從フヘキコトヲ命スルコトヲ得

第二十六條　地方長官ハ賃金統制上必要アリト認ムルトキハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ賃金ノ協定ニ付キ第二十一條ノ規定ニ依リ爲シタル認可ヲ取消スコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ賃金ノ協定ニ付爲シタル認可ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ賃金ノ協定ニ代ルヘキ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ爲シタル定ハ第二十一條ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可シタル賃金ノ協定ト看做ス

第二十七條　地方長官ハ履備主又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ指定セラレタル組合若ハ團體ニ對シ期限ヲ指定シテ第二十二條各號ニ揭クル事項ニ關シ賃金ノ協定ヲ爲スコトヲ促スコトヲ得

履備主又ハ組合若ハ團體ニ於テ前項ノ期限內ニ賃金ノ協定ヲ爲サス又ハ期限內ニ協定ヲ爲スモ協定ニ付認可ヲ得サリシトキハ地方長官ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ協定ニ代ルヘキ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ爲シタル定ハ第二十一條ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可シタル賃金ノ協定ト看做ス

第二十八條　厚生大臣ハ勞務供給業者ノ供給スル勞務者ノ賃金ニ關シ本令ニ定ムルモノノ外賃金統制上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ履備スル履備主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賃金臺帳ヲ作成シ其ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ備置クヘシ

第三十條　賃金ノ統制ニ關スル重要事項ヲ調査審議セシムル爲賃金委員會ヲ置ク賃金委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第三十一條　厚生大臣又ハ地方長官ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ賃金ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第三十二條　本令ハ國又ハ道府縣ニハ之ヲ適用セス

本令ハ國際條約又ハ之ニ基ク協定中賃金ニ關スル定アルトキハ其ノ制限ニ低觸スル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

第三十三條　本令中地方長官トアルハ內地ニ於テ鑛夫（砂鑛業ニ於ケル鑛夫ニ準スヘキ者ヲ含ム以下同シ）ニ關スルモノニ於テハ鑛山監督局長トス

第二十一條及第二十四條乃至第二十七條中地方長官トアルハ賃金ノ協定ノ效力カ二以上ノ道府縣（內地ニ於テ鑛夫ニ關スルモノニ付テハ二以上ノ鑛山監督局ノ管轄區域）ニ及フ場合ハ厚生大臣トス

第三十四條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方廳トス

第三十五條　本令中賃金委員會ニ關スル規定ハ南洋群島ニハ之ヲ適用セス

附　則

第三十六條　本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮臺灣樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十七條　本令施行前從前ノ例ニ依ル

第三十八條　本令施行ノ際現ニ存スル從前ノ規定ニ依リ定ムル未經驗勞働者ノ初給賃金ノ最低額ハ第九條ノ規定ニ依リ定ムル最低賃金ト看做シ其ノ最高額ハ第十條ノ規定ニ依リ定ムル最高初給賃金ト看做ス

賃金統制令　四九九

第三十九條　本令施行ノ際現ニ存スル賃金臨時措置令第十五條ノ規定ニ依ル組合又ハ團體ノ指示ト看做ス

第四十條　本令施行ノ際現ニ存スル賃金臨時措置令第十五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル勞務者ノ基本給、賃金基準又ハ昇給內ノ規定ハ第二十一條ノ規定ニ依リ認可シタル賃金ノ協定ト看做ス

第四十一條　本令施行ノ際現ニ存スル賃金臨時措置令第十六條第一項ノ規定ニ依ル定ニシテ勞務者ノ基本給又ハ賃金基準ノ最高額ニ關スルモノハ第十一條ノ規定ニ依リ定ムル最高賃金ト看做ス

第四十二條　賃金臨時措置令第一條乃至第十四條、第十九條第二十三條、第二十五條第一項及第二十七條第一項ノ規定ハ船員ニ關スルモノヲ除クノ外當分ノ內仍其ノ效力ヲ有ス但シ賃金ノ總額ニ付第十四條ノ規定ニ依ル制限ヲ受クヘキ勞務者ノ賃金ニ付テハ同條ノ平均時間割賃金定マリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十條ノ最高初給賃金若ハ第十一條ノ最高賃金定マリタルトキ又ハ賃金ノ協定ニ付認可アリタルトキハ各其ノ限度ニ於テ第一項本文ノ規定ニ拘ラス賃金臨時措置令第一條乃至第十四條、第十九條、第二十三條、第二十五條第一項及第二十七條第一項ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ

第一項但書及前項ノ規定ニ拘ラス賃金臨時措置令第一條乃至第十四條、第十九條、第二十三條、第二十五條第一項及第二十七條第一項ノ規定ハ第十四條ノ平均時間割賃金、第十條ノ最高初給賃金若ハ第十一條ノ最高賃金定マリタル時又ハ賃金ノ協定ニ付認可アリタル時迄ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四十三條 賃金臨時措置令ハ船員ニ關スルモノヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第四十四條 本令施行ノ際第十九條ノ規定ニ依リ發スル命令ニ關シテハ同條中賃金委員會ニ關スル規定ハ之ヲ適用セス

【參照】

明治十三年四月一日公布法律第五十五號國家總動員法抄條

第六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇又ハ賃金其ノ他ノ勞働條件ニ付必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

賃限統制令施行規則

第一條 賃金統制令(以下令ト稱ス)第二條ノ規定ニ依リ令第二條各號ニ揭クル事業以外ノ事業ニ於ケル左ノ勞働ヲ指定ス

一 場屋又ハ物品ノ監守其ノ他之ニ類スル勞働
二 場屋又ハ道路ノ清掃其ノ他之ニ類スル勞働
三 小使、給仕其ノ他之ニ類スル勞働
四 寫字、印字、電話交換其ノ他之ニ類スル勞働
五 機械又ハ器具ノ操作、檢査、修繕其ノ他之ニ類スル勞働
六 物ノ運搬又ハ配達ノ勞働

第二條 左ニ揭クル者ハ令第二條但書ノ規定ニ依リ勞務者タラサルモノトス

一 料理店業又ハ飮食店業ニ從事スル者
二 主トシテ家事ニ從事スル者
三 履傭主ニ於テ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下同シ)ノ承認ヲ受ケ令ノ適用ヲ除外シタル者

前項第三號ノ承認ノ申請書ハ樣式第一號ニ依ルヘシ

第三條 令第四條ノ命令ヲ以テ定ムル履傭主ハ同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ履傭スル履傭主トス

第四條 前條ノ履傭主ハ同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他場所ニ於テ當時履傭スル勞務者カ十人ニ達シタル日ヨリ三十日以內ニ賃金規則ヲ作成シ揭示其ノ他適宜ノ方法ニ依リ之ヲ勞務者ニ周知セシムヘシ但シ賃金規則中勞務者ノ一部ニ關係アル事項ノ周知方法ハ關係勞務者ニ對シテノミ之ヲ爲スヲ以テ足ル

前項ノ履傭主賃金規則ヲ變更シタルトキハ前項ニ準シ直ニ之ヲ周知セシムヘシ

第五條 賃金規則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 所定就業時間數
二 賃金ノ締切ノ期間及支拂ノ期日
三 定額給ノ定アルトキハ其ノ初給額及最低額
四 請負賃金制ニ於ケル保證給又ハ單位時間給ノ定アルトキハ其ノ保證給又ハ單位時間給ノ初給額及最低額
五 單價請負、時間請負又ハ步合請負ノ制アルトキハ其ノ請負單價、請負時間又ハ請負步合及賃金算定方法
六 手當ヲ支給セントスルトキハ其ノ手當ノ名稱及額又ハ率竝ニ給與條件
七 白米、精麥、食事又ハ住居ノ給與ヲ爲ストキハ其ノ數量、評價額及給與條件
八 遲刻又ハ早退ノ場合ニ於ケル賃金ノ計算方法
九 賃金ノ一部ヲ貯蓄又ハ公債購入ノ爲控除スルトキハ其ノ定ノ要旨

前項各號ニ揭クル事項ノ外賃金ニ關シ必要ナル事項ハ之ヲ賃金規則ニ記載スルコトヲ得

第六條 前條第一項第三號又ハ第四號ノ事項ニ付男女別、職種別、年齡別、勤續年數別其ノ他ノ區分ニ依リ異ル定アルトキハ各別ニ之ヲ記載スヘシ

作業又ハ製品ノ種類多數ナルトキハ請負單價、請負時間又ハ請負步合ニ關スル前條第一項第五號之ヲ周知セシムヘシ

主要ナル作業又ハ製品ニ付爲スヲ以テ足ル

同種ノ製品ノ製造又ハ同種ノ作業カ三月以上繼續セサルトキハ其ノ製品又ハ作業付定ムル請負單價、請負時間又ハ請負步合ニ關スル前條第一項第五號ノ規定ニ依ル記載ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前二項ノ場合ノ外履傭主請負單價、請負時間又ハ請負步合ニ關スル前條第一項第五號ノ規定ニ依ル記載ノ全部又ハ一部ヲ省略セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ノ申請書ハ樣式第二號ニ依ルヘシ

第七條 第三條ノ履傭主賃金規則ニ依ル賃金ノ支拂ヲ爲スニ付令第十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第十四條第一項第三號、第十五條第一項、第二十六條第一項、第二十八條第一項、第二十九條第一項若ハ三十條第一項ノ規定ニ依リ認可又ハ許可ヲ要スル事項アル場合ニ於テ其ノ認可若ハ許可ヲ受ケサルトキ又ハ賃金ノ協定存スル場合ニ於テ賃金規則ノ記載カ其ノ協定ノ內容タル事項ト異ルトキハ令第五條本文ノ規定ニ拘ラス各其ノ事項ニ付テハ賃金規則ニ依リ賃金ノ支拂ヲ爲スヘキ限ニ在ラス

第八條 但第六條ノ規定ニ依ル賃規則ノ報告ニハ事業ノ種類從業場所ノ名稱及所在地竝ニ常時履傭スル男女別勞務者數ヲ具スヘシ

第九條 令第九條第二項ノ賃金ハ左ニ揭クルモノヲ含マサルモノトス

一　早出、殘業又ハ深夜若ハ休日ノ就業ニ對スル歩增
二　實物給與但シ白米、精麥、食事及住居ノ給與ヲ除ク
三　賞與
四　臨時ノ給與

第十條　令第十條第二項ノ命令ヲ以テ定ムル期間ハ未經驗勞務者ニ付テハ三月トシ其ノ他ノ勞務者ニ付テハ一年トス

第十一條　前條ノ未經驗勞務者トハ工場又ハ鑛山ニ於ケル左ノ各號ノ一ニ該當セサル勞務者ヲ謂フ

一　從事シツツアル勞働又ハ之ト同種ノ勞働ニ三月以上從事シタル經驗アル者
二　工場又ハ鑛山ニ於テ六月以上勞働ニ從事シタル經驗アル者
三　工場又ハ鑛業ニ關スル國立若ハ公立ノ養成施設ニシテ三月以上ノ修業期間ヲ有スルモノ又ハ私立ノ養成施設ニシテ地方長官ニ於テ之ト同等以上ノモノト認定シタルモノノ課程ヲ修了シタル者
四　工業又ハ鑛業ニ關スル學校ニ於テ二年以上學習シタル者
五　前號ニ揭クルモノノ外常小學校卒業程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ四年以上トスル學校若ハ高等小學校卒業程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ二年以上トスル學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ課程ヲ修了シタル者

第十二條　最高賃金ハ日日雇入ルル勞務者又ハ厚生大臣ノ指定スル勞務者ニ付定ムルモノトス

第十三條　令第十條第二項及第十一條第二項ノ賃金ハ左ニ揭クルモノヲ含マサルモノトス

一　一月ニ付當該勞務者ノ健康保險法施行令第三條ノ規定ニ依リ定ムル標準報酬日額ノ二日分ヲ超エサル精勤手當
二　就業十時間ヲ超ユル早出若ハ殘業又ハ深夜若ハ休日ノ就業ニ對スル歩增
三　實物給與但シ白米、精麥、食事及住居ノ給與ヲ除ク
四　賞與
五　臨時ノ給與

第十四條　令第九條第二項ノ規定ハ左ニ揭クル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

一　勞務者カ精神又ハ身體ノ障礙ニ因リ書シク作業能力劣レルモノナルトキ
二　勞務者ノ都合ニ依リ所定就業時間ニ滿タサル就業爲ストキ
三　天災事變其ノ他特別ノ事由ニ因リ履儒主カ地方長官ノ許可ヲ受ケ最低賃金ノ額ヲ下ル賃金ヲ以テ勞務者ヲ履儒スルトキ

履儒主前項第一號ノ規定ニ依リ最低賃金ノ額ヲ下ル賃金ヲ以テ勞務者ヲ履儒シタルトキハ令第三十一條第一項ノ規定ニ基キ其ノ履入ノ日ノ翌月十五日迄ニ樣式第三號ニ依ル報告書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第一項第三號ノ許可ノ申請書ハ樣式第四號ニ依リ其ノ申請ニハ第五條第一項第三號及第四號ノ最低額ニ關スル賃金規則ノ記載ノ寫ヲ添附スヘシ

第十五條　令第十條第二項及第十一條第二項ノ規定ハ履儒主カ天災事變ニ際シ必要アルニ因リ又ハ左ニ揭クル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケ最高初給賃金又ハ最高賃金ノ額ヲ超ユル賃金ヲ以テ勞務者ヲ履儒スルトキハ之ヲ適用セス

一　作業ノ性質上必要アルトキ
二　勞務者カ技能特ニ優秀ナルトキ又ハ特技アルトキ
三　其ノ他特別ノ事由アルトキ

履儒主天災事變ニ際シ必要アルニ因リ最高初給賃金又ハ最高賃金ノ額ヲ超ユル賃金ヲ以テ勞務者ヲ履儒シタルトキハ令第三十一條第一項ノ規定ニ基キ其ノ履入ノ日ヨリ十四日以內ニ其ノ要領ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ

第一項第一號及第三號ノ事由ニ因ル許可ノ申請書ハ樣式第五號、第一項第二號ノ事由ニ因ル許可ノ申請書ハ樣式第六號ニ依ルヘシ

第十六條　令第十四條第一項ノ命令ノ定ムル期間（以下賃金總額計算期間ト稱ス）ハ左ノ如シ

第一期　一月一日ヨリ三月三十一日迄（每月一定ノ賃金締切日ノ定アルトキハ三月ノ最終賃金締切日前三月間）

第二期　四月一日ヨリ六月三十日迄（每月一定ノ賃金締切日ノ定アルトキハ六月ノ最終賃金締切日前三月間）

第三期　七月一日ヨリ九月三十日迄（每月一定ノ賃金締切日ノ定アルトキハ九月ノ最終賃金締切日前三月間）

第四期　十月一日ヨリ十二月三十一日迄（每月一定ノ賃金締切日ノ定アルトキハ十二月ノ最終賃金締切日前三月間）

第十七條　同一ノ工場、事業場ニ於テ令第十四條第一項各號ニ揭クル勞務者以外ノ勞務者ヲ常時三十人以上履儒スル履儒主ハ令第十四條第一項ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ認可ノ申請書ハ樣式第七號ニ依ルヘシ

當該工場、事業場ニ於ケル男女及年齡別一時間平均賃金ノ實績カ時期ニ依リ著シク異ルトキハ前項ノ申請ニハ申請前一年（一年ノ實績ナキトキハ其ノ實績アル期間）ノ賃金總額計算期間若ハ每月ノ賃金臺帳（總括票）ノ寫又ハ之ニ準スヘキ書面ヲ添附ヘスシ

第十八條　前條ノ認可ハ左ニ揭クル場合ニ之ヲ爲スモノトス

一　工場、事業場ニ於ケル勞務者ノ職種、年齡、經驗年數等ニ因リ必要アルトキ
二　工場、事業場ニ於ケル作業ノ性質又ハ環境ニ因リ特ニ必要アルトキ
三　工場、事業場ニ於ケル作業能率特ニ優秀ナルトキ

四　天災事變ニ際シ其ノ他特ニ必要アルトキ

第十九條　令第十四條第一項ノ認可ハ男女及年齢別一時間平均賃金ニ依リ之ヲ爲シ且其ノ認可ノ日ヨリ一年以内ニ於テ失效ノ期限ヲ附スルモノトス

履傭主前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ令第十四條第一項各號ニ揭クル勞務者以外ノ勞務者ニ對シ賃金總額計算期間ニ支拂フ賃金ノ總額ハ前項ノ男女及年齢別一時間平均賃金ニ就業時間ノ總數ヲ乘シテ得タル額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ザルモノトス

前二項ノ男女及年齢別一時間平均賃金ノ適用ニ關スル勞務者ノ年齢ノ計算ハ其ノ年ノ一月一日ノ現在ニ依ルモノトス

第二十條　令第十四條第一項第四號ノ規定ニ依リ左ノ勞務者ヲ定ム

一　專ラ工場外又ハ事業場外ノ事務所ニ於テ使用スルモノ

二　日日雇入ルルモノ

第二十一條　令第十四條第一項ノ賃金ハ左ニ揭クルモノヲ含マサルモノトス

一　實物給與但シ白米、精麥、食事及住居ノ給與ヲ除ク

二　賞與

第二十二條　令第四條第一項ノ平均時間割賃金ハ地域、業種、男女及年齢ノ別ニ之ヲ定ム

前項ノ平均時間割賃金ノ適用ニ關スル勞務者ノ年齢ノ計算ハ其ノ年ノ一月一日ノ現在ニ依ルモノトス

第二十三條　令第十四條第一項ノ就業時間ハ休憩時間ヲ含ムモノトス

第二十四條　令第十五條又ハ第十六條ノ認可ノ申請書ハ樣式第八號又ハ樣式第九號ニ依リ其ノ申請ニハ第五條第一項第五號ニ揭クル事項ニ關スル賃金規則ノ記載ノ寫及最近ノ賃金總額計算期間若ハ最近三月間ノ每月ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫又ハ之ニ準スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第二十五條　令第十七條ノ認可ノ申請書ハ樣式第十號ニ依リ其ノ申請ニハ初給賃金及昇給ニ關スル賃金規則ノ記載ノ寫竝ニ最近ノ賃括總額計算期間若ハ最近三月間ノ每月ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫又ハ之ニ準スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第二十六條　同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ履傭スル履傭主ハ其ノ履傭スル勞務者ノ全部又ハ大部分ニ時ヲ同シクシテ臨時ノ給與ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ臨時ノ給與ノ其ノ給與ヲ受クル勞務者ニ對スル平均金額ノ每年ノ合計カ二十圓ヲ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ許可ノ申請書ハ樣式第十一號ニ依リ其ノ申請ニハ手當ニ關スル賃金規則ノ記載ノ寫ヲ添附スヘシ

第二十七條　同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ履傭スル履傭主ハ令第六條ノ規定ニ依リ地方長官ニ報告シタル賃金規則ニ依ルノ外其ノ履傭スル勞務者ニ賞物ヲ給與セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ノ申請書ハ樣式第十二號ニ依リ其ノ申請ニハ賞物給與ニ關スル賃金規則ノ記載ノ寫ヲ添附スヘシ

第二十八條　同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ履傭スル履傭主ハ其ノ履傭スル勞務者ニ賞與ヲ支給セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ賞與ノ各支給期ニ於ケル其ノ支給ヲ受クル勞務者ニ對スル平均金額ノ每年ノ合計額カ六十圓ヲ超エス又ハ當該工場、事業場、ニ於ケル勞務者ノ健康保險法施行令第三條ノ標準報酬日額ノ平均金額ノ四十日分ヲ超エサルトキハ此ノ限ニアラス

前項ノ許可ノ申請書ハ樣式第十三號ニ依リ其ノ申請ニハ最近ノ賃金總額計算期間若ハ最近(三月間ノ每月ノ賃金臺帳總括票)ノ寫又ハ之ニ準スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第二十九條　同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ履傭スル履傭主ハ其ノ履傭スル勞務者ノ全部又ハ大部分ニ時ヲ同シクシテ臨時ノ給與ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ臨時ノ給與ノ其ノ給與ヲ受クル勞務者ニ對スル平均金額ノ每年ノ合計カ二十圓ヲ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ許可ノ申請書ハ樣式第十四條ニ依リ其ノ申請ニハ最近ノ賃金總額計算期間若ハ最近三月間ノ每月ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫又ハ之ニ準スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第三十條　同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ履傭スル履傭主ハ勞務者ニ對シ厚生大臣ノ定ムル價格以下ノ代價ヲ以テ白米、精麥又ハ食事ノ販賣ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ販賣ノ委託ヲ爲サントスルトキ亦同シ

前項ノ許可ノ申請書ハ樣式第十五號ニ依リ其ノ申請ニハ最近ノ賃金總額計算期間若ハ最近三月間ノ每月ノ賃金臺帳(總括票)ノ寫又ハ之ニ準スヘキ書面及手當竝ニ賞物給與ニ關スル賃金規則ノ記載ノ寫ヲ添附スヘシ

第三十一條　令第二十二條ノ規定ニ依ル賃金ノ協定ノ認可ノ請申書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　協定ヲ爲シタル履傭主ノ氏名及住所又ハ協定ヲ爲シタル組合若ハ團體ノ名稱及所在地

二　協定ノ內容

三　協定ノ行ハルル區域

四　其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

第三十二條　履傭主ハ天災事變ニ際シ必要アリルトキハ令第二十一條但書ノ規定ニ依リ同條ノ協定ニ依ラサル事ヲ得

履傭主前項ノ規定ニ依リ令第二十二條ノ協定ニ依ラサリシトキハ令三十一條第一項ノ規定ニ基キ其ノ要領ヲ具シ十四日以內ニ地方長官ニ報告スヘシ

第三十三條　令二十四條ノ規定ニ依ル賃金ノ協定ノ變更又ハ廢止ノ認可ノ申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　協定ヲ爲シタル履傭主ノ氏名及住所又ハ協定ヲ爲シタ

ル組合若ハ團體ノ名稱及所在地
二　廢止又ハ變更スヘキ事項及其ノ內容
三　廢止又ハ變更セントスル協定ノ行ハルル區域
四　廢止又ハ變更ヲ要スル理由
五　其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

第三十四條　協定ノ行ハルル區域內ニ於テ協定ニ加ハリタル、又ハ其ノ協定ノ廢止又ハ變更ニ因リ協定ノ行ハルル區域內ニ於テ新ニ協定ノ行ハルル場合ニ於テ、當該

所在地	報告單位名稱	待遇上他ノ勞務ニ從ヒ得ル本俸	業務上他ノ勞務ニ從ヒ得ル本俸	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男

（備考）一、報告單位名稱ハ工場ニ在リテハ工場名鑛山ニ在リテハ鑛山名ヲ記入スルモノトス

二、所在地ハ工場ニ在リテハ工場ノ所在地ニ在リテハ本業ノ名稱又ハ主要生産品名ヲ記載スルモノトス

三、業務上他ノ勞務ニ從ヒ得ル本俸ハ其ノ勞務ニ從事スル者ノ數ニ應ジ按分シテ記入スルモノトス

四、計ノ欄ニハ男女ノ合計ヲ記入スルモノトス

五、本表ハ作成ノ日ヨリ其ノ日ヲ含ミ十日以内ニ鳥シタル行鳥ニ關スル前ノ期間ニ付テハ其ノ期間ニ於ケル實際ノ勞務ニ付テハ其ノ勞務ニ從事スル者ノ數ニ應ジ按分シテ記入スルモノトス

（第六號ノ二）

船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル法律施行規則

（昭和十三年十二月二十日）

（逓信省令第五十一號）

船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル法律施行規則ヲ次ノ通リ定ム

第一條　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル法律（以下法ト稱ス）第二條第一項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關シ報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ定メ又ハ變更シタルトキ

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ定メサル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ定メ又ハ變更シタルトキ

第二條　法第二條第一項ノ報告ハ別記第一號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三條　法第二條第一項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第四條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第五條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第七條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第八條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第九條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第十一條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第十二條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第十四條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第十五條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第十七條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第十八條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十九條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第二十條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二十一條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第二十三條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二十四條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第二十五條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第二十六條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二十七條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第二十九條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三十條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第三十一條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第三十二條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三十三條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第三十四條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第三十五條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三十六條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第三十七條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第三十八條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三十九條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第四十條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第四十一條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第四十二條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第四十三條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第四十四條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第四十五條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第四十六條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第四十七條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第四十八條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第四十九條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第五十條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第五十一條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第五十二條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第五十三條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第五十四條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第五十五條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第五十六條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第五十七條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第五十八條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第五十九條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六十條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第六十一條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第六十二條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六十三條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第六十四條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第六十五條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六十六條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第六十七條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第六十八條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六十九條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第七十條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第七十一條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第七十二條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第七十三條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第七十四條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第七十五條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第七十六條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第七十七條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第七十八條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第七十九條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第八十條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第八十一條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第八十二條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第八十三條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第八十四條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第八十五條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第八十六條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第八十七條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第八十八條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第八十九條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第九十條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十一條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第九十二條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第九十三條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十四條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第九十五條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第九十六條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十七條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

第九十八條　法第二條第二項ノ報告ハ別記第二號樣式ニ依リ作成シタル報告書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第九十九條　法第二條第二項ノ報告ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第百條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

一　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更ニ係ル事項ニ付報告ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ通リトス

二　船舶所有者ノ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ニ關スル規程ヲ變更シタル場合ニ於テ船員ニ對スル給料其ノ他ノ報酬ノ額ヲ變更シタルトキ

様式第十一號（用紙ノ大サハ日本標準規格B4、縦二百三十五、四七粍、横三百二十七、四七粍トス）

賃金規則記載事項変更許可申請書

事業ノ種類		事業場所 ノ名称		就労婦女子ニ対スル賃金	男		
		所在地			女		
					計		

ノ作業又ハ業務	就労婦女子ニ対スル賃金ノ計算方法	変更ノ理由	就労婦女子ノ数		
			男	女	計

其ノ他参考ト為ルベキ事項	

昭和　年　月　日

住所

申請者　氏名　㊞

（電話番局）

監督署長殿

（注意）

一、変更ノ理由ヲ証スル書類ヲ添付スルコト

二、変更ノ理由ヲ証スル書類ヲ添付スルニ非サレハ申請ヲ受理セラレサルコトアルヘシ

様式第十一號（用紙ノ大サハ日本標準規格B4、縦二百三十五、四七粍、横三百二十七、四七粍トス）

就業婦女子ニ関スル最低賃金除外許可申請書

事業ノ種類		事業場所 ノ名称		就労婦女子ニ対スル賃金	男		
		所在地			女		
					計		

労働者ノ氏名	男女別	年齢	最低賃金額		支給賃金額		最低賃金ヲ下リタル理由
		歳	円	銭	円	銭	

其ノ他参考ト為ルベキ事項	

昭和　年　月　日

住所

申請者　氏名　㊞

（電話番局）

監督署長殿

（注意）

一、最低賃金ヲ下リタル理由ヲ証スル書類ヲ添付スルコト

二、最低賃金ヲ下リタル理由ヲ証スル書類ヲ添付スルニ非サレハ申請ヲ受理セラレサルコトアルヘシ

様式第五號（用紙ノ大サハ日本標準規格B4縦二一〇粍横二五七粍トス）

事業場（事業場外労働）除外許可申請書（不特定多数者）

事業ノ種類		事業場所ノ名称		就業者ニ於ケル女子	男	
		所在地			女	
					計	

事業ニ於ケル労働者ノ労働時間	労働者ノ休憩時間	又ハ一斉ニ休憩セサル労働者ノ休憩時間	休憩時間ヲ一斉ニ与ヘサル事業場ニ於ケル労働者ノ労働時間ヲ通算スル事業場（事業場ノ定めノ外ノ事業場）ノ労働時間ヲ通算スル事由	備考
	時 分			
其ノ他参考ト為ルヘキ事項				

昭和　年　月　日

住所
（事業者）氏名　㊞

（労力供給者）殿

労働基準局長宛

様式第五號（用紙ノ大サハ日本標準規格B4縦二一〇粍横二五七粍トス）

事業場（事業場外労働）除外許可申請書

事業ノ種類		事業場所ノ名称		就業者ニ於ケル女子	男	
		所在地			女	
					計	

事業ニ於ケル労働者ノ労働時間	労働者ノ休憩時間	又ハ一斉ニ休憩セサル労働者ノ休憩時間	事業場ニ於ケル労働者ノ労働時間ヲ通算スル事業場（事業場ノ定めノ外ノ事業場）ノ労働時間ヲ通算スル事由	貨金ヲ以テ定メタル賃金ノ下ル由	貨金支払日	備考
	時 分				日	
其ノ他参考ト為ルヘキ事項						

昭和　年　月　日

住所
（事業者）氏名　㊞

（労力供給者）殿

労働基準局長宛

様式第七號（用紙ハ大サハ日本農業規格B4第二種ノ大サニ四七粍ノコト）

農地委員会（農地部会）議事録（登記事務用）

本籍ノ表示		ノ名称所在地		議事録署名スル者ノ員数	男	
		所在地			女	
					計	

ノ氏名番号	別女男	年齢	職業	別ニ本法ノ定ムル農地委員会ノ議決ニ加ハル		又ハ議事ニ	ルニハ委員ノ会議ニ出席シ会議ニ加ハル	備考ノ場合ニ於ケル事項

年　月　日　提出

住所

氏名　（署名）　㊞

（本籍地）

様式第七號（用紙ハ大サハ日本農業規格B4第二種ノ大サニ四七粍ノコト）

農地委員会議事録（登記事務用）

本籍ノ表示		ノ名称所在地		議事録署名スル者ノ員数	男	
		所在地			女	
					計	

別女男	年齢区分	会議ニ出席シタル委員ノ数		議題トナリタル農地ノ筆数		本会ノ決議ニ反対シタル委員ノ数		本会ノ決議ニ賛成シタル委員ノ数	年月日	本会ノ上申書ノ年月日	年月日	知事ノ上申書ノ年月日
男	十一歳未満											
	十一歳未満十四歳											
	十四歳以上											
女	十一歳未満											
	十一歳未満十四歳											
	十四歳以上											

スル旨ノ決定ヲ	年　月　日
備考	
本会ノ決議ニ反対シタル委員ノ氏名	

年　月　日　提出

住所

氏名　（署名）　㊞

（本籍地）

様式第八號（用紙ノ大サハ日本標準規格B4縦二一六、四横二五七、四トス）

單位生産量ニ對スル賃金額認可申請書

事業ノ種類		本店ノ名稱及所在地		就業場所ノ數及職工數	男	
					女	
					計	

生産品ノ種類	單位生産量	單位生産量ニ對スル賃金額（圓以下四位迄ノ數字）	一單位生産量ニ要スル作業時間	一單位生産量ニ要スル作業ノ數	一月ノ生産高	一月ノ賃金支拂額	備考

最近三月間ノ實績

月				月				月			
ノ生産製品	賃金額	生産高	單位賃金額（圓以下四位迄ノ數字）	ノ生産製品	賃金額	生産高	單位賃金額（圓以下四位迄ノ數字）	ノ生産製品	賃金額	生産高	單位賃金額（圓以下四位迄ノ數字）

其ノ他參考ニ供スベキ事項	

昭和　年　月　日

住所
（電話番）
氏名　㊞

（代表者）　殿

備考

一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ謂フ

二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

三十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

三十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

三十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

三十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

三十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

三十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

三十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

三十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

三十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

三十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

四十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

四十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

四十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

四十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

四十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

四十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

四十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

四十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

四十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

四十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

五十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

五十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

五十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

五十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

五十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

五十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

五十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

五十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

五十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

五十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

六十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

六十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

六十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

六十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

六十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

六十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

六十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

六十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

六十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

六十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

七十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

七十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

七十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

七十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

七十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

七十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

七十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

七十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

七十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

七十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

八十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

八十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

八十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

八十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

八十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

八十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

八十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

八十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

八十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

八十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

九十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

九十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

九十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

九十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

九十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

九十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

九十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

九十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

九十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

九十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百二十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百二十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百二十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百二十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百二十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百二十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百二十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百二十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百二十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百二十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百三十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百三十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百三十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百三十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百三十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百三十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百三十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百三十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百三十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百三十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百四十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百四十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百四十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百四十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百四十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百四十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百四十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百四十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百四十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百四十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百五十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百五十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百五十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百五十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百五十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百五十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百五十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百五十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百五十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百五十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百六十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百六十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百六十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百六十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百六十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百六十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百六十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百六十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百六十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百六十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百七十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百七十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百七十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百七十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百七十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百七十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百七十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百七十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百七十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百七十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百八十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百八十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百八十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百八十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百八十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百八十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百八十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百八十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百八十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百八十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百九十、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百九十一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百九十二、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百九十三、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百九十四、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百九十五、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百九十六、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百九十七、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百九十八、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

百九十九、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二百、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ生産高ニ對スル割合ヲ以テ支拂フ場合ニ於テハ其ノ割合ヲ記載スルコト

二百一、賃金ハ法第十條ニ規定スル賃金ヲ

様式第十一號（用紙ノ大サハ日本標準規格B4縦二一〇粍、横二五七粍トス）

不就業手当支給証明申請書

事業ノ種類		事業所ノ名称及所在地		就業場所ヲ異ニスル毎ノ人員	男	
					女	
					計	

名ヲ記載セラルヘキ者ノ氏名	被保険者番号	支給年月	支給ノ事由	一日ノ賃金額	一日ノ賃金額ノ計算方法

備考	
公共職業安定所ノ証明ヲ受ケタル年月日	

年　月　日提出

所長（職場長）　殿

（昭和　年）

様式第十號（用紙ノ大サハ日本標準規格B4縦二一〇粍、横二五七粍トス）

初就職金及再就職証明申請書

事業ノ種類		事業所ノ名称及所在地		就業場所ヲ異ニスル毎ノ人員	男	
					女	
					計	

初回金支給	被保険者番号又ハ船員保険ノ被保険者証ノ記号番号	賃金		備考
		男 手	女 手	

再就職手当	氏名又ハ船員保険ノ被保険者証ノ記号番号	失業保険金受給資格者証ノ番号	1回ノ失業保険金ノ額			受給ヲ終ルニ至リタル年月日
			基礎	勤労	家族	

備考	
失業保険金ノ支給ヲ受ケタル期間ノ第一日ト第二日トノ間ニ就職シタル場合ニ於ケル第一日ト第二日トノ間ノ日数	
失業保険金ノ支給ヲ受ケタル期間ノ第一日ト第二日トノ間ニ就職シタル場合ニ於ケル第一日ト第二日トノ間ノ賃金額	
公共職業安定所ノ証明ヲ受ケタル年月日	

年　月　日提出

所長（職場長）　殿

（昭和　年）

別紙添附

一　ミシン縫ヲ為ス場合ニ於テハ糸ハ白糸ヲ使用スルコト

様式第十三號（用紙ハ大サハ日本標準規格B4第二十三、四七ニ依ル）

貸與許可申請書

申請人		住所又ハ名稱及代表者ノ氏名		資金ヲ必要トスル期間	男		
					女		
					計		

	貸與ヲ受ケントスル資金ノ額	貸與期間	貸與ヲ受ケントスル者	一人平均
許可ヲ受ケタル貸與資金ヲ以テ支拂ハントスル債務				
本申請ニ係ル貸與資金ヲ以テ支拂ハントスル債務				
前申請ニ係ル貸與資金ヲ以テ支拂ハントスル債務				
前年ノ四月十日ニ於ケル分割償還金ノ額	本年		前年	
貸與資金ヲ以テ支拂ハントスル債務ノ明細				
現在金ヲ以テ支拂ハントスル債務ノ明細				
其ノ他參考ト認ムル事項				

昭和　年　月　日

住所

申請者　氏名（署名捺印）

㊞

（商號又ハ名稱）

（代表者ノ資格）

（代表者ノ氏名）

農林大臣　殿

農林省令第十號

様式第十三號（用紙ハ大サハ日本標準規格B4第二十三、四七ニ依ル）

貸與許可申請書

申請人		住所又ハ名稱及代表者ノ氏名		資金ヲ必要トスル期間	男		
					女		
					計		

貸與ヲ受ケントスル資金ノ額	貸與期間	貸與ヲ受ケントスル者	一人平均	貸與資金ヲ以テ支拂ハントスル債務ノ種類	金額	貸與資金ヲ以テ支拂ハントスル債務ノ相手方ノ住所又ハ名稱及代表者ノ氏名	摘要
其ノ他參考ト認ムル事項							

昭和　年　月　日

住所

申請者　氏名（署名捺印）

㊞

（商號又ハ名稱）

（代表者ノ資格）

（代表者ノ氏名）

農林大臣　殿

農林省令第十號

様式第十四號（用紙ハ大キハ日本標準規格A4縦長トス）

建物登記申請書

| | | |

様式第十七號（用紙ノ大サハ日本標準規格B4竪二五、七糎横三六、四糎トス）

賃金臺帳（總括票）

事業ノ種類		事業場名	

昭和　年　月分　期分

	男				女				總計
	二十歳未滿	三十歳未滿	三十歳以上	小計	二十歳未滿	三十歳未滿	三十歳以上	小計	
勞務者數									
總就業日數									
總就業時間數									
平均時間割賃金									
平均時間割賃金ニ總就業時間數ヲ乘ジタル額									
支拂賃金計(1)									
實物給與換算額(2)									
支拂賃金計(1)及實物給與換算額(2)合計(3)									
賞與及臨時ノ給與(3)									
支拂賃金總計（(1)(2)(3)ノ合計）									
一時間平均賃金（(4)ヲ總就業時間數ヲ以テ除シタル額）									

實物給與（白米、精麥、食事及住居ノ給與ヲ除ク）

名稱	數量	支給勞務者數

備考
(1) 本臺帳ハ一月毎（賃金締切日ノ定アル場合ハ其ノ月ノ最終ノ賃金締切日前一月毎）ノ票ニ作成スルコト
(2) 本臺帳ハ前號ノ外賃金算定計算期毎ノ票ヲ作成スルコト

記載注意
(1) 勞務者數欄ニハ記載スヘキ期間内ニ於テ賃金ヲ受ケタル勞務者ノ數ヲ記入スルコト
(2) 總就業日數欄ニハ賃金臺帳（個人票）ニ記入セル就業日數ノ合計ヲ記入スルコト
(3) 總就業時間數欄ニハ賃金臺帳（個人票）ニ記入セル就業時間數ノ合計ヲ記入スルコト
(4) 平均時間割賃金欄ニハ令第十四條ノ規定ニ依リ定ムル平均時間割賃金ヲ記入スルコト但シ令第十四條ノ規定ニヨリ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ其ノ認可ヲ受ケタル平均時間賃金ヲ記入スルコト
(5) 支拂賃金計(1)欄ニハ賃金臺帳（個人票）ニ記入セル支拂賃金計(1)ノ合計額ヲ記入スルコト
(6) 實物給與換算額(2)欄ニハ賃金臺帳（個人票）ニ記入セル實物給與換算額(2)ノ合計額ヲ記入スルコト
(7) 賞與及臨時ノ給與(3)欄ニハ賃金臺帳（個人票）ニ記入セル賞與及臨時ノ給與(3)ノ合計額ヲ記入スルコト

様式第十六號（用紙ノ大サハ日本標準規格B4竪二五、七糎横三六、四糎トス）

賃金臺帳（個人票）

時給、日給又ハ月給	男女	生年月日	雇入年月日	職種	前歷年月數	氏名
	男					
	女	年　月　日生	年　月　日雇入	番號	年　月	番號

期間								
就業日數								
就業時間數								
實勞働時間數								
早出殘業、深夜就業時間數								
賃金 支拂	時給、日給又ハ月給							
	請負利益金又ハ加給金							
	早出殘業歩增							
	深夜業歩增							
	休日就業歩增							
	手當 精勤手當							
	手當							
	支拂賃金計(1)							
控除金總額								
差引支拂額								
實物給與(2)	白米精麥給與							
	食事給與							
	住居給與							
支拂賃金計(1)及實物給與換算額(2)合計								
賞與及臨時ノ給與(3)								
支拂賃金總計（(1)(2)(3)ノ合計）								

備考
(1) 欄ノ數ハ雇主ニ於テ適宜定ムルヲ得ルコト
(2) 欄外ニ前數項ノ記載ノ必要事項ノ記載ヲ設クルコトヲ得ルコト
(3) 實勞働時間數、早出殘業、深夜就業時間數及賞ナキ事項ニ關スル欄ハ何レモ削除スルコトヲ得ルコト

記載注意
(1) 期間ノ區分ハ一月又ハ一賃金締切期間トスルコト
(2) 前項ノ期間ニ付テノ記載ノ外毎日ノ賃金ニ關スル記入ヲ爲スヲ怠ケサルコト
(3) 就業日數欄ニハ實際ニ就業セル日數ヲ記入スルコト
(4) 就業時間數欄ニハ休憩時間ヲ含ム總就業時間數ヲ記入スルコト
(5) 時給、日給又ハ月給額及請負利益金又ハ加給金額ハ之ヲ一個トシ其ノ合計ノ額ヲ記入スルコトヲ得ルコト
(6) 早出殘業歩增額、深夜業歩增額及休日就業歩增額ニハ早出殘業、深夜就業又ハ休日就業ニ對スル時間割賃金ヲ除キタル部分額ヲ記入スルコト
(7) 手當欄ニハ精勤手當、皆勤賞與、物價手當、役付手當、早功加給、作業手當等手當ノ種別ニ關ヲ設ケ其ノ名稱及額ヲ記入スルコト
(8) 控除金總額欄ニハ支拂賃金ヨリ控除スヘキ金額ノ總額ヲ記入スルコト備考欄ヲ設ケ控除金內譯ニ付記入スルコトヲ得ルコト
(9) 差引支拂額欄ニハ支拂賃金計(1)ヨリ控除金總額ヲ減シタル額ヲ記入スルコト
(10) 白米精麥給與、食事給與及住居給與欄ニハ原價ニテ支給セル白米精麥、食事及住居ニ付厚生大臣ノ定ムル評價額ニ依ル換算額ヲ記入スルコト

様式第十九號（用紙ノ大サハ日本標準規格 B 4 竪二五、七糎 横三六、四糎 トス）

賃金臺帳（總括票）

事業ノ種類		事業場名	

昭和　　年　　月分

	男	女	計
勞務者數			
總就業日數			
支拂賃金計(1)及實物給與換算額(2)合計(4)			
賞與及臨時ノ給與(3)			
支拂賃金總計((1)(2)(3)合計)			
一日平均賃金 ((4)ヲ總就業日數ヲ以テ除シタル商)			

實物給與（白米精麥、食事及住居ノ給與ヲ除ク）

名稱	數量	支給勞務者數

備考

本臺帳ハ一月毎）賃金締切日ノ定アル場合ハ其ノ月ノ最終ノ賃金締切日前一月毎）ノ票ニ作成スルコト

記載注意

(1) 勞務者數欄ニハ記載スヘキ期間内ニ於テ賃金ヲ受ケタル勞務者ノ數ヲ記入スルコト

(2) 總就業日數欄ニハ賃金臺帳（個人票）ニ記入セル就業日數ノ合計ヲ記入スルコト

(3) 支拂賃金計(1)及實物給與換算額(2)合計欄ニハ賃金臺帳(個人票）ニ記入セル支拂賃金計(1)及實物給與換算額(2)合計ノ合計額ヲ記入スルコト

(4) 賞與及臨時ノ給與(3)欄ニハ賃金臺帳(個人票)ニ記入セル賞與及臨時ノ給與(3)ノ合計額ヲ記入スルコト

様式第十八號（用紙ノ大サハ日本標準規格 B 4 竪二五、七糎 横三六、四糎 トス）

賃金臺帳（個人票）

男	生年月日	雇入年月日	職種	前歷年月數
女	年　月　日生	年　月　日雇入	番號	年　月

氏名
番號

期間							
就業日數							
支拂賃金	時給、日給又ハ月給及請負利益金又ハ加給金						
	手當（ム）（歩増ヲ含）						
	支拂賃金計(1)						
控除金總額							
差引支拂額							
實物給與換算額(2)	白米精麥給與						
	食事給與						
	住居給與						
支拂賃金計(1)及實物給與換算額(2)							
合計賞與及臨時ノ給與(3)							
支拂賃金總計((1)(2)(3)ノ合計)							

備考

(1) 縱ノ欄數ハ雇傭主ニ於テ適宜定ムルヲ得ルコト

(2) 欄外ニ個收者條印欄其ノ他必要事項ノ記載欄ヲ設クルコトヲ得ルコト

(3) 該當ナキ事項ニ關スル欄ハ削除スルコトヲ得ルコト

記載注意

(1) 期間ノ區分ハ一月又ハ一賃金締切期間トスルコト

(2) 前項ノ期間ニ付テノ記載ノ外毎日ノ賃金ニ關スル記入ヲ爲スヲ妨ゲザルコト

(3) 就業日數欄ニハ實際ニ就業セル日數ヲ記入スルコト

(4) 時給、日給又ハ月給及請負利益金又ハ加給金欄ニハ内譯欄ヲ設ケ請負利益金又ハ加給金ヲ記入スルコトヲ得ルコト

(5) 手當（歩増ヲ含ム）欄ニハ補助手當、借助賃與、物價手當、作業手當等ノ外早出殘業又ハ深夜就業等ニ對スル割増額ヲ其ノ種類毎ニ欄ヲ設ケ其ノ名稱及額ヲ記入スルコト

(6) 控除金總額欄ニハ支拂賃金ヨリ控除スベキ金額ノ總額ヲ記入スルコト尚内譯欄ヲ設ケ控除金内譯ニ付記入スルコトヲ得ルコト

(7) 白米精麥給與、食事給與ニハ無償ニテ支給セル白米精麥、食事及住居ニ付原生大臣ノ定ムル評價額ニ依リ換算額ヲ記入スルコト

様式第二十號（用紙ノ大サハ日本標準規格A7ト
シ中央點線ノ所ニヨリ二ツ折ト爲ス）

（表　面）

賃金統制ニ關スル臨檢票

（表　面）

第　號　　昭和　年　月　日交付

厚生省又ハ
廳府縣印

官職氏名

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アル十キハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

賃金統制令第三十一條　厚生大臣又ハ地方長官ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ賃金ノ狀況ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

賃金統制令施行規則第四十條　令第三十一條第二項ノ規定ニ依ル賃金統制令施行規則ハ様式第二十號ニ依ル

賃金統制令施行細則

（警視廳令第四一四號
昭和十五年十一月十九日）

第一條　本令ニ於テ令ト稱スルハ賃金統制令ヲ、規則ト稱スルハ賃金統制令施行規則ヲ、措置令ト稱スルハ賃金臨時措置令ヲ、措置令施行規則ト稱スルハ賃金臨時措置令施行規則ヲ謂フ

第二條　令、規則、措置令、措置令施行規則又ハ本令ニ依リ警視總監ニ提出スヘキ申告書又ハ報告（屆）書ハ工場、事業場、事務所其ノ他毎ニ其ノ所轄警察署長ヲ經由スヘシ但シ令第二十一條及第二十四條ノ規定ニ依ル賃金協定ニ關スル申請書ハ雇傭主相互間ノ協定ニ在リテハ代表者ノ住所地ヲ管轄スル警察署長ヲ、組合又ハ團體ノ協定ニ在リテハ其ノ組合又ハ團體ノ協定ニ在リテハ其ノ組合又ハ團體ノ主タル事務所ヲ在地ヲ管轄スル警察署長ヲ經由スヘシ

第三條　令、規則、措置令、措置令施行規則ニ依ル申請書、規則第三十八條後段（毎賃金總額計算期間賃金臺帳總括票ノ寫報告）、第四十四條（代理人ノ選任、解任屆）本令第四條（適用屆）又ハ第五條（適用除外、勞務者十八人未滿ニ減少ノ屆）ノ規定ニ依ル報告（屆）書各二通提出スヘシ

第四條　令ノ適用ヲ受クル雇傭主ニシテ向一ノ工場、事業場事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ別記第一樣式ニ依リ速ニ警視總監ニ屆出ツヘシ常時十人未滿ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主常時十人以上ヲ雇傭スルニ至リタルトキ亦同シ

第五條　前條ノ雇傭主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ別記第二號樣式ニ依リ速ニ警視總監ニ屆出ツヘシ

一　令ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキ

二　常時雇傭スル勞務者十八人未滿トナリタルトキ

第六條　令第六條ノ規定ニ依リ報告スヘキ賃金規則ノ用紙ハ日本標準規格B4（竪二五、七糎　横三六、四糎）ニ依ルヘシ

第七條　令第二十一條（賃金協定）ノ規定ニ依ル申請書ニハ規則第三十一條ニ揭クル事項ノ外左ノ事項ヲ具シ昭和十四年九月十八日當時及協定當時ノ賃金標準ヲ知ルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

一　協定ヲ爲シタル賃備主ノ事業ノ種類

二　協定者組合又ハ團體ナルトキハ其ノ組合員又ハ團體員（組合又ハ團體ヲ組織スル組合又ハ團體ノ組合員又ハ團體員ヲ含ム）ノ員數

三　協定賃金ニ依リ雇傭セラルル勞務者ノ職種別ニ依ル男女別員數

四　協定ヲ爲シタル雇傭中工場法ノ適用ヲ受クル者アルトキハ其ノ員數

五　協定賃金算出ノ基礎

六　協定賃金實施ノ年月日

第八條　規則第二十九條（臨時給與）ノ規定ニ依ル申請書ニハ樣式所定ノ事項ノ外給與セントセル理由ヲ詳記スヘシ

第九條　規則第三十八條ノ規定ニ依リ報告スヘキ賃金臺帳（總括票）ノ寫ニハ適當ナル箇所ニ工場、事業場、事務所ノ他從業場所ノ所在地、電話番號及所轄警察署名ヲ記載スヘシ

第十條　規則第四十四條（代理人ノ選任解任）ノ規定ニ依ル屆ハ別記第三號樣式ニ依ルヘシ

第十一條　措置令又ハ措置令施行ノ規定ニ依ル申請書ニハ雇傭主ノ住所氏名（法人ニ在リテハ名稱、主タル事務所々在地及代表者ノ氏名）竝ニ雇傭スル男女別勞務者數ヲ記載スヘシ

第十二條　令、規則、措置令、措置令施行規則又ハ本令ニ依リ提出スヘキ申請書又ハ報告（屆）書ニ記載スヘキ事業ノ種類ニシテ之ヲ記載スヘシ

第十三條　雇傭主、令、規則、措置令又ハ措置令施行規則ニ依ル申請書ヲ提出シタルトキ指令書ト共ニ其ノ副本ヲ、報告（屆）書ヲ提出シタルトキハ其ノ謄本ヲ作成シ工場、事業場、事務所其ノ他ノ從業場所ニ之ヲ保存スヘシ

前項ノ書類ノ保存期限ハ賃金規則ニ在リテハ永久、其ノ他前項ノ書類ノ保存期限ハ賃金規則ニ在リテハ永久、其ノ他ノ書類ニ在リテハ三年トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年四月警視廳令第十三條賃金統制令施行細則及昭和十四年十一月警視廳令第三十七號賃金臨時措置令施行細則ハ之ヲ廢止ス

別表（工業分類表）省略

注　意

工業分類表ハ昭和十五年八月一日發行工場時報八月號ニ登載シアルニ付參照ノコト

第一號樣式（第四條ノ規定ニ依ルモノ）（用紙ノ大サハ日本標準規格B5竪二五・七糎横一八・二糎トス）

賃金統制令適用屆

| | | |

第二號樣式（第五條ノ規定ニ依ルモノ）（用紙ノ大サハ日本標準規格B5 竪二五・七糎 横一八・二糎トス）

賃金統制令施行細則第五條ノ屆（適用除外勞務者ノ減少）

小分類番號		事業ノ種類		從業場所ノ名稱		所在地	雇傭主ノ氏名（法人ニ在リテハ代表者ノ氏名）	所轄警察署名	電話番號	常時雇傭スル勞務者數		
									（　）	男	女	計
		屆出事由ノ生ジタル年月日	昭和　年　月　日						番			
		屆出ノ事由										
		其ノ他參考ト爲ルベキ事項										

昭和　年　月　日

住所

雇傭主　氏　名　㊞

警視總監　殿

記載注意　適用除外、勞務者ノ減小ノ區別ヲ明確ニシ不要文字ハ抹消スルコト

第三號樣式（第十條ノ規定ニ依ルモノ）（用紙ノ大サハ日本標準規格B5 竪二五・七糎 横一八・二糎トス）

代理人選（解）任屆

小分類番號		事業ノ種類		從業場所ノ名稱		所在地	雇傭主ノ氏名（法人ニ在リテハ代表者ノ氏名）	所轄警察署名	電話番號	常時雇傭スル勞務者數		
									（　）	男	女	計
		代理人	住所						番			
			氏名									
			其ノ事業場ニ於ケル地位（職名）									
		其ノ他參考ト爲ルベキ事項										

昭和　年　月　日

住所

雇傭主　氏　名　㊞

警視總監　殿

賃金臨時措置令第九條第三項第十五條但書及第六條第二項但書ノ規定ニ依ル特例ノ件

（厚生省令第一號 昭和十五年二月五日）

履傭主ハ電力ノ供給ヲ受クル能ハサルニ因リ勞務者ノ作業ヲ休止セシムル場合ニ於テハ其ノ勞務者ノ受クル賃金カ作業ヲ休止セサルトキニ受クヘキ賃金ヲ超過セザル範圍内ニ於テ指定期日ノ賃金基準ヲ變更シ勞務者ニ手當ヲ支給スルコトヲ得

履傭主前項ノ規定ニ依リ勞務者ニ手當ヲ支給スル場合ニ於テハ運滯ナク左ノ事項ヲ地方長官ニ報告スルコトヲ要ス

一　事業ノ種類。從業場所ノ名稱及所在地

二　支給スヘキ手當ノ内容

三　手當ヲ受クヘキ勞務者ノ種類及數

四　其ノ他參考トナルヘキ事項

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

男女別 ＼ 年齢別	一二歳以上一三歳未滿	一三歳以上一四歳未滿	一四歳以上一五歳未滿	一五歳以上一六歳未滿	一六歳以上一七歳未滿	一七歳以上一八歳未滿	一八歳以上一九歳未滿	一九歳以上二〇歳未滿	二〇歳以上二五歳未滿	二五歳以上
男子	六〇錢	六五錢	七〇錢	七五錢	八五錢	九五錢	一〇五錢	一一五錢	一二五錢	一四〇錢
女子	五五錢	五五錢	六〇錢	六五錢	六五錢	七〇錢	七五錢	七五錢	八五錢	一一〇錢

但シ作業ノ種類、技術等ニ依リ右ノ額ノ一割增ノ額ノ範圍内ニ於テ增スコトアルベシ

○A工場ニ於ケル賃金規則（記載例）

第一條　一日ノ所定就業時間數（休憩時間ヲ含ム）ハ左ノ通リトス

日　勤　十時間（休憩時間一時間）

交替作業ノ場合

晝　番　十二時間（休憩時間一時間）

夜　番　十二時間（休憩時間一時間）

第二條　賃金締切期間及支拂ノ期日ハ左ノ通トス

賃金ノ締切ハ毎月二回トシテ前月二十六日ヨリ其ノ月ノ十日迄ノ分ヲ十五日ニ支拂ヒ其ノ月ノ十一日ヨリ二十五日迄ノ分ヲ末日ニ支拂フ

賃金支拂日休日ニ當ルトキハ前日ニ繰上ク

第三條　未經驗勞務者ノ所定就業時間ニ對スル定額給ノ初給額ハ左ノ通リトス

第四條　未經驗勞務者以外ノ勞務者ノ所定就業時間ニ對スル定額給ノ初給額ハ左ノ標準ニ依リ前條ノ初給額ニ加算シタル額トス

（イ）男子

經驗年數	加算額
滿六ヶ月以上一年未滿 一年以上二年未滿 二年以上四年未滿 四年以上六年未滿 六年以上十年未滿 十年以上	五錢 十錢 二十錢 四十錢 八十錢 八錢 一年ヲ增ス毎ニ

男女別 ＼ 年齢別	一二歳以上一三歳未滿	一三歳以上一四歳未滿	一四歳以上一五歳未滿	一五歳以上一六歳未滿	一六歳以上一七歳未滿	一七歳以上一八歳未滿	一八歳以上一九歳未滿	一九歳以上二〇歳未滿	二〇歳以上二五歳未滿	二五歳以上
男子	五〇錢	五五錢	六〇錢	六五錢	七〇錢	七五錢	八〇錢	九〇錢	九五錢	一〇五錢
女子	四五錢	四五錢	五〇錢	五〇錢	五五錢	五五錢	六〇錢	六〇錢	六五錢	七五錢

但シ作業ノ種類、技倆等ニ依リ右ノ額ノ一割增ノ範圍内ニ於テ增スコトアルヘシ

第七條　未經驗勞務者以外ノ勞務者ノ所定就業時間ニ對スル保證給ノ初給額ハ左ノ標準ニ依リ前條ノ初給額ニ加算シタル額トス

（イ）男子

A工場ニ於ケル賃金規則（記載例）

（ロ）女子

經驗年數	加算額
滿六ヶ月以上一年未滿 一年以上二年未滿 二年以上四年未滿 四年以上	四錢 八錢 十五錢 二十錢

但シ作業ノ種類、技倆等ニ依リ前條ノ初給額ニ右ニ揭クル額ヲ加算シルタ額ノ一割增ノ範圍内ニ於テ增スコトアルヘシ

第五條　當工場ニ於ケル所定就業時間ニ對スル定額給ノ最低額ハ第三條ニ揭クル額トス

第六條　未經驗勞務者ノ請負賃金制ニ於ケル保證額ノ初給額ハ所定就業時間ニ對シ左ノ通リトス

經驗年數	加算額
滿六ヶ月以上一年未滿 一年以上二年未滿 二年以上四年未滿 四年以上六年未滿 六年以上十年未滿 十年以上	五錢 八錢 十五錢 二十五錢 五十錢 五錢 一年ヲ增ス毎ニ

（ロ）女　子

勤続年数	加算額
満六ケ月以上一年未満	四銭
一年以上二年未満	七銭
二年以上四年未満	十銭
四年以上	十五銭

第八條　請負賃金制ニ於ケル保證給ノ最低額ハ第六條ニ掲ク

第九條　時間請負制ニ依ル請負作業ニ從事セシムル場合ノ單位時間給ハ一時間ニ付保證給ノ九分ノ一ノ割合ヲ以テ計算シタル額トス

第十條　請負單價、請負時間及賃金定方法ハ左ノ通リトス

一　單價請負制

（イ）請負單價

製品名	作業ノ種類	單價
一　同　同　ポンプ（A型ピストン）ポンプ（A型ピストン）ポンプ	バフ仕上ボール盤	〇・二四 〇・二八 〇・四二 〇・四五 〇・一一 〇・一三

（ロ）女　子

勤続年数	加算額
満六ケ月以上一年未満	四銭
一年以上二年未満	七銭
二年以上四年未満	十銭
四年以上	十五銭

第八條　請負賃金制ニ於ケル保證給ノ最低額ハ第六條ニ掲ク

第九條　時間請負制ニ依ル請負作業ニ從事セシムル場合ノ單位時間給ハ一時間ニ付保證給ノ九分ノ一ノ割合ヲ以テ計算シタル額トス

第十條　請負單價、請負時間及賃金定方法ハ左ノ通リトス

一　單價請負制

（イ）請負單價

製品名	作業ノ種類	單價
一　同　同　ポンプ（A型ピストン）ポンプ（A型ピストン）ポンプ	バフ仕上ボール盤	〇・二四 〇・二八 〇・四二 〇・四五 〇・一一 〇・一三

（ロ）賃金算定方法

賃金＝單價×作業個數

但シ作業ノ個數ノ計算ニ當リテハ不合格品ハ合マサルモノトス

右ノ算式ニ依リ算定シタル賃金ノ額ガ保證給ニ滿タサル場合ヲ支給ス

二、時間請負制

（ロ）請負時間

製品名	作業ノ種類	請負時間
一　同　木　革ケーシング（B型5號） 同　木　革ライナー（B型3號） 同　木　革ガイドベイン（B型3號） 一　フランス錠	平削 底縫 中縫 上縫 正面縫 上縫 縫 縫	一・三 一・六・五 一・八三・〇 一・一五・〇 一・八六・〇 一・八九・〇

（ロ）賃金算定法

（1）實働時間數ガ請負時間數以下ノ場合

賃金＝(時給)×(實働時間數)＋

$$\frac{(\text{時給})\times\{(\text{請負時間數})-(\text{實働時間數})\}}{2}$$

（2）實働時間數ガ請負時間數ヲ超過セル場合

賃金＝(時給)×(實働時間數)

第十一條　工員ニ對シ左ノ手ヲ支給ス

名稱	額又ハ率	給與條件
休日出勤歩増	定額日給（又ハ保證給）ノ一割	毎月ノ休日出勤ニ付
同	同　ノ八割	元旦又ハ大祭日ノ出勤ニ付
早出殘業歩増	定額日給（又ハ保證給）ノ時間割額ノ一割	早出殘業ニ時間迄ノ殘業一時間ニ付
同	同　ノ二割	早出殘業ニ時間ヲ超ユル殘業一時間ニ付
精勤手當	定額日給（又ハ保證給）ノ二日分	一ケ月皆勤ニ對シ
皆勤手當	十錢	就業一日ニ付
家族手當	二圓乃至十圓	當月ノ給料百五十圓以内ノ人夫ニ對シ家族アル者ニ付家族一人ニ一圓
役付手當	三圓	伍長一人ニ付月額
同	五圓	組長一人ニ付月額
作業手當	二十錢乃至三十錢	全圓筒旋盤工ノ就業一日ニ付
年功加給	一圓乃至十圓	滿一年ヲ五年ニ增ス毎ニ月ヲ以テ一圓ヲ加給ス但シ一圓ヲ以テ加給月額ノ最高額トス
住宅手當	三圓	通勤工ニ付月額
所定休日手當	定額日給（又ハ保證給）ノ六割	所定ノ休日一日ニ付
重要會議手當	定額日給（又ハ保證給）ノ二日分	サルエ°ニ點呼又ハ消防等重要會議ノ召集ヲ受ケ就業セサル者ニ對シ一日ニ付
臨時召集手當	標準報酬日額ノ六割	臨時召集セル者ニ對シ一日ニ付

第十二條　工員ニ對シ左ノ實物ヲ給與ス

種類	数量	評価額
食事	一食	男 十銭 女 八銭
同	三食	男 二十五銭 女 二十銭
住居	一畳半	一月ニ付 四十五銭
被服	一着分	十圓
白米	一斗	三圓四十四銭

第十三條　工員自己ノ都合ニ依リ遅刻シ入場ヲ許可セラレタルトキ又ハ早退シタルトキハ左ノ割合ニ依リ賃金ヲ減額スルコトアルヘシ

一　遅刻三十分迄ハ定額日給ノ十分ノ一

二　早退一時間迄ハ定額日給（又ハ保證給）ノ十分ノ一
　早退二時間迄ハ定額日給（又ハ保證給）ノ五分ノ一

第十四條　賃金支拂ノ際別ニ定ムル貯蓄規定ニ程ニヨリ左ノ割合ニヨル貯蓄額ヲ毎月各自ノ受クルヘキ賃金ヨリ控除ス

賃金實收月額　百　圓未滿　百分ノ五
　百五十圓未滿　百分ノ七
　百五十圓以上　百分ノ十

○賃金規則記載心得

第一　所定就業時間數ニ付テ

給與條件
通勤工ニ對シ就業日ノ全食
寄宿工ニ對シ毎日
寄宿工ニ對シ
見習工入社ニ際シ
男子職工ニシテ扶養家族ヲ有スル通勤工ニ對シ毎月

一　作業ノ種類、男女其ノ他ノ區別ニ依リ所定就業時間數ヲ異ニスル場合ハ別ニ之ヲ記載スルコト

第二　賃金ノ締切ノ期日及支拂ノ期日ニ付テ

一　死亡、解雇、退職其ノ他ノ場合ニ於テ賃金ノ締切期間又ハ支拂日ノ例外ヲ規定スルトキハ之ヲ記載スルコト

二　毎日其ノ日ノ賃金ヲ支拂フ場合ハ其ノ旨記載スルコト

三　請負賃金制又ハ定額賃金制ノ別ニ依リ異ル定アルトキハ各別ニ之ヲ記載スルコト

第三　定額給ノ初給額及最低額ニ付テ

一　定額給ノ初給額及最低額ニハ手當、實物給與、賞與第ニ合マサルモノヲ記載スルコト

二　作業ノ種類、學歷等ニ依リ異ル定ヲ爲ストキハ各別ニ之ヲ記載スルコト

三　所定就業時間ヨリ休憩時間ヲ除キタル時間又ハ賃金計算ノ單位時間ニ對シ定額給ヲ定メタルトキハ其ノ旨ヲ記

載スルコト

第四　請負賃金制ニ於ケル保證給又ハ單位時間給ノ初給額及最低額ニ付テ

一　保證給又ハ單位時間給ノ初給額及最低額ニ關スル記載ハ定額給ノ初給額及最低額ニ關スル記載ニ準スルコト

第五　請負單價、請負時間又ハ請負歩合及賃金算定方法ニ付テ

一　施行規則第六條第二項及第三項ノ規定ニ依リ請負單價請負時間又ハ請負歩合ノ全部又ハ一部ノ記載ヲ省略スルトキハ其ノ旨ヲ記載スルコト

二　請負單價、請負時間又ハ請負歩合ヲ記載シタルトキハ夫々ノ賃金算定方法ヲ明確ニスルコト

三　單價請負制、時間請負制ニシテ作業又ハ種類ニ依リ賃金算定方法ノ異ナル場合ハ其ノ作業又ハ製品ノ種類毎ニ賃金算定方法ヲ記載スルコト

四　保證給付請負制ノ場合ハ特ニ其ノ旨ヲ記載スルコト

第六　手當ニ付テ

一　工場、事業場等ニ於テ支給スル手當ハ總テ之ヲ記載スルコト

二　奬勵加給ノ制アル場合ハ手當トシテ之ヲ記載スルコト

第七　實物給與ニ付テ

一　實物給與ノ記載ハ實物ヲ無償ニテ給與スル場合ニ限ルコト

二　實物ノ評價額ハ白米、精麥、食事及住居ニ付テハ厚生大臣ノ定ムル額ヲ記載シ、其ノ他ノ實物ニ付テハ時價ヲ記載スルコト

第八　遅刻又ハ早退ノ場合ノ賃金計算方法ニ付テ

一　勞務者カ自己ノ都合ニ依ラシテ遅刻之ハ早退セル場合ノ賃金計算方法ニ付自己ノ都合ニ依ル場合ト異ル定アルトキハ之ヲ記載スルコト

第八　貯蓄又ハ公債購入ノ場合ノ賃金控除ニ付テ

一　任意ノ貯蓄又ハ內債購入ノ場合ニ於テモ賃金ノ一部ヲ控除スルトキハ其ノ要旨ヲ記載スルコト

第十　其ノ他

一　工場、事業場ニ於テ該當ナキ事項ニ付テハ記載ヲ要セサルコト

二　記載スヘキ事項ニシテ必要アルトキハ之ヲ別紙ニ記載スルコトヲ得ルコト

三　小使、給仕、守衛、タイピスト其ノ他ノ勞務者ニ付賃金ノ支拂ニ關シ職工、鑛夫ノ一般勞務者ト異ル定アルトキハ各別ニ賃金規則ヲ作成スルコトヲ得ルコト

四　年齡ノ計算ハ滿齡ニ依ルコト

五　賃金規則ノ提出猶豫期日ハ昭和十六年一月一日（作成ハ本年十二月十八月）ニシテ賃金臨時措置令ノ主タル條文ハ猶有效中ニ付キ就業時間、請負單價、手當、實物給與ノ給與條件ハ現狀ノ儘記載スルコトヲ要ス

但シ初給賃金ニ付キテハ公定セラレアルヲ以テ其ノ範圍ニ於テ自由ニ變更記載スルコトヲ得

六、精勤賞與、加給、奬勵金、歩增金名稱ノ何タルカヲ問ハス性質上手當ニシテ現行ノモノハ全テ記載スルコトヲ要ス

七、期末賞與（ボーナス）、昇給内規、臨時給與、物品販賣等ハ記載必須事項ニ非ラサルヲ以テ記載ハ自由ナリ

賃金統制令ニ依ル未經驗勞働者初給賃金

警視廳告示第三百十九號（昭和十四年八月一日）

賃金統制令第五條第一項ノ規定ニ依リ機械製造業、船舶車輛製造業、器具製造業、金屬品製造業、金屬精錬業ヲ營ム工場ニシテ工場法ノ適用ヲ受クルモノノ未經驗勞働者（滿十二歲以上滿二十歲未滿ノ男子）ノ初給賃金ヲ左ノ如ク定メ昭和十四年八月八日以後雇入ルル者ニ付之ヲ適用ス

一　初給賃金ノ標準額左ノ如シ

滿十二歲以上滿十三歲未滿	五十五錢
滿十三歲以上滿十四歲未滿	六十錢
滿十四歲以上滿十五歲未滿	六十五錢
滿十五歲以上滿十六歲未滿	七十四錢
滿十六歲以上滿十七歲未滿	八十三錢
滿十七歲以上滿十八歲未滿	九十三錢
滿十八歲以上滿十九歲未滿	一圓二錢
滿十九歲以上滿二十歲未滿	一圓十二錢

二　一日ノ總就業時間（休憩時間ヲ含ム以下之ニ同シ）十時間以内ノ就業ニ對スル初給賃金ニ付テハ滿十二歲以上滿十三歲未滿ノ者ニ在リテハ標準額ノ一割八分、滿十三歲以上滿十四歲未滿ノ者ニ在リテハ標準額ノ一割八分、滿十四歲以上滿十五歲未滿ノ者ニ在リテハ標準額ノ二割、滿十五歲以上滿十六歲未滿ノ者ニ在リテハ標準額ノ一割九分、滿十六歲以上滿十七歲未滿ノ者ニ在リテハ標準額ノ一割九分、滿十七歲以上滿十八歲未滿ノ者ニ在リテハ標準額ノ二割、滿十八歲以上滿十九歲未滿ノ者ニ在リテハ標準額ノ二割一分、滿十九歲以上滿二十歲未滿ノ者ニ在リテハ標準額ノ二割一分ニ相當スル額ヲ、各其ノ標準額ニ加ヘタル額ヲ以テ一日ノ最高制限ノ額トシ各其ノ標準額ヨリ減シタル額ヲ以テ一日ノ最低制限ノ額トス

三　一日ノ總就業時間十時間ヲ超ユル就業ニ對スル初給賃金ニ付テハ十時間ヲ超ユル一時間毎ニ前號ノ最高制限ノ額ニ其ノ十分ノ一ニ相當スル額（一時間未滿ノ就業ニ付テハ此ノ割合ヲ以テ算出シタル額）ヲ加ヘタル額ヲ以テ一日ノ最高制限ノ額トス

四　事業主ノ都合ニ依ラスシテ一日ノ總就業時間カ所定就業時間（休憩時間ヲ含ム）ニ滿タサル場合ハ其ノ日ノ就業ニ對スル初給賃金ハ第二號ノ最低制限ノ額ヲ下ルコトヲ妨ケス

五　請負給制ノ場合ニ於ケル初給賃金ノ最高、最低ノ制限ハ月額ニ依ルモノトス

右ノ場合ニ於テハ毎月（賃金締切日ノ定アル場合ハ其ノ最終賃金締切前一月、雇入後一月ニ滿タサル場合ハ其ノ期間）ノ稼働日毎ニ第二號乃至前號ニ依リ算出シタル一日ノ最高、最低ノ制限額ノ合計ヲ以テ一月（雇入後一月ニ滿タサル場合ハ其ノ期間）ノ最高、最低ノ制限額トス但シ前號該當ノ稼働日ノ最低制限ノ額ハ之ヲ零トシテ計算スルモノトス

備考

最高額及最低額ノ算定ニ當リテハ錢位未滿ハ四捨五入スルモノトス

警視廳告示第三百十二號

賃金統制令第五條第一項ノ規定ニ依リ工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ未經驗勞働者（滿十二歲以上二十歲未滿ノ女子）ノ初給賃金ヲ左ノ如ク定ム、昭和十五年十月一日以後ニ雇入ルル者ニ付之ヲ適用ス

昭和十五年九月二十八日

警視總監　安倍源基

賃金統制令ニ依ル未經驗勞働者初給賃金

一、定額給制ノ場合ニ於テ一日ノ總就業時間（休憩時間ヲ含ム以下之ニ同ジ）十時間以内ノトキニ於ケル初給賃金ノ最高額最低額及標準額左ノ如シ

年齡	最高額	標準額	最低額
滿十二歲以上滿十四歲未滿	八十二錢	六十五錢	四十八錢
滿十四歲以上滿十六歲未滿	八十八錢	七十錢	五十二錢
滿十六歲以上滿十八歲未滿	九十五錢	七十五錢	五十五錢
滿十八歲以上滿二十歲未滿	一圓九錢	八十五錢	六十一錢

二、定額給制ノ場合ニ於テ一日ノ總就業時間十時間ヲ超ユル就業ニ對スル初給賃金ハ前號ノ最高額ニ十時間ヲ超ユル一時間毎ニ其ノ十分ノ一ニ相當スル額（一時間ニ滿タサル時間ニ對シテハ其ノ一時間ニ對スル割合ヲ前號ノ最高額ノ十分ノ一ニ乘シタル額）ヲ加ヘタル額ヲ以テ最高額トス但シ錢位未滿ハ四捨五入スルモノトス

三、定額給制ノ場合ニ於テ事業主ノ都合ニ依ラスシテ一日ノ總就業時間カ所定就業時間（休憩時間ヲ含ム）ニ滿タサル場合ハ其ノ日ノ就業ニ對スル初給賃金ハ第一號ノ最低額ヲ下ルコトヲ妨ケス

四、請負給制ノ場合ニ於ケル初給賃金ノ最高額又ハ最低額ハ月額ニ依リ前三號ノ規定ニ準シ稼働日毎ニ算出シタル最高額又ハ最低額ヲ合シタルモノヲ以テ毎月（賃金締切日ノ定メアル場合ハ其ノ月ノ最終賃金締切日前一月但シ雇入後一月ニ滿タサルトキハ其ノ期間）ノ最高額又ハ最低額トス

賃金統制令ニ依ル未經驗勞働者初給賃金

様式第一號

勞働者賃金月報（昭和　年　月分）

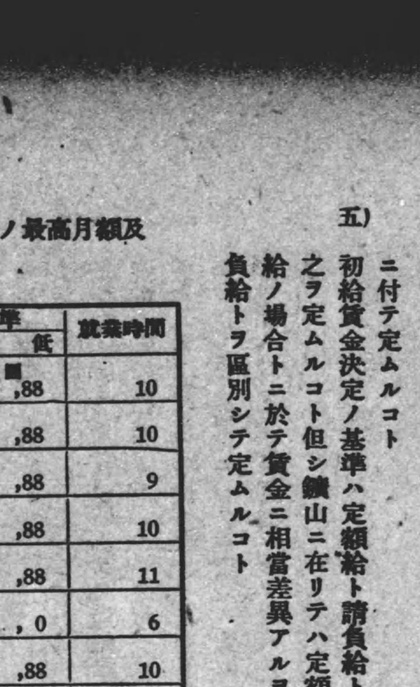
| 工場又ハ事業場名 | | |

五)　初給賃金決定ノ基準ハ定額給ト請負給トヲ區別セスシテ之ヲ定ムルコト但シ鑛山ニ在リテハ定額給ノ場合ト請負給ノ場合トニ於テ賃金ニ相當差異アルヲ以テ定額給ト請負給トヲ區別シテ定ムルコト

十九歳以上二十歳未滿ノ者ノ請負給ノ最高月額及最低月額ノ計算例

月	日	一日實收賃金	標準 最高	標準 最低	就業時間
	1	■1,35	■1,36	■,88	10
	2	1,42	1,36	,88	10
	3	,80	1,36	,88	9
	4	1,42	1,36	,88	10
	5	1,56	1,50	,88	11
	6	,70	1,36	,0	6
	7	1,40	1,36	,88	10
	8	,90	1,36	,88	9
	9	1,40	1,36	,88	10
	10	1,60	1,63	,88	12
計		12,55	14,00	7,92	97

就業十時間以上ノ場合ノ最高額及最低額
（十九歳以上二十歳未滿ノ者ノ例）



初給賃金早見表

年齢	就業時間	1	2	3	4	5
12—13 45	最高	65	72	79	86	93
	最低	55	61	67	73	79
13—14 49	最高	71	78	85	92	99
	最低	60	66	72	78	84
14—15 52	最高	78	86	94	102	110
	最低	65	72	79	86	93
15—16 60	最高	88	97	106	115	124
	最低	74	81	88	95	109
16—17 67	最高	99	109	119	129	139
	最低	83	91	99	107	115
17—18 74	最高	112	123	134	145	156
	最低	93	102	111	120	129
18—19 81	最高	123	135	147	159	171
	最低	102	112	122	132	142
19—20 88	最高	136	150	164	178	192
	最低	112	123	134	145	156

（年齢ノ下ノ數字ハ最低ヲ示ス）

標準工業分類ニ關スル覺書協定ノ件

覺書

關係各廳ニ於テ調製スル統計ニシテ工業ノ種類ニ依リテ類別スルモノニ付テハ別紙標準工業分類ニ據ル但シ右ニ據リ難キ特別ノ事情アルトキハ本分類ニ據ルモノト比較對照ノ便ヲ失ハサル程度ニ各項目ヲ銓約シ又ハ細別スルモノトス

右協定ス

昭和十五年一月二十二日

內閣統計局長	川島孝彥
企畫院次長	武部六藏
大藏次官	大野龍太
農林次官	荷見安
商工次官	岸信介
厚生次官	岡田文秀

（別紙）標準工業分類

1 金屬工業（大分類）

一 金屬精錬業及材料品製造業（中分類）

小分類	上記事業ノ主ナル生產品
1 鐵精錬業及材料品	銑鐵、フエロアロイ（合金鐵）、鋼塊及鋼
2 銅精錬業及材料品製造業	錠、鋼板（厚サ六粍以上、鋼板（厚サ六粍未滿）、鋼條竿、鋼線材、鋼線、鋼管、軌條（フイッシュプレートヲ含ム）、其ノ他ノ鋼材料品、特殊鋼塊及特殊鋼錠、特殊鋼板、特殊鋼條竿、其ノ他ノ特殊鋼材料品
3 亞鉛精錬業及材料品製造業	電氣銅地金、銅屑、黃銅屑、青銅屑等ヨリ再生シタル銅地金、裸銅電線、銅板（其ノ他ノ銅製品）、銅大板、銅條、銅管、銅棒、銅線、銅セバ又ハラベ、銅撚線、撚棒及撚管
4 鉛精錬業及材料品製造業	亞鉛塊及亞鉛錠（蒸溜）、亞鉛板、其ノ他ノ亞鉛材料品
5 アルミニウム精錬業及材料品製造業	鉛塊及鉛錠、鉛板、鉛管、鉛箔、其ノ他ノ鉛材料品
6 マグネシウム精錬業及材料品製造業	アルミニウム塊及アルミニウム錠、アルミニウム板、アルミニウム條竿、アルミニウム線、アルミニウム管、アルミニウム箔、其ノ他ノアルミニウム材料品
7 錫精錬業及材料品製造業	マグネシウム
8 金屬タングステン精錬業及材料品製造業	錫地金、ブリキ屑ヨリ再生シタル錫地金、錫箔
9 アンチモン精錬業及材料品製造業	金屬タングステン
10 其ノ他ノ金屬精錬	アンチモン
	白金、金地金、金箔、銀地金、銀箔、其

	業及材料品製造業	ノ他ノ金屬箔、其ノ他ノ金屬
11	黃銅材料品製造業	黃銅板(共通品)、黃銅大板、黃銅條、黃銅管、黃銅棒、黃銅線、黃銅セバ又ハノベ、黃銅雜線、雜棒及雜管
12	其ノ他ノ銅合金材料品製造業	其ノ他ノ銅合金板、其ノ他ノ銅合金大板、其ノ他ノ銅合金條、其ノ他ノ銅合金管、其ノ他ノ銅合金棒、其ノ他ノ銅合金線、其ノ他ノ銅合金セバ又ハノベ、其ノ他ノ銅合金雜線、雜棒及雜管
13	其ノ他ノ合金材料品製造業	ヂユラルミン、シルミン、其ノ他ノアルミニウム合金、マグネシウム合金、軸受合金、ハンダ、其ノ他ノ合金
	二 鑄物業	
14	銑鐵鑄物業	鑄鐵管、鑄鐵放熱器、機械用鑄鐵品、其ノ他ノ鑄鐵品(鍋、釜、鐵瓶等)
15	可鍛鑄鐵鑄物業	可鍛鑄鐵
16	銅鑄物業	鑄銅鋼、其ノ他ノ鑄銅品
17	青銅(燐青銅ヲ含ム)鑄物業	青銅(燐青銅ヲ含ム)鑄物
18	アルミニウム鑄物業	アルミニウム鑄物
19	其ノ他ノ鑄物業	其ノ他ノ機械用鑄物、其ノ他ノ鑄物
	三 メツキ業	
20	亞鉛メツキ業	亞鉛メツキ鋼板、亞鉛メツキ鋼線、亞鉛メツキ鋼管、其ノ他ノ亞鉛メツキ品
21	錫メツキ業	ブリキ、錫メツキ線、其ノ他ノ錫メツキ品
22	ニツケルメツキ業	ニツケルメツキ品
23	其ノ他ノメツキ業	クロムメツキ品、其ノ他ノメツキ品
	四 其ノ他ノ金屬工業	
24	鏈鎖製造業	鎖鎖、其ノ他ノ鏈鎖
25	バネ製造業	バネ
26	鋼索製造業	鋼索
27	金網製造業	金網
28	ボルト、ナツト、座金及鋲製造業	ボルト、ナツト及座金、鐵鋲(リベツト)、其ノ他ノ鐵(リベツト)
29	釘類鋲製造業	鐵丸釘、木ネジ、其ノ他ノ釘類(蹄釘ヲ除ク)
30	針類製造業	縫針、ミシン針、メリヤス用針、其ノ他ノ針類
31	金屬板製品製造業	ブリキ罐、ドラム罐、其ノ他ノ金屬板製品
32	建築用及家具用金物製造業	錠前、鍵及蝶番、其ノ他ノ建築用及家具用金物

33	金屬製建具、家具類製造業	鐵製建具、家具及什器、其ノ他ノ金屬製建具、家具及什器
34	建築、橋梁、鐵塔等ノ建設材料製造業	建築、橋梁、鐵塔等ノ建設材料
35	金屬器類製造業	金、白金及銀器(貴金屬細工品ヲ含ム)、銅器及青銅器、黃銅器、錫器、アルミニウム器、アンチモン器、時計用鎖、徽章及賞牌、金屬製鈕釦
36	金屬製ペン先製造業	金製ペン先(萬年筆用)、鋼製ペン先(メツキシタルモノヲ含ム)、其ノ他ノ金屬製ペン先
37	剃刀、食卓用ナイフ、フオーク及スプーン製造業	剃刀(安全剃刀ヲ含ム)、食卓用ナイフ、フオーク及スプーン
38	洋傘骨製造業	洋傘骨
39	金屬製玩具製造業	金屬製玩具
40	金屬製小間物類製造業	タボ止、ヘヤーピン、石鹼箱其ノ他ノ金屬製小間物類
41	蹄鐵及蹄釘製造業	蹄鐵、蹄釘
42	火造(鍛冶)業	火造品
43	金屬切斷業	金屬切斷品
44	熔接業	熔接品
45	其ノ他ノ金屬品製造加工業	其ノ他ノ金屬品

2 機械器具工業(大分類)

	五 原動機類製造業(中分類)	
	小分類	上記事業ノ主ナル生產品
46	蒸氣罐製造業	水管罐、組合罐、陸用圓罐、其ノ他ノ蒸氣罐、蒸氣罐部分品及附屬品
47	蒸氣機關及蒸氣タービン製造業	蒸氣機關、蒸氣タービン
48	內燃機關製造業	ガス機關、ガソリン機關、燈油機關、重油機關
49	水車製造業	タービン水車、ベルトン水車
50	其ノ他ノ原動機製造業	其ノ他ノ原動機
51	原動機部分品及附屬品製造業	原動機部分品及附屬品
	六 電氣機械器具類製造業	
52	電氣機械器具製造業	發電機(電動發電機ヲ含ム)、電動機、回轉變流機、周波數變換機、變壓器、水銀整流器、其ノ他ノ整流器、扇風機、電熱器、其ノ他ノ電氣機械器具
53	無線及有線通信機械器具製造業	家庭用ラヂオ受信機械器具、其ノ他ノ無線通信機械器具、有線通信機械器具(搬送裝置ヲ含ム)

	七 電線及電纜製造業	
54	電線及電纜製造業	絕緣電線、燃合撚線、電纜
	八 電池製造業	
55	電池製造業	蓄電池、乾電池
	九 工作機械器具製造業	
56	切削研磨用金屬工作機械製造業	旋盤、ボール盤、中グリ盤、フライス盤、研磨盤、齒切盤、平削盤、形削盤及竪削盤、ブローチ盤、金切鋸盤、其ノ他ノ切削研磨用金屬工作機械
57	其ノ他ノ金屬工作機械製造業	打貫機、剪斷機、型付プレス、其ノ他ノ金屬板加工用工作機械、壓延機、機械鍛、火造プレス、其ノ他ノ金屬工作機械
58	金屬工作機械部分品及附屬品製造業	金屬工作機械部分品及附屬品（工具ヲ除ク）
59	製材及木工機械製造業	製材及木工機械
	十 工具製造業	
60	工具製造業	金屬工用切削工具、金屬工用剪斷及打貫工具、其ノ他ノ金屬工用工具、木工用工具（鋸、ノミ、鉋等）、其ノ他ノ工具（剪毛用ナイフ等）、手工具（空氣工具、萬力、スパナー、ペンチ、ネヂ廻等）
	十一 採鑛、選鑛及精練機械器具製造業	
61	採鑛、選鑛及精練機械器具製造業	採鑛機械器具、採油機械器具、砂金採取船、選鐵及精練機械器具

	十一 化學工業用機械器具製造業	
62	化學工業用機械器具製造業	蒸溜、蒸煮及蒸發機、濾過、混合及分離機冷却及乾燥機、反應機、化學工業用破碎機、其ノ他ノ化學工業用機械器具
63	窯業用機械器具製造業	窯業用機械器具
64	製紙機械器具製造業	製紙機械器具
	十二 紡織機械器具製造業	
65	紡織機械器具製造業	紡織機械器具、撚布機械器具、染色機械器具、布帛整理加工機械器具、メリヤス機械器具、其ノ他ノ紡織機械器具及附屬品
66	製絲機械器具製造業	製絲機械器具、製絲機械器具部分品及附屬品
	十三 其ノ他ノ製造加工用機械器具製造業	
67	ガス發生裝置製造業	自動車用ガス發生裝置、其ノ他ノガス發生裝置
68	食料品製造加工用機械器具製造業	食料品製造加工用機械器具
69	印刷機械器具製造業	印刷機械器具、活字
70	製本機械器具製造業	製本機械器具

	十五 自動車製造業	
71	ミシン製造業	ミシン及ミシン部分品
72	其ノ他ノ製造加工用機械器具製造業	鍊造機械、其ノ他ノ製造加工用機械器具
	十四 鐵道車輛製造業	
73	鐵道車輛製造業	蒸氣機關車（炭水車ヲ含ム）、電氣機關車、內燃機關車、機關車部分品及附屬品、客車、貨車及貨車ノ部分品及附屬品、電車、電車部分品及附屬品、內燃動車、小型蒸氣機關車、小型電氣機關車、小型內燃機關車、小型貨車、小型鐵道車輛部分品及附屬品
74	大型自動車製造業	乘用自動車、貨物自動車、乘合自動車、特殊自動車
75	小型自動車製造業	小型四輪自動車
76	自動二輪車及自動三輪車製造業	自動二輪車、自動三輪車
77	自動車部分品及附屬品製造業	自動車車體、自動車部分品及附屬品、
	十六 自轉車及其ノ他ノ車輛製造業	
78	自轉車製造業	自轉車、自轉車部分品及附屬品
79	其ノ他ノ車輛製造業	荷車、其ノ他ノ車輛

	十七 船舶製造業	
80	鋼船製造業	鋼船（總噸數千噸以上ノモノ）鋼船（總噸數千噸未滿ノモノ）
81	其ノ他ノ船舶製造業	其ノ他ノ船舶
	十八 航空機及航空機部分品製造業	
82	航空機製造業	航空機
83	航空機部分品及附屬品製造業	航空機部分品及附屬品
	十九 運搬機械製造業	
84	運搬機械製造業	起重機、ホイスト、エレベーク、コンベヤ、捲揚機、其ノ他ノ運搬機械
	二十 ポンプ、水壓機、瓦斯發生爐及氣體壓縮機製造業	
85	ポンプ及水壓機製造業	ポンプ、水壓機（金屬工作機械ヲ除ク）
86	送風機及氣體壓縮機製造業	送風機、氣體壓縮機
	二十一 農業及土木建築用機械器具製造業	
87	農業用機械器具製造業	農業用機械、農具
88	土木建築用機械器具製造業	土木建築用機械、土工具

	二十二 計測器類製造業	
89	度量衡器製造業	度器、量器、衡器、度量衡器部分品及附屬品
90	ガスメートル及水量メートル製造業	ガスメートル、水量メートル、ガスメートル及水量メートルノ部分品及附屬品
91	寒暖計製造業	寒暖計
92	體溫計製造業	體溫計
93	電氣計器製造業	電氣計器
94	計壓器類製造業	計壓器類
95	其ノ他ノ計器製造業	其ノ他ノ計器
96	電氣時計製造業	電氣時計
97	其ノ他ノ時計製造業	置時計、掛時計、懷中時計及腕時計、時計部分品
98	測量機械器具製造業	測量機械器具
99	試驗及檢查機械器具製造業	材料試驗機、ゲージ類、檢查測定機、其ノ他ノ試驗檢查機械器具
100	學術用機械器具製造業	學術用機械器具
	二十三 醫療機械器具製造業	
101	醫療用機械器具製造業	醫療用機械器具
	二十四 光學機械器具製造業	
102	寫眞機類製造業	寫眞機及寫眞機部分品、映畫撮影機及映寫機、幻燈器、其ノ他ノ寫眞機類
103	其ノ他ノ光學機械器具製造業	レンズ（プリズムヲ含ム）、顯微鏡、望遠鏡、双眼鏡、其ノ他ノ光學機械器具
	二十五 照明用機械器具製造業	
104	電球製造業	電球
105	其ノ他ノ照明用機械器具製造業	探照燈、懷中電燈、其ノ他ノ照明用機械器具
	二十六 蓄音機及蓄音機用品製造業	
106	樂器類製造業	ピアノ、オルガン、バイオリン、マンドリン、ギター等ノ絃樂器、其ノ他樂器類
107	蓄音機製造業	蓄音機
	二十七 銃砲、彈丸、兵器類製造業	
108	銃砲、彈丸、兵器類製造業	銃砲、彈丸、兵器類
	二十八 其ノ他ノ機械器具工業	
109	事務用機械製造業	計算機、金錢登錄機、タイプライター等ノ事務用機械

110	金庫製造業	金庫
111	ガス器具製造業	ガス器具
112	弁及コック製造業	弁及コック
113	軸受製造業	球軸受、コロ軸受、其ノ他ノ軸受、軸受部分品（球及コロヲ含ム）
114	歯車製造業	歯車
115	ベルト車、車軸及車軸製造業	ベルト車、車輪及車軸
116	前揭以外ノ部分品及附屬品製造業	前揭以外ノ部分品及附屬品
117	其ノ他ノ機械器具製造業	其ノ他ノ機械器具
	二十九 機械器具裝置業	
118	電氣機械器具裝置業	
119	其ノ他ノ機械器具裝置業	

3 化學工業（大分類）

三十 製鹽業（中分類）	
小分類	上記事業ノ主ナル生產品

120	製藥業	醫藥、賣藥及賣藥類似品
	三十一 工業藥品製造業	
121	ソーダ製造業	ソーダ灰、苛性ソーダ、洗濯ソーダ、重炭酸ソーダ
122	硫酸製造業	發煙硫酸、六十五度以上ノ硫酸、六十度以上ノ硫酸六十度未滿ノ硫酸
123	燐製造業	黃燐、赤燐、硫化燐
124	壓縮ガス製造業	酸素、水素、鹽素、アセチレン、炭酸（固體ノモノヲ含ム）、アンモニア（氣體及液體ノモノ）、其ノ他ノ壓縮ガス
125	カーバイト製造業	カーバイト（炭化石灰）
126	其ノ他ノ工業藥品製造業	鹽酸、顏粉、合成硝酸、其ノ他ノ硝酸、重クロム酸ソーダ、重クロム酸カリ、過マンガン酸カリ、硅酸ソーダ、硅酸カリ、過素酸ソーダ、鹽素酸ソーダ、鹽素酸カリ、苛性カリ、芒硝、硫化ソーダ、二硫化炭素、石炭酸、サルチル酸、醋酸、メタノール、アルコール、デチルアルコール、アセトン、ホルマリン、エーテル、グリセリン、グリコール、ヨード、ヨードカリ、鹽化カリ、炭酸カリ、硝石、硝酸アンモン、鹽化カルシユム、鹽化亞鉛、炭酸マグネシア、人造水晶石、明礬、硫酸アルミニウム、シアンナトリウム及シアンカリ、其ノ他ノ工業藥品

三十二 製鹽業

127	窯業	土石及ビ鑛物製品製造業	陶磁器製造業、煉瓦製造業、セメント製造業、石灰製造業、石膏製造業、其ノ他ノ土石及ビ鑛物製品製造業
128	天然染料製造業	天然染料及ビ其ノ他ノ天然染料ヲ製造スル業	藍、其ノ他ノ天然染料
129	硫化染料製造業	硫化染料製造業	硫化染料
130	其ノ他ノ無機合成染料及ビ中間物製造業	無機合成染料及ビ其ノ中間物製造業	酸性染料、直接染料、媒染染料、建染染料、硫化染料、其ノ他ノ染料及ビ其ノ中間物
131	漆液製造業	漆液製造業	漆液
132	塗料製造業	塗料及ビ顏料製造業	油性ワニス、ペイント、船底塗料、ボイラー塗料、其ノ他ノ塗料、其ノ他ノ塗料ニ關スル顏料、ルーミニス塗料、セラック、ラッカー、ドープ、ストッピング、パテ、グレーズ、ウッドフィラー、其ノ他ノ塗料ニ關スル顏料
133	顏料製造業		亞鉛華（亞鉛白）、鉛白（鉛華）、光明丹、鉛丹、一酸化鉛（密陀僧）、リサージ、バリウム鹽、金屬粉（アルミニウム粉、ブロンズ粉）、其ノ他ノ顏料
134	マッチ製造業	燐寸製造業	マッチ
135	其ノ他ノ爆發火藥類製造業	爆發火藥類製造業	黑色火藥、無煙火藥、雷管、導火線、ダイナマイト、其ノ他ノ爆發火藥類
136	ヨールタールノ分溜物製造業	ヨールタール分溜物及ビコールタールピッチ製造業	ベンゾール、トルオール、キシロール、ナフタリン、其ノ他ノタール油及ビコールタールピッチ
137	石油精製業	石油精製業	揮發油、燈油、重油、潤滑油、パラフィン、ワックス、其ノ他ノ石油精製品
138	人造石油製造業	人造石油製造業	人造石油
139	植物油脂製造業	植物油脂製造業	菜種油、胡麻油、落花生油、椿油、綿實油、大豆油、米糠油、其ノ他ノ植物油脂
140	樟腦製造業	樟腦製造業	樟腦、樟腦白油、樟腦赤油、樟腦油
141	薄荷製造業	薄荷製造業	薄荷腦、薄荷油
142	其ノ他ノ植物性油製造業	植物性油製造業	桐油、荏油、ヒマシ油、オイチシカ油、ラノリン、蠟、其ノ他ノ植物性油
143	魚油製造業	魚油製造業	鯨油、鰮油、鰊油、其ノ他ノ魚油

144	獸脂類製造業	獸脂類製造業	牛脂、豚脂、鯨油、其ノ他ノ獸脂類
145	木蠟製造業	木蠟製造業	木蠟
146	蠟燭製造業	蠟燭製造業	蠟燭
147	加工油製造業	加工油製造業	ボイル油、硬化油、オレイン酸、ステアリン酸、其ノ他ノ加工油
148	ゴム製品製造業	ゴム製品製造業	乘用自動車及自動二輪車、乘合自動車及自動二輪車、貨物自動車及自動三輪車、自動車用タイヤ及チューブ、自動車用ゴム引布、自動車用ゴム糸、自動車用ゴム紐、自動車用ゴム板、自動車用ゴム管、自動車用ゴム栓、其ノ他ノ自動車用ゴム製品、自轉車用タイヤ及チューブ、自轉車用ゴム引布、自轉車用ゴム糸、自轉車用ゴム紐、自轉車用ゴム板、自轉車用ゴム管、自轉車用ゴム栓、其ノ他ノ自轉車用ゴム製品、ゴム靴、其ノ他ノゴム履物、ゴム引布（ゴム底布、乾燥ゴム引布ヲ除ク）、ゴム糸（乾燥ゴム糸ヲ除ク）、ゴム紐（乾燥ゴム紐ヲ除ク）、ゴム板（乾燥ゴム板ヲ除ク）、ゴム管（乾燥ゴム管ヲ除ク）、ゴム栓（乾燥ゴム栓ヲ除ク）、其ノ他ノゴム製品（他ノ項ニ記載スルモノヲ除ク）
149	再生ゴム素地製造業	再生ゴム素地製造	
150	パルプ製造業	木材パルプ、繊維用化學パルプ、繊維用化學パルプ、其ノ他ノ化學パルプ	
151	製紙業	印刷用紙、新聞用紙、塗工紙、模造紙、洋紙、和紙、書記用紙、筆記用紙、製圖用紙、謄寫版原紙、タイプ用紙、複寫紙、包裝用紙、其ノ他ノ紙	
152	粟セロファン紙製造業	セロファン紙	
153	造粟セルロイド素地製造業	セルロイド素地	
154	造粟セルロイド製品製造業	セルロイド製品、セルロイド數箱、其ノ他ノセルロイド類	
155	再生セルロイド製造業	再生セルロイド素地	
156	人造絹絲製造業	人造絹絲	
157	ステープルファイバー製造業	ステープルファイバー	
158	其ノ他ノ化學纖維製造業	蛋白質纖維、其ノ他ノ化學纖維	

167	アルミナ製造業	バイヤー法ニ依ルモノニ限ル	
	バルカナイズドファイバー製造業		
	カルボランダム製造業		
	ナフタリン製造業		
	ドープ製造業		
	アセトン製造業		
	他ノ化學製品製造業		
166	蓄音機レコード製造業		
165	人造樹脂及合成樹脂製品製造業		
164	石鹸及化粧品製造業		
163	精製毛皮製造業		
162	製革業		
161	動物質肥料製造業		
160	植物質肥料製造業		
159	混合肥料製造業		

4 ガス業電氣業及水道業（大分類）

五十	ガス業（中分類）	
180	ガス業	ガス
五十一	電氣業	
181	電氣業	電氣
五十二	水道業	
182	水道業	

5 窯業及土石工業（大分類）

五十三	窯業陶磁器製造及附業（中分類）	
183	陶磁器製造業	衛生陶器、電氣絶縁用陶磁器、化學工業用陶磁器、理化學用陶磁器、陶管、陶製煙突上管、陶製下水管、陶製煙管、陶製煙道、陶製煙筒、陶製煙突、陶製ブロック、陶製タイル、陶製敷瓦、陶製壁瓦、陶製屋根瓦、陶製ブロック、陶製敷石、陶製ボール、陶製ボール、陶製ボール

6 紡織工業（大分類）

六十	繊維工業（中分類）			
196	生絲製造業	生絲		
197	玉絲製造業	玉絲		
198	副蠶絲製造業	副蠶絲		
199	製生絲業、屑絲類	生皮苧、屑絲及其ノ他ノ製絲所物		
小分類	上記事業ノ主ナル生産品			

六十一	紡織業			
200	綿紡績業	綿絲、綿絲紡績絲、混紡絲、絲絲紡績糸		
201	絹絲紡績業	繭絲紡績絲、絹紡績絲、屑絲（ペニー）、絹絲紡績絲		
202	麻絲紡績業	麻績絲、苧麻絲、亞麻絲、其ノ他ノ絲絲		
203	毛絲紡績業	毛混紡絲、紡毛糸、梳毛糸、混紡絲、紡毛糸、梳毛糸、混紡絲、紡毛糸、梳毛糸、フランネット糸、フランネット		
204	バステー絲紡績業、リネンテープ、クアイバー絲、ロープ、ストランド、ケーブル			
205	其ノ他ノ紡績業	更紗絲、蚕白質絲、其ノ他ノ紡績絲		

六十二	織物業			
206	綿織物業	綿織物、カーテン用織物、敷布、蚊帳、蒲團地、其ノ他ノ綿織物、メリヤス、ネル、ガーゼ、ベルベット、ビロード、ボア、ベッチン、ジーン、ドリル、ズック、ダック、ホース、ベルト、ロープ、ネット、蚊帳、帆布、其ノ他ノ綿織物		
207	絹織物業	絹織物、羽二重、縮緬、絽、紗、綾、繻子、ビロード、ベルベット、ボア、ネル、ガーゼ、其ノ他ノ絹織物		
208	工業ノ絲ノ他ノ紡績絲及加工絲業	工業絲、絹紡絲、人絹絲、合繊繊維絲、其ノ他ノ紡績絲及加工絲		

六十三	編組物業			
209	麻絹綿物製造業	麻製品（麻製綱（麻製綱索）、麻製繩（麻製繩索）、麻製紐）、絹製品（絹製綱（絹製綱索）、絹製繩（絹製繩索）、絹製紐）、綿製品（綿製綱（綿製綱索）、綿製繩（綿製繩索）、綿製紐）、麻布（麻製綱（麻製綱索）、麻製繩（麻製繩索）、麻製紐）、絹布（絹製綱（絹製綱索）、絹製繩（絹製繩索）、絹製紐）、綿布（綿製綱（綿製綱索）、綿製繩（綿製繩索）、綿製紐）、麻天蓋、麻ネル、麻ラシャ、麻ビロード、麻ベルベット、麻ボア

| | | |

262	水產食料品製造業	水產食料品ノ製造又ハ加工ヲ爲ス業（他ノ項ニ掲ケタルモノヲ除ク）
	十八 水產食料品製造業	
263	製茶業	茶ヲ製造スル業（他ノ項ニ掲ケタルモノヲ除ク）
	十九 製茶業	
264	醬油製造業	
	二十 醬油製造業	
265	製氷業	
	二十一 製氷業	
266	冷藏冷凍業	冷藏又ハ冷凍ノ業
	二十二 冷藏冷凍業	
267	製麵業	製麵ノ業
268	其ノ他ノ食料品製造業	ソース、ケチャップ、其ノ他ノ食料品ノ製造又ハ加工ノ業
269	印刷業	印刷ノ業
	二十三 印刷業（中分類）	
	小分類	上記事業ノ主ナル生産品

9 印刷業及製本業（大分類）

245	木竹蔓材業	飯用木竹、其ノ他ノ木竹ノ採取ノ業
246	コルク製品製造業	コルク製品、コルク板、コルク粉及粒、其ノ他ノコルクノ製造又ハ加工ノ業
247	燃料用木炭業	燃料用木炭、薪炭、其ノ他ノ木材ノ製造又ハ加工ノ業
248	其ノ他ノ木製品製造業	前下段ニ掲ケタル木製品ニ含マレザル木製品、木製ノ下駄、木製ノ履物ノ木ノ部分、マッチノ軸木、木製ノ柄、木製ノ樽、木製ノ桶、木製ノ箱、木製ノ容器、木製ノ額縁、木製ノ人形、木製ノ玩具、木製ノ楽器、木製ノ運動具、木製ノ文具、木製ノ事務用品、木製ノ家具、木製ノ建具、木製ノ装飾品、木製ノ彫刻物、木製ノ模型、木製ノ標本、木製ノ看板、木製ノ表札、木製ノ広告塔、木製ノ広告板、木製ノ広告旗、木製ノ広告幟、木製ノ広告風船、木製ノ広告人形、木製ノ広告模型、木製ノ広告ビラ、木製ノ広告ポスター、木製ノ広告ステッカー、木製ノ広告ネオン、木製ノ広告ショーウインドー、木製ノ広告ディスプレー、木製ノ広告ウインドーディスプレー、木製ノ広告ショーケース、木製ノ広告ショーウインドー、木製ノ広告ショーケース、木製ノ広告ディスプレー、木製ノ広告ウインドーディスプレー、木製ノ広告ポスター、木製ノ広告ステッカー、木製ノ広告ネオン、木製ノ広告ショーウインドー

276	其ノ他ノ蔓及莖製品製造業	木通製品、齒朶製品、其ノ他ノ蔓及莖製品
	八十八 疊及藁、棕櫚、眞田類製品製造業	
277	疊製造業	疊、疊表、疊床
278	莫蓙、花莚及野草莚製造業	莫蓙、花莚、野草莚
279	藁製品及棕梠製品製造業	藁繩、藁莚、其ノ他ノ藁製品、棕梠製品
280	麻眞田製造業	麻眞田
281	麥稈及經木製品製造業	麥稈眞田、經木眞田、其ノ他ノ麥稈及經木製品
	八十九 綿、麻、毛及絹製綱繩及網製造業	
282	綿、麻、毛及絹製綱繩及網製造業	麻製綱及繩、綿製綱及繩、毛及絹製綱及繩、魚網、其ノ他ノ網釜(網ヲ除ク)
	九十 纖維板製造業	
283	纖維板製造業	纖維板
	九十一 皮革製品製造業	
284	革靴製造業	革製靴
285	其ノ他ノ皮革製品製造業	革製鞄、革製馬具、革製ベルト、帽子用裏革(模造革ヲ含ム)、革製袋物、其ノ他ノ皮革製品

	九十二 鈕釦(金屬製ノモノヲ除ク)製造業	
286	鈕釦(金屬製ノモノヲ除ク)製造業	貝殼製鈕釦、セルロイド製鈕釦、アイボリナット製鈕釦、骨製鈕釦、角及蹄製鈕釦、其ノ他ノ鈕釦(金屬製ノモノヲ除ク)
	九十三 刷毛及刷子製造業	
287	刷毛及刷子製造業	齒磨用刷子、化粧用刷子、工業用刷子、其ノ他ノ刷子、糊附用刷子、其ノ他ノ刷子
	九十四 漆器製造業	
288	漆器製造業	飲食用漆器、家具及裝飾用漆器、其ノ他ノ漆器
	九十五 製帽業	
289	フエルト製帽子製造業	ウール製帽子、フアー製帽子
290	其ノ他ノ帽子製造業	羅紗、サージ及其ノ他ノ布帛製帽子、紙製造模造パナマ帽子、其ノ他ノ模造パナマ帽子、麥稈製帽子、麻製帽子(セロフアンヲ用ヒタルモノ)、其ノ他ノ麻製帽子、其ノ他ノ帽子
	九十六 玩具(金屬製ノモノヲ除ク)製造業	
291	玩具(金屬製ノモノヲ除ク)製造業	ゴム製玩具、セルロイド製玩具、木製玩具、陶磁器玩具、紙製玩具、其ノ他ノ玩具(金屬製ノモノヲ除ク)
	九十七 映畫製作業	

292	映畫製作業	
	九十八 寫眞業	
293	寫眞業	
	九十九 塗裝業	
294	塗裝業	塗裝品
	百 其ノ他ノ雜工業	
295	骨、角、蹄、甲、牙及貝類製品製造業	牙齒製品、龜甲製品、其ノ他ノ骨、角、蹄、甲、牙及貝類製品
296	醫療材料品製造業	脫脂綿(衛生綿ヲ含ム)、繃帶、ガーゼ、其ノ他ノ醫療材料品
297	毛筆製造業	毛筆
298	萬年筆製造業	萬年筆
299	鉛筆及クレヨン製造業	木鞘入鉛筆、其ノ他ノ鉛筆、クレヨン
300	和傘製造業	和傘
301	洋傘製造業	洋傘
302	草履(革製及ゴム製ノモノヲ除ク)、爪革類製造業	草履(革製及ゴム製ノモノヲ除ク)、スリツパー(革製及ゴム製ノモノヲ除ク)、鼻緒、爪革
303	羽毛及獸毛漂白整理業	羽毛獸毛
304	人造眞珠製造業	ガラス核人造眞珠、貝核人造眞珠
305	寶石類加工業	寶石類
306	魔法罐製造業	魔法罐
307	其ノ他ノ製造加工業	傘柄及傘手、造花類、其ノ他ノ製品

會社經理統制令

第一章 總則

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ)第十一條ノ規定ニ依ル會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關スル命令ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 會社ハ國家目的達成ノ爲國民經濟ニ課セラレタル責任ヲ分擔スルコトヲ以テ經營ノ本義トシ其ノ經理ニ關シ左ノ各號ニ揭クル事項ノ遵守ヲ旨トスヘシ

一 資金ハ之ヲ最モ有益ニ活用シ苟モ人的及物的資源ノ濫費ニ陷ルカ如キコトハ嚴ニ之ヲ避クルコト

二 經費ノ支出及資產ノ償却ヲ適正ナラシムルコト

三 役員、社員其ノ他從業者ノ給與及其ノ支給方法ヲ適正ナラシムルコト

四 利益ノ分配ヲ適正ナラシメ自己資金ノ蓄積ニ努ムルコ

ト

第二章　利益配當及積立金

第三條　資本金（出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同シ）二十萬圓以上ノ會社ハ每事業年度ニ付左ノ各號ノ率ノ中低キ率ヲ超ユル率ニ依リ利益配當（基金利息又ハ基金配當ヲ含ム以下同シ）ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　配當金總額カ自己資本ニ對シ年百分ノ八ニ相當スル金額ト爲ル配當率

二　直前ノ事業年度ノ配當率

左ノ各號ニ揭クル場合ニ於テハ各其ノ定ムル率ヲ前項第二號ノ率ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

一　直前ノ事業年度ノ配當率カ年百分ノ十ニ總セサルトキハ其ノ配當率ニ百分ノ一（六月ニ非サル期間ヲ事業年度トスルモノニ在リテハ當該事業年度ノ月數ノ六ニ對スル割合ヲ年百分ノ一ニ乘シテ得タル率）ヲ加ヘタル率但シ其ノ率カ年百分ノ六ニ總セサルトキハ年百分ノ六トシ年百分ノ十ヲ超ユルトキハ年百分ノ十トス

二　直前ノ事業年度ニ付利益配當ヲ爲ササリシトキ又ハ設立後最初ノ事業年度ノ利益配當ナルトキハ年百分ノ六

三　資本金二十萬圓未滿タリシ會社資本增加ニ因リ資本金二十萬圓以上ト爲リタル後最初ノ事業年度ニ付爲ス利益配當ナルトキハ第一號ノ規定ニ拘ラス年百分ノ六

四　配當金總額ノ自己資本ニ對シ年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ト爲ル配當率カ前三號ノ率ヨリ高キトキハ其ノ率但シ其ノ率カ年百分ノ十ヲ超ユルトキハ年百分ノ十トス

前二項ノ自己資本ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

第四條　主務大臣ハ左ノ各號ニ揭クル場合ニ於テハ會社ニ對シ期間ヲ定メ將來ノ配當率ニ付適當ト認ムル率ヲ指定スルコトヲ得

一　當該會社ノ利益ノ實情ニ照シ配當金カ過大ナリト認メラルルトキ

二　當該會社ノ資金計畫ニ照シ自己資金ノ蓄積カ必要ナリト認メラルルトキ

會社ハ前項ノ規定ニ依リ配當率ニ付主務大臣ノ指定ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス當該配當率ヲ超ユル率ニ依リ利益配當ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　合併ニ因リテ設立シタル資本金二十萬圓以上ノ會社又ハ合併後存續スル資本金二十萬圓以上ノ會社ハ合併後最初ノ事業年度ニ付利益配當ヲ爲サントスルトキハ利益配當ノ率カ百分ノ六ヲ超エサル場合ヲ除キ前二條ノ規定ニ拘ラス閣令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ申請ニ基キ主務大臣カ從前

ノ利益配當其ノ他各會社ノ經理ノ實情ヲ參酌シテ指定シタル率ヲ超エサル利益配當ノ率ニ依ルヘシ

第六條　主務大臣ハ會社收益ノ狀況其ノ他經理ノ實情ニ照シ必要アリト認ムルトキハ當該會社ニ對シ法定準備金ノ外特別ノ積立金ノ積立ヲ命シ又ハ當該積立金ノ運用方法ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ積立金ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三章　役員及社員給與

第七條　本章ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル會社ニ之ヲ適用ス

一　資本金二十萬圓以上ノ會社

二　前號ニ規定スルモノヲ除クノ外役員及社員ノ合計數當時三十人以上ノ會社

第八條　本章ニ於テ役員ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一　機關トシテ會社ノ業務ニ從事スル者

二　顧問、嘱託其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハス實與ニ關シ會社カ前號ニ該當スル者ニ準シテ取扱フ者

第九條　本章ニ於テ社員ト稱スルハ船員及賃金統制令第二條ノ勞務者ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一　會社ニ雇傭セラルル者

二　顧問、嘱託其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハス繼續シテ會社ノ業務ニ從事スル者但シ役員タル者ヲ除ク

第十條　本章ニ於テ給與ト稱スルハ報酬、給料、手當、賞與、交際費、機密費其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハス會社カ役員又ハ社員ノ勤務ノ對價トシテ支給スル金錢、物其ノ他ノ利益ヲ謂フ

第十一條　役員ノ給與ヲ分チテ左ノ各號ニ揭クル給與トス

一　報酬（會社カ役員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給スル給與ニシテ經費トシテ經理スルモノヲ謂フ但シ在勤手當其ノ他特定ノ事由ニ依リ特定ノ役員ニ對シ支給スルモノヲ除ク）

二　賞與（會社カ役員ニ對シ定期ニ利益金處分ニ依リ支給スル給與ヲ謂フ）

三　退職金（會社カ退職シタル役員ニ對シ支與スル給與ヲ謂フ）

四　臨時ノ給與（會社カ役員ニ對リ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ）

五　雜給與（前各號ニ揭クル給與ヲ除クノ外會社カ役員ニ對シ支給スル給與ヲ謂フ）

第十二條　會社ハ每事業年度ノ員役報酬ヲ支給セントスル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　支給セントスル役員報酬ノ合計金額カ直前ノ事業年度ニ於テ支給シタル役員報酬ノ合計金額（當該事業年度ノ月數カ直前ノ事業年度ノ月數ト異ル場合ニ於テハ閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額）ヲ超ユルトキ

二　直前ノ事業年度ニ於テ役員報酬ヲ支給セサリシトキ

三　設立後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ

四　合併後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ

五　第七條各號ノ一ニ揭クル會社ニ該當セサリシ會社第七條各號ノ一ニ揭クル會社ト爲リタル後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ

第十三條　會社ハ每事業年度ニ付役員賞與ヲ支給セントスル場合ニ於テ其ノ合計金額ガ左ノ各號ノ金額（百圓未滿ノ端數ハ之ヲ百圓ニ切上ク）ノ中少キ金額ヲ超ユルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　法定賞與額（閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル當該事業年度ノ純益金ニ閣令ノ定ムル割合ヲ乘シテ得タル金額ヲ謂フ以下同シ）

二　前期賞與額（直前ノ事業年度ニ付支給シタル役員賞與ノ合計金額ヲ謂フ但シ當該事業年度ノ月數カ直前ノ事業年度ノ月數ト異ル場合ニ於テハ閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ヲ謂フ以下同シ）

左ノ各號ニ揭クル場合ニ於テハ其ノ定ムル金額ヲ前項第二號ノ金額ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

一　前期賞與額カ法定賞與額ニ達セサルトキハ前期賞與額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額但シ前期賞與額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額カ法定賞與額ニ對シ百分ノ七十ノ割合ニ達セサルトキハ法定賞與額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額

二　直前ノ事業年度ニ付役員賞與ヲ支給セサリシトキ又ハ設立後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ法定賞與額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額

三　合併後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキ又ハ第七條各號ノ一ニ揭クル會社ニ該當セサリシ會社第七條各號ノ一ニ揭クル會社ト爲リタル後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ第一號ノ規定ニ拘ラス法定賞與額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額

第十四條　會社ハ退職シタル役員ニ對シ退職金ヲ支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　閣令ノ定ムル限度ヲ超エサル退職金ヲ支給セントスルトキ

二　閣令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル準則ニ依リ退職金ヲ支給セントスルトキ

第十五條　會社ハ役員ニ對シ臨時ノ給與ヲ支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條　會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スヘキ準則若ハ主務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ若ハ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外役員ニ對シ賞給與ヲ支給スルコトヲ得ス

第十七條　社員ノ給與ヲ分チテ左ノ各號ニ揭クル給與トス

一　基本給料（會社カ社員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給スル給與ノ中基本ト爲ルヘキ固定給ヲ謂フ）

三　手當（基本給料ヲ除クノ外會社カ社員ニ對シ定期ニ若ハ職務ニ關シ一定ノ事實アル場合ニ一定ノ金額、數量若ハ割合ニ依リ支給スル給與又ハ繼續シテ利用セシムル住居其ノ他ノ施設ヲ謂フ）

三　賞與（前二號ニ揭クル給與ヲ除クノ外會社カ社員ニ對シ定期ニ支給スル給與ヲ謂フ）

四　退職金（會社カ退職シタル社員ニ對シ支給スル給與又ハ之ニ相當スル金額ニシテ在職中ノ社員ニ對シ前拂スルモノヲ謂フ）

五　臨時ノ給與（前四號ニ揭クル給與ヲ除クノ外會社カ社員ニ對シ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ）

第十八條　會社ハ閣令ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ基本給料ヲ增加支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條　會社ハ閣令ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ基本給料ヲ增加支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條　會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スヘキ準則若ハ乃務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ若ハ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外社員ニ對シ左ノ各號ニ揭クル手當ヲ支給スルコトヲ得ズ

一　在勤手當、僻地手當ノ其ノ他特殊地域ニ在勤スルニ因リ支給スル手當

二　危險手當其ノ他生命、健康等ニ關シ危險又ハ有害ナル特定ノ勤務ニ從事スルニ因リ支給スル手當

三　居殘手當、宿直手當其ノ他特定ノ追加勤務ニ對シ支給スル手當

四　閣令ヲ以テ定ムル家族手當

五　食事手當又ハ被服手當

六　歩合ニ依リ支給スル手當

七　現物ヲ以テ支給スル手當

八　其ノ他閣令ヲ以テ定ムル手當

第二十一條　會社カ每賞與期間ニ付社員ニ對シ支給スル賞與ノ總額ト前條各號ニ揭クル手當以外ノ手當額該賞與期間中ニ於ケル支給總額トノ合計金額ハ閣令ノ定ムル限度ヲ超ユルコトヲ得ス但シ閣令ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ニ依リ前項ノ限度ヲ超エテ支給スル金額ニ付テハ會社ハ之ヲ經費トシテ經理スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ賞與期間ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スベキ準則若ハ主務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ若ハ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外社員ニ對シ退職金ヲ支給スルコトヲ得ス

第二十三條 會社ハ社員ノ全部若ハ大部分又ハ社員數當時三十人以上ヲ有スル事務所、工場若ハ事業場ニ付其ノ所屬社員ノ全部若ハ大部分ニ對シ期間ヲ同ジクシテ臨時ノ給與ヲ支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 本令施行ノ際本章ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ閣令ノ定ムル所ニ從ヒ本令施行ノ際ニ於ケル役員雜給與、第二十條各號ニ揭クル社員手當及社員退職金ノ準則ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

第七條ノ各號ノ一ニ揭クル會社ニ該當セサリシ會社ニシテ本令施行後第七條各號ノ一ニ揭クル會社ト爲リタルモノハ役員雜給與、第二十條各號ニ揭クル社員手當及社員退職金ノ準則ニ付主務大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第二十五條 會社ハ役員雜給與、第二十條各號ニ揭クル社員手當又ハ社員退職金ノ準則ヲ制定シ又ハ變更セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二十六條 主務大臣ハ役員又ハ社員ノ給與及其ノ支給方法ノ適正ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ役員若ハ社員ノ給與ノ金額若ハ支給方法ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ役員雜給與、第二十條各號ニ揭クル社員手當若ハ社員退職金ノ準則ノ制定、變更若ハ廢止ヲ命スルコトヲ得

第二十七條 會社ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス本章ノ規定ニ依ル制限ヲ免ルル目的ヲ以テ役員又ハ社員ニ對シ給與ヲ支給スルコトヲ得ス

第二十八條 本章ノ規定ハ裁判所カ決定ヲ以テ定メタル報酬ニハ之ヲ適用セス

第四章 經費及責金

第二十九條 會社ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ閣令ノ定ムル所ニ從ヒ每事業年度ニ於ケル左ノ各號ニ揭クル支出（利益金處分ニ依ルモノヲ含ム）ノ豫定額ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

一 機密費、交際費、接待費又ハ廣告宣傳費其ノ他之ト同樣ノ性質ヲ有スル支出

二 寄附金其ノ他之ト同樣ノ性質ヲ有スル支出

三 閣令ヲ以テ定ムル福利施設費

四 前號ニ揭クル福利施設費以外ノ福利施設費其ノ他之ト

同樣ノ性質ヲ有スル支出

五 研究費其ノ他之ト同樣ノ性質ヲ有スル支出

前項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタル會社ハ其ノ報告シタル金額ヲ超エテ當該事業年度ニ於テ前項第一號ニ揭クル支出ヲ爲スコトヲ得ス

第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタル會社ハ其ノ報告シタル金額ヲ超エテ當該事業年度ニ於テ第一項第二號又ハ第四號ニ揭クル支出ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタル會社ハ其ノ報告シタル金額ヲ超エテ當該事業年度ニ於テ第一項第三號又ハ第五號ニ揭クル支出ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ遲滯ナク主務大臣ニ報告スヘシ

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ第一項第一號、第二號、第四號又ハ第五號ニ揭クル支出ノ金額又ハ其ノ經理ノ方法ニ關シ必要ナル制限ヲ爲スコトヲ得

第三十條 主務大臣ハ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五章 經理檢査

第三十一條 主務大臣ハ會社ノ經費ノ支出ヲ適正ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ之ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 主務大臣ハ會社ノ經理上必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ資產ノ償却ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 會社ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ揭クル事項ニ付主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 有價證券ノ取得又ハ處分

二 特許權、鑛業權又ハ漁業權ノ取得又ハ處分

三 資金ノ貸付又ハ借入

主務大臣ハ會社ニ對シ借入金ノ限度ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ指定ヲ受ケタル會社ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ指定ヲ受ケタル限度ヲ超エテ資金ノ借入ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 主務大臣ハ會社ノ經理ヲ適正ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ餘裕資金ノ運用ニ關シ必要ナル制限ヲ爲スコトヲ得

第五章 經理檢査

第三十五條 主務大臣ハ會社ノ資產負債又損益ノ內容、利益金ノ處分其ノ他ノ經理ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ

於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムヘシ

第三十六條　會社ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書及原價計算ニ關スル書類ヲ作成スヘシ前項ノ財產目錄ニ記載スヘキ財產ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ評價スヘシ

會社ハ第一項ノ規定ニ依リ作成スヘキ書類ノ調製ニ必要ナル帳簿ヲ備ヘ整然且明瞭ニ之カ記帳ヲ爲スヘシ

第三十七條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ勘定科目及帳簿組織ヲ指定シ之ニ依ルヘキコトヲ命スルコトヲ得

第三十八條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ヲ指定シテ決算ニ關シ當該官吏ノ監査ヲ受クヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ決算ニ關シ監査ヲ受クヘキ命令ヲ受ケタル會社ハ當該官吏ノ監査ヲ受ケタルコトノ證明ヲ受ケタル後ニ非サレハ利益金ノ處又ヲ爲スコトヲ得ス

第六章　雜　則

第三十九條　第三條乃至第六條、第十二條乃至第十五條、第十九條、第二十一條、第二十三條乃至第二十六條、第二十九條乃至第三十二條、第三十四條、第三十七條又ハ前條ノ規定ニ依ル許可若ハ承認ニ關スル處分又ハ指定、命令若ハ制限ニシテ事案ノ重要ナルモノハ會社經理審査委員會ノ議ヲ經ヘシ

會社經理審査委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十條　第三十三條ノ規程ニ依ル許可ニ關スル處分又ハ指定ニシテ事案ノ重要ナルモノハ臨時資金調整法第十二條ノ臨時資金審査委員會ノ議ヲ經ヘシ

第四十一條　本令ニ於テ主務大臣トアルハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外總テ大藏大臣トス

一　特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニ在リテハ當該會社ヲ監督スル所管大臣

二　取引所法、瓦斯事業法、保險業法、自動車製造事業法、工作機械製造事業法、製鐵事業法、輕金屬製造事業法、石油業法、人造石油製造事業法、大正十五年勅令第九號又ハ產金法第三條ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ商工大臣

三　電氣事業法、航空機製造事業法又ハ造船事業法ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ遞信大臣但シ造船事業法施行令第二十九條ノ規定ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ遞信大臣及商工大臣

四　地方鐵道法、軌道法又ハ自動車交通事業法ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ鐵道大臣

五　會社ノ營ム事業ノ一部ニ付第二號、第三號又ハ第四號ニ揭クル法令ノ適用ヲ受クル會社ニ在リテハ當該所管大

六　第三十三條ノ規定ニ依ル許可ニ關スル處分又ハ指定ニ付テハ前各號ノ規定ニ拘ラス大藏大臣及商工大臣

大藏大臣ハ第三條乃至第六條、第十二條乃至第十五條、第十九條、第二十一條、第二十三條乃至第二十六條、第二十九條乃至第三十二條、第三十四條、第三十七條又ハ前條ノ規定ニ依ル許可若ハ承認ニ關スル處分又ハ指定、命令若ハ制限ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

本令中閣令トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ總督府令、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ廳令トス

第三十九條及第四十條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ之ヲ適用セス

第四十二條　大藏大臣ハ前條第一項第一號乃至第四號ニ揭ケル會社以外ノ會社ニ關スル本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ稅務監督局長又ハ稅務署長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

大藏大臣ハ稅務監督局長若ハ稅務署長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ稅務官吏ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十三條　本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條　本令中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス但シ日本勸業銀行、北海道拓殖銀行、朝鮮銀行、臺灣銀行及朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ營業所ヲ有シ銀行法又ハ貯蓄銀行法ノ適用ヲ受クル銀行竝ニ南洋拓殖株式會社ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

本令中閣令トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ總督府令、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ廳令トス

第三十九條及第四十條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ之ヲ適用セス

第四十五條　朝鮮總督ハ本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ朝鮮總督府稅務監督局長又ハ朝鮮總督府稅務署長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

朝鮮總督ハ朝鮮總督府稅務監督局長若ハ朝鮮總督府稅務署長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ朝鮮總督府稅務監督局長、朝鮮總督府稅務署長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

臺灣總督ノ本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ臺灣總督府知事又ハ臺灣總督府廳長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

臺灣總督府州知事若ハ臺灣總督府廳長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ臺灣總督府州知事、臺灣總督府廳長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

臺灣總督府州知事ハ前項ノ規定ニ依リ委任セラレタル事務

ヲ稅務出張所ヲシテ分掌セシムルコトヲ得

附　則

第四十六條　本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條　會社利益當配及資金融通令及昭和十四年勅令第百九十四號ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ及其ノ效力ヲ有ス

朝鮮、臺灣、樺太南洋群島ニ在リテハ會社利益配當及資金融通令ハ前項ノ規定ニ拘ラス昭和十五年十一月四日迄、會社職員給與臨時措置令ハ同令附則第二項ノ規定ニ拘ラス昭和十五年十一月四日迄、仍其ノ效力ヲ有ス同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第四十八條　會社ノ直前ノ事業年度ノ利益配當カ會社利益配當及資金融通令第二條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケテ基準配當率ヲ超ユル率ニ依リ爲シタルモノニシテ當該利益配當ノ率ノ中主務大臣カ其許可ヲ爲スニ際シ基準配當率ニ算入セサル旨ヲ定メタル部分アルトキハ其ノ部分ヲ除キタル率ヲ以テ第三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做ス

第四十九條　本令施行前合併ヲ爲シタルニ因リ會社利益配當及資金融通令第三條第一項第三號ノ規定ニ依リ基準配當率ニ付主務大臣ノ認可ヲ受ケタル會社カ當該合併後最初ノ事業年度ノ利益配當ヲ本令施行後最初ノ事業年度ノ利益配當及資金融通令第三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做ス

第五十條　資本金二十圓未滿タリシ會社ニシテ本令施行前ノ資本增加ニ因リ資本金二十萬圓以上ト爲リタルニ因リ會社利益配當及資金融通令第三條第一項第四號ノ規定ニ依リ其ノ基準配當率ニ付主務大臣ノ認定ヲ受ケタル會社カ當該資本增加後最初ノ事業年度ノ利益配當ヲ本令施行後爲サントスルトキハ當該基準配當率ヲ以テ第三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做ス

第五十一條　會社利益配當及資本金融通令第四條ノ規定ニ依リ其ノ基準配當率ニ付主務大臣ノ認定ヲ受ケタル會社カ指定後最初ノ事業年度ノ利益配當ヲ本令施行後爲サントスルトキハ其ノ指定ヲ受ケタル基準配當率ヲ以テ第三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做ス

第五十二條　第三條第二項第一號ノ規定ハ第四十九條乃至前條ノ場合ニ於テ主務大臣カ基準配當率ノ認定又ハ指定ヲ爲スニ際シ當該認定又ハ指定後ノ最初ノ利益配當ニ關シ會社利益配當及資金融通令第二十一條第一號ノ規定ヲ適用セザル旨ヲ定メタルトキハ當該利益配當ニ關シテハ之ヲ適用セ

前項ノ規定スル場合ヲ除クノ外第三條第二項第一號及第四號ノ規定ハ第四十八條乃至前條ノ規定ニ依リ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做サレタル率ニ付テモ亦之ヲ適用ス

（參　照）

大正十五年三月六日公布勅令第九號ハ日本國及ソヴイエト社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約關係議定書（乙）ニ基ク利益契約ニ依リ北樺太ニ於テ石油又ハ石炭ノ掘採ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル會社ニ關スル件及昭和十四年四月十二日公布勅令第百九十四號ハ勅務省長官ヲシテ會社利益配當及資金融通令ニ依ル事務ノ一部ヲ掌ラシムルノ件ナリ

銀行等資金運用令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ）第十一條ノ規定ニ依ル銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫、北海道府縣又ハ樺太ヲ區域トスル信用組合聯合會、朝鮮金融組合聯合會、東洋拓殖株式會社、臺灣拓殖株式會社、南洋拓殖株式會社（以下金融機關ト總稱ス）及有價證券引受業法ノ證券引受會社（以下證券引受會社ト稱ス）竝ニ金融機關又ハ證券引受會社ニ非ズシテコール資金ノ貸借若ハ其ノ媒介又ハ手形ノ賣買若ハ其ノ媒介ヲ爲スコトヲ業トスル者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ（以下ピルピローカート稱ス）ニ對スル資本ノ運用ニ關スル命令ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　主務大臣資金ノ運用ヲ適當ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ金融機關ニ對シ資金ノ運用ニ關スル計畫ノ變更ヲ命シ又ハ命令ノ定ムル所ニ依リ資金ノ運用方法ヲ指定スルコトヲ得

第三條　金融機關事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル資金以外ノ資金ニシテ命令ノ定ムルモノノ貸付ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ此等ノ資金ニ付手形ノ割引ヲ爲シ又ハ當座貸越ノ契約ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第四條　證券引受會社又ハプルプローカー命令ノ定ムル資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ此等ノ資金ニ付手形ノ割引ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第五條　第三條及前條ノ規定ニ依ル計可ニ關スル處分ニシテ事案ノ重要ナルモノニ付テハ臨時資金調整法第十二條ノ臨時資金審查委員會ノ議ヲ經ヘシ

第六條　主務大臣第三條及第四條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ資金ノ貸付若ハ手形ノ割引ヲ受ケ又ハ當座貸越ノ契

約ヲ爲サントスル者ヨリ必要ナル事項ニ關スル報告ヲ徵スルコトヲ得

第七條　大藏大臣生產力擴充資金其ノ他時局ニ緊要ナル資金ノ給供ヲ圓滑ナラシムル爲必要ト認ムルトキハ銀行ニ對シ資金ノ融通又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ヲ命スルコトヲ得

大藏大臣前項ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ資金融通審查委員會ノ議ヲ經ヘシ

資金融通審查委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　政府ハ前條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ依リ配行カ損失ヲ受ケタルトキハ銀行ニ對シ通常生スヘキ損失ヲ補償スヘキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ交付スルコト得

前項ノ損失ヲ決定スル基準其ノ他損失補償ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第九條　前條第一項ノ規定ニ依リ政府カ銀行ニ對シ支拂フヘキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ交付スルコト得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條　大藏大臣ハ銀行カ第七條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ依リ資金ノ融通ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ融通ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ融通ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ資金ノ融通ヲ受ケタル者ヨリ其ノ業務ニ關スル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ業務ノ狀況若ハ帳簿書類他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ檢查セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第十一條　本令ニ於テ主務大臣トアルハ銀行、信託會社、證券引受會社及ビルブローカニニ付テハ大藏大臣、保險會社ニ付テハ商工大臣、商工組合中央金庫ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、產業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣、東洋拓殖株式會社、臺灣拓殖株式會社及南洋拓殖株式會社ニ付テハ拓務大臣トス

商工大臣保險會社ニ對シ又ハ拓務大臣東洋拓殖株式會社、臺灣拓殖株式會社若ハ南洋拓殖株式會社ニ對シ第二條ノ命令ハ指定又ハ第三條ノ許可ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣ニ協議スヘシ

第十二條　第一條、第三條、第四條及第六條中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官トス

第二條中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣又樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル金融機關ニ付テハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官トス但シ朝鮮銀行、臺灣銀行及臺灣又ハ樺太ニ營業所ヲ有シ銀行法又ハ貯蓄銀行法ノ適用ヲ受クル銀行ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條、第八條及第十條中大藏大臣トアルハ朝鮮ニ本店ヲ有スル銀行ニ付テハ朝鮮總督トス但シ朝鮮銀行ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條ノ規定ハ朝鮮、臺灣及樺太ニ在リテハ之ヲ適用セス

第七條第二項ノ規定ハ第三項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

朝鮮總督第七條第一項ノ命令ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣ニ協議スヘシ

大藏大臣前項ノ協議ヲ受ケタルトキハ其ノ協議ヲ受ケタル事項ニ付資金融通審查委員會ノ議ヲ經ヘシ

朝鮮總督第八條第二項ノ規定ニ依リ損失ヲ決定スル基準其ノ他損失補償ニ關シ必要ナル事項ヲ定メントスルトキハ大藏大臣ニ協議スヘシ

附　則

第十三條　本令ハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ除キ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

第三條乃至第六條ノ規定ハ昭和十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　會社利益配當及資金融通令第十二條第一項ノ規定ニ依ル日本興業銀行ニ對スル資金ノ融通又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令及同行ノ爲シタル資金ノ融通又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ハ本令第七條第一項ノ規定ニ依リ爲シタルモノト看做シ同令第十三條第二項ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ定メタル損失ヲ決定スル基準其ノ他損失補償ニ關シ必要ナル事項ハ日本興業銀行ニ付本令第八條第二項ノ規定ニ依リ定メタルモノト看做ス

會社統制令施行規則

第一章　利益配當及積立金

第一條　會社經理統制令（以下單ニ令ト稱ス）第三條第一項及第二項ノ自己資本ハ當該事業年度中ニ於ケル左ノ各號ニ揭クル金額ノ日割平均額ノ合計金額ヨリ繰越缺損金額ノ日割平均額ヲ控除シタル金額トス但シ當該決算確定前課稅ノ決定ヲ受ケタル最終ノ事業年度末ニ於ケル固定資產償却ノ累計金額中課稅上損金ニ算入セラレサリシ金額ニ付稅務署長ノ證明ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ之ヲ當該事業年度ノ自己資本ニ加算スルコトヲ得

一　拂込資本金額

二　積立金其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハス會社カ各事業年度ノ利益金額中利益金處分ニ依リ留保シタル金額但シ退職積立金及退職手當法ニ依リ積立テタル退職手當積立金及稅金引當金ヲ除ク

三　前號ニ該當スルモノヲ除クノ外額面以上ノ價額ヲ以テ

株式ヲ發行シタル場合ニ於テ其ノ額面ヲ超ユル金額中積立テタル金額

四　第二號ニ該當スルモノヲ除クノ外合併ニ因リ生シタル差益金又ハ資本減少ニ因リ生シタル差益金中積立テタル金額

五　第二號ニ該當スルモノヲ除クノ外主務大臣ノ命令ニ依リ積立テタル金額

主務大臣カ引當金トシテ必要ナルモノト認定シタル金額又ハ償却ノ不足、評價ノ不適正其ノ他ノ事由ニ因リ會社資產ニ缺陷アルモノト認定シタル金額ハ之ヲ前項ノ金額ヨリ控除スルモノトス

第二條　令第三條第一項ノ規定ニ依リ利益配當ヲ爲スニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第一號樣式ニ依ル許可申請書ニ當該事業年度ノ貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第三條　第三條令第五條ノ規定ニ依リ合併後最初ノ事業年度ノ利益配當ノ率ニ付主務大臣ノ指定ヲ受ケントスル會社ハ別表第二號樣式ニ依ル指定申請書ニ最近ニ於ケル總勘定元帳殘高表竝ニ合併前ノ各會社ノ合併前三事業年度ノ貸借對照表、損益計算書及利益金處分ニ關スル書類ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第四條　令第六條第二項ノ規定ニ依リ積立金ノ使用ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第三號樣式ニ依ル許可申請書ニ最近ニ於ケル總勘定元帳殘高表ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第三章　役員及社員給與令

第五條　第十二條ニ於ケル當該事業年度ノ月數カ直前ノ事業年度ノ月數ト異ル場合ニ於ケル金額ハ直前ノ事業年度ニ於テ支給シタル役員報酬ノ合計金額ヲ直前ノ事業年度ノ月數ヲ以テ除シテ得タル金額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘シテ得タル金額トス

前項ノ月數ハ暦ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

第六條　令第十二條ノ規定ニ依リ役員報酬ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第四號樣式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第七條　令第十三條第一項第一號ノ當該事業年度ノ純益金ハ當該事業年度ノ會社ノ決算上純益金ヨリ純損金ヲ控除シテ得タル金額トス

左ノ各號ニ揭ケル金額ハ之ヲ前項ノ純益金ニ算入セサルモノトス

一　直前ノ事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ積立金ヨリ戻入レタル金額

二　額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於テ其ノ額面ヲ超ユル金額

三　合併ニ因リ生シタル差益金

四　資本減少ニ因リ生シタル差益金

左ノ各號ニ揭ケル金額ハ之ヲ第一項ノ純損金ニ算入セサルモノトス

一　直前ノ事業年度ヨリ繰越シタル損金

二　會社カ當該事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スヘキ法人稅、臨時利得稅、第一種所得稅、第一種所得稅附加稅及法人稅法施行規則第二十九條ニ規定スル租稅

當該事業年度ノ利益金處分ニ基キ資產償却ニ充テタル金額ハ之ヲ第一項ノ純損金ニ算入ス

第八條　令第十三條第一項第一號ノ割合ハ會社ノ當該事業年度ニ於ケル拂込資本金額ノ日割平均額ニ應シ左ニ揭クル割合トス

拂込資本金二十萬圓以下ナルトキ	百分ノ一〇・四五
拂込資本金二十萬圓ヲ超エ三十萬圓以下ナルトキ	百分ノ　九・三五
拂込資本金三十萬圓ヲ超エ五十萬圓以下ナルトキ	百分ノ　八・一〇
拂込資本金五十萬圓ヲ超エ七十萬圓以下ナルトキ	百分ノ　七・四〇
拂込資本金七十萬圓ヲ超エ百萬圓以下ナルトキ	百分ノ　六・七〇
拂込資本金百萬圓ヲ超エ百五十萬圓以下ナルトキ	百分ノ　六・〇〇
拂込資本金百五十萬圓ヲ超エ二百萬圓以下ナルトキ	百分ノ　五・五〇
拂込資本金二百萬圓ヲ超エ三百萬圓以下ナルトキ	百分ノ　四・九五
拂込資本金三百萬圓ヲ超エ四百萬圓以下ナルトキ	百分ノ　四・五五
拂込資本金四百萬圓ヲ超エ五百萬圓以下ナルトキ	百分ノ　四・三〇
拂込資本金五百萬圓ヲ超エ七百萬圓以下ナルトキ	百分ノ　三・九〇
拂込資本金七百萬圓ヲ超エ千萬圓以下ナルトキ	百分ノ　三・五五
拂込資本金千萬圓ヲ超エ千五百萬圓以下ナルトキ	百分ノ　三・一五
拂込資本金千五百萬圓ヲ超エ二千萬圓以下ナルトキ	百分ノ　二・九〇
拂込資本金二千萬圓ヲ超エ二千五百萬圓以下ナルトキ	百分ノ　二・七五
拂込資本金二千五百萬圓ヲ超エ三千萬圓以下ナルトキ	

拂込資本金三千萬圓ヲ超エ四千萬圓以下ナルトキ	百分ノ	二六・〇
拂込資本金四千萬圓ヲ超エ五千萬圓以下ナルトキ	百分ノ	二・四〇
拂込資本金五千萬圓ヲ超エ七千萬圓以下ナルトキ	百分ノ	二・二五
拂込資本金七千萬圓ヲ超エ一億圓以下ナルトキ	百分ノ	二・〇五
拂込資本金一億圓ヲ超エ一億五千萬圓以下ナルトキ	百分ノ	一・八五
拂込資本金一億五千萬圓ヲ超エ二億圓以下ナルトキ	百分ノ	一・六五
拂込資本金ヲ二億圓ヲ超エ二億五千萬圓以下ナルトキ	百分ノ	一・五五
拂込資本金二億五千萬圓ヲ超エ三億圓以下ナルトキ	百分ノ	一・四五
拂込資本金三億圓ヲ超エ四億圓以下ナルトキ	百分ノ	一・四〇
拂込資本金四億圓ヲ超エ五億圓以下ナルトキ	百分ノ	一・二五
拂込資本金五億圓ヲ超ユルトキ	百分ノ	一・二〇
	百分ノ	一・〇〇

第九條　令第十三條第一項第二號ニ於ケル當該事業年度ノ月數カ直前ノ事業年度ノ月數ト異ル場合ニ於ケル金額ハ直前ノ事業年度ニ付支給シタル役員賞與ノ合計金額ヲ直前ノ事業年度ノ月數ヲ以テ除シテ得タル金額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘シテ得タル金額トス

第五條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十條　令第十三條第一項ノ規定ニ依リ役員賞與ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第五號樣式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第十一條　令第十四條第一號ノ限度ハ會社カ退職金ヲ支給セントスル當該退職役員ニ對シ其ノ退職前一年間ニ支給シタル報酬金額ニ當該退職役員ノ在職年數（會社カ當該退職役員ニ對シ退職金ヲ支給シタルコトアル場合ハ其ノ退職金支給後ニ於ケル在職年數）ノ二分ノ一ヲ乘シテ得タル金額トス

前項ノ年數ハ月ニ從ヒ之ヲ計算シ一年未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一年トス

第十二條　令第十四條第二號ノ規定ニ依リ役員ノ退職金ノ準則ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第六號樣式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル役員ノ退職金ノ準則ヲ變更セントスル會社ニ付亦同シ

第十三條　令第十四條ノ規定ニ依リ退職シタル役員ニ對スル退職金ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第七號樣式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第十四條　令第十五條ノ規定ニ依リ役員ニ對スル臨時ノ給與ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第八號樣式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第十五條　令第十八條ノ限度ハ別表ニ揭クル金額ヲ月額（年俸者ニ付テハ年俸額ノ十二分ノ一、週給者ニ付テハ週給額ノ七分ノ三十、月給者ニ付テハ日給額ノ三十倍トス以下同シ）トシタル金額トス但シ左ノ各號ニ揭クル場合ニ於テハ各其ノ定ムル金額トス

一　特別ノ經歷若ハ技能又ハ特別ノ學歷ヲ有スル者ニ付其ノ初任基本給料ノ準則ニ關シ主務大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ金額

二　轉職者（前職ニ於テ役員報酬、社員基本給料又ハ之ト同樣ノ性質ヲ有スル給與ヲ受ケ居リタル者ヲ謂フ）ニ付前職ニ於テ最後ニ受ケタル役員報酬、社員基本給料又ハ之ト同樣ノ性質ヲ有スル給與ノ月額ノ百分ノ百十ニ相當スル金額カ別表ニ揭グル金額ヲ超ユルトキハ其ノ金額但シ前號ニ該當スル場合ヲ除ク

第十六條　前條第一號ノ規定ニ依リ特別ノ經歷若ハ技能又ハ特別ノ學歷ヲ有スル者ノ初任基本給料ノ準則ニ付キ主務大臣ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ別表第九號樣式ニ依ル承認ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第十七條　令第十九條ノ限度ハ各昇給期ニ於ケル社員ノ基本給料月額ノ昇給額ノ總額ニ付各昇給該當者ノ當該昇給直前ニ於ケル基本給料月額ニ各昇給該當者ノ直前ノ昇給日（初メテ昇給スルモノニ付テハ採用ノ日）後當該昇給日迄ニ經過シタル月數ノ十二分ノ一ヲ乘シタル得タル金額ノ合計金額ニ平均昇給率百分ノ七ヲ乘シテ得タル金額トス

前項ノ月數ハ勝ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ十五日ヲ超ユルトキハ之ヲ一月トシ十五日以下ナルトキハ之ヲ切捨ツ

第十八條　令第十九條ノ規定ニ依リ社員ノ基本給料ノ增加支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十號樣式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第十九條　令第二十條第四號ノ家族手當ハ基本給料月額百圓以下ノ者ニ對シ其ノ扶養家族一人ニ付二圓ノ割合ニ依リ計算シタル金額（其ノ金額カ十圓ヲ超ユルトキハ十圓）ヲ超エサル金額ニ依リ支給スルモノニ限ル

前項ノ扶養家族ハ左ニ揭クル者ニシテ主トシテ當該社員ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ヲ謂フ

一　配偶者（屆出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同樣ノ事情ニ在ル者ヲ含ム）

二　滿六十歲以上ノ父母ニシテ本人ト同一戶籍內ニ在ルモノ

三　滿十八歲未滿ノ子ニシテ本人ト同一戶籍內ニ在ル者
四　不具廢疾者ニシテ本人ト同一ノ戶籍內ニ在ルモノ

第二十條　令第二十條第八號ノ手當ハ左ノ各號ニ揭クル手當トス

一　傷病手當
二　休職者ニ對スル手當
三　應召者又ハ入營者ニ對スル手當
四　集金手當、出納手當、出札手當等金錢取扱ニ對スル手當
五　特殊地域通勤手當
六　交通業ニ從事スル社員ニ對スル無事故手當又ハ乘務手當
七　電力供給業又ハ瓦斯供給業ニ從事スル社員ニ對スル電力又ハ瓦斯ノ盜用防止手當
八　保險料ノ補給
九　繼續シテ利用セシムル住居其ノ他ノ施設又ハ便益
十　其ノ他前各號ニ準スルモノ

第二十一條　令第二十一項ノ限度ハ會社カ當該賞與期間ニ於テ社員ニ支給シタル基本給料ノ合計金額ノ四分ノ三ニ相當スル金額トス

第二十二條　令第二十一條第一項ノ賞與期間ハ各事業年度ノ期間トス但シ會社カ之ト異ル期間ヲ定メテ主務大臣ニ屆出テタルトキハ其ノ期間ニ依ル

第二十三條　前條但書ノ屆出ハ本令施行ノ際令三章ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ニ在リテハ本令施行後三十月以內ニ、其ノ他ノ會社ニ在リテハ令三章ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル後三十日以內ニ別表第十一號樣式ニ依ル屆書ヲ主務大臣ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

會社ハ前條ノ賞與期間ヲ變更セントスルトキハ別表第十一號樣式ニ依ル屆書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第二十四條　令第二十一條第一項ノ但書ノ場合ハ左ノ各號ニ揭クル場合トス

一　當該賞與及手當ノ合計金額中令二十一條第一項ノ限度ヲ超ユル部分ヲ左ノ方法ニ依リ支給スルトキ但シ其ノ超過金額ハ當該期間中ニ於ケル基本給料ノ支給總額ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

(甲)　國債證券又ハ貯蓄債券ヲ以テ支給シ當該會社ニ於テ當該國債證券又ハ貯蓄債券ヲ當該社員退職ニ至ル迄保管スルモノトス

(乙)　郵便貯金ト爲サシメ當該會社ニ於テ當該郵便貯金ノ通帳ヲ當該社員退職ニ至ル迄保管スルモノ

(丙)　前二號ニ規定スルモノノ外主務大臣ノ承認ヲ受ケタル方法ニ依ルトキ

二　主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ

前項第一號(丙)ノ規定ニ依リ主務大臣ノ承認ヲ受ケントスル會社ハ別表第十二號樣式ニ依ル承認申請書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第二十五條　前條第一項第二號ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十三號ノ樣式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提定スヘシ

第二十六條　令二十一條第二項但書ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケントスルハ會社ハ別表第十四號樣式ニ依ル許可ヲ申請書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第二十七條　令第二十三條ノ規定ニ依ル社員ニ對スル臨時ノ給與ノ支給ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第十五號樣式ニ依リ許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第二十八條　令第二十四條第一項ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ハ本令施行後三十日以內ニ別表第十六號樣式、第十七號樣式又ハ十八號樣式又ハ第十八號樣式ニ依ル役員雜給與、社員手當又ハ社員退職金ノ準則ノ報告書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第二十九條　令第二十四條第二項ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ハ別表第十六號樣式、第十七號樣式又ハ第十八號樣式ニ依ル役員雜給與、社員手當又ハ社員退職金ノ準則ノ承認申請書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第三十條　令第二十五條ノ規定ニ依リ役員雜給與、社員手當又ハ社員退職金ノ準則ノ制定又ハ變更ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ期間ニ依ル

第三章　經費及資金

第三十一條　令第二十九條第一項第三號ノ福利施設費ハ左ノ各號ニ揭クル支出トス

一　法令ニ定アル施設ニ關スル支出
二　保健衛生施設ニ關スル支出

前項各號ニ揭クル施設ノ範圍ハ內閣總理大臣之ヲ定ム

第三十二條　資本金百萬圓以上ノ會社（特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ヲ除ク）ハ令第二十九條第一項ノ規定ニ依リ每事業年度開始後三十日以內ニ別表第十九號樣式ニ依リ同項各號ニ揭クル支出ノ豫定額ノ報告書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ但シ本令施行ノ際其ノ期間ヲ一部ヲ經過セル事業年度ニ關五ル報告書ハ本令施行後三十日以內ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ報告ヲ爲シタル後令第二十九條第一項第三號ニ揭クル支出ノ豫定額ニ變更ヲ生シタル會社カ其ノ變更シタル豫定額ヲ別表第二十號樣式又ハ第二十一號樣式ニ依リ主務大臣ニ報告シタルトキハ其ノ金額ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ報告シタル金額ト看做ス

第三十三條　令第二十九條第三項ノ規定ニ依リ同條第一項第

二號又ハ第四號ニ揭クル支出ヲ爲スニ付主務大臣ノ認可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十二號樣式又ハ第二十三號樣式ニ依ル許可申請書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第三十四條 第三十二條ノ規定ニ依リ報告シタル金額ヲ超エテ第二十九條第一項第三號ニ揭クル支出ヲ爲シタル會社ハ支出後十日以內ニ別表第二十號樣式ニ依ル報告書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第三十二條ノ規定ニ依リ報告シタル金額ヲ超エテ令第二十九條第一項第五號ニ揭クル支出ヲ爲シタル會社ハ支出後十日以內ニ別表第二十一號樣式ニ依ル報告書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第三十五條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ式ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ令第三十三條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 額面總額五萬圓以上ノ外國ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ取得シ又ハ處分セントスルトキ

二 株數二萬株以上ノ株式ヲ取得シ又ハ處分セントセルトキ

三 一會社ノ總株數ノ三分ノ一以上ニ相當スル株式ヲ取得セントスルトキ

四 株式ノ取得ニ因リ會社ノ現ニ所有スル株式ト合シテ一會社ノ株數ノ三分ノ一以上ニ相當スル株式ヲ所有スルニ至ルヘキトキ

五 會社ノ總株數ノ三分ノ一以上ニ相當スル株式ヲ所有スル場合ニ於テ當該株式ノ處分ニ因リ會社ノ所有スル株數カ當該會社ノ總株數ノ三分ノ一以下トナルヘキトキ前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

一 特別ノ法令ニ依リ設立セラルル會社ノ株式ノ引受ヲ爲サントスルトキ

二 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免可ヲ受ケタル會社ノ發起人トシテ株式ノ引受ヲ爲ストキ

三 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ資金增加ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受ケタル會社ノ株式ヲ所有スル場合ニ於テ當該資本增加ニ依ル株式ノ割當ヲ受ケタルトキ

四 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ合併ノ許可ヲ受ケタル會社ノ株式ヲ所有スル場合ニ於テ當該合併ニ因リ合併ニ因リテ設立シタル會社又ハ合併後存續スル會社ノ株式ノ割當ヲ受ケタルトキ

五 合併ニ因リ自己ノ株式ヲ取得スルトキ

六 株式ノ消却ヲ爲ス爲自己ノ株式ヲ取得スルトキ

七 債權ノ實行ニ因リ會社カ當該債權ノ擔保タル株式ヲ取得スルトキ

八 株式ノ取得又ハ處分ニ付特別ノ法令ニ依リ行政官廳ノ認可、許可若ハ承認ヲ受ケ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ株式ヲ取得シ又ハ處分スルトキ

九 清算中ノ會社カ株式ヲ處分スルトキ

會社ハ其ノ總數ノ半數以上ヲ所有スル株主タル他ノ會社ノ株式ヲ取得セントスルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第一項及前項ノ規定ハ左ノ各號ニ揭クル會社ニ付テハ之ヲ適用セス

一 銀行

二 信託會社

三 保險會社

四 無盡會社

五 有價證券引受業法第一條ノ規定ノ適用ヲ受クル會社

六 有價證券業取締法第一條ノ規定ノ適用ヲ受クル會社

七 有價證券ノ賣買取引ヲ業務トスル取引所

八 有價證券ノ賣買取引ヲ業務トスル取引所ノ會員又ハ取引員タル會社

九 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社

第三十六條 前條ノ規定ニ依リ株式ノ取得又ハ處分ニ付許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二九四號樣式ニ依ル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スヘシ

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

一 定款竝ニ最終ノ貸借對照表損益計算書

二 最近ニ於ケル資產及負債ニ關スル試算表

三 會社ノ所有スル有價證券ノ種類、數量及價額ニ關スル明細書

第三十七條 資本金二十萬圓以上ノ會社ハ特許權、鑛業權又ハ漁業權（以下無體財產權ト總稱ス）ヲ取得シ又ハ處分セントスルトキハ令三十三條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ當該スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 取得シ又ハ處分セントスル無體財產權ノ價額カ一件五萬圓未滿ナルトキ

二 臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ會社ノ設立、資本增加又ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ當該拂込株金、出資金又ハ現物出資ニ依リ無體財產權ヲ取得スルトキ

三 社債收入金ニ依リ無體財產權ヲ取得スルトキ

四 行政官廳ノ許可、許可若ハ免許ヲ受ケ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ無體財產權ヲ取得シ又ハ處分スルトキ

五 行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル

場合ニ於テ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付必要ナル無體財産權ヲ取得スルトキ

六　清算中ノ會社カ無體財産權ヲ處分スルトキ

前項ノ規定ハ特別法令ニ依リ設立セラレタル會社ニ付テハ之ヲ適用セス

第三十八條　前條ノ規定ニ依リ無體財産權ノ取得又ハ處分ニ付許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十五號樣式ニ依ル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ本店ヲ經テ主務大臣ニ提出スヘシ

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

二　最近ニ於ケル資產及負債ニ關スル試算表

三　無體財産權ノ取得ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第三十九條　令第三十三條第三項ノ規定ニ依リ資金ノ借入ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケントスル會社ハ別表第二十六條樣式ニ依ル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スヘシ

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

一　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

二　最近ニ於ケル資產及負債ニ關スル試算表

三　資金ノ借入ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

四　會社ノ現在ノ借入金ノ借入先、種類、金額、使途其ノ他ニ關スル明細書

第四章　諸　報　告

第四十條　資本金二十萬圓以上ノ會社又ハ資本金二十萬圓未滿ノ相互會社ハ本但施行後十五日以內ニ別表第二十七號樣式ニ依ル會社概況報告書ヲ主務大臣ハ提出スヘシ

前項ニ於テ本令施行後十五日以內トアルハ本令施行後設立セラレタル會社、又ハ本令施行後合併ニ因リ設立セラレタル會社又ハ本令施行後資本增加若ハ合併ニハ因リ資本金二十萬圓以上トナリタル會社ニ在リテハ設立、合併又ハ資本增加後三十日以內トス

第四十一條　本令施行ノ際現ニ資本金十五萬圓以上二十萬圓未滿ノ會社（相互會社ヲ除ク）ハ本令施行後三十日以內ニ別表第二十八號樣式ニ依ル會社概況報告書ニ最終ノ貸借對照表ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第四十二條　第四十二條資本金二十萬圓以上ノ會社又ハ資本金二十萬圓未滿ノ相互會社ハ本令施行後二十日以內ニ別表第二十九號樣式ニ依リ其ノ旅費規程ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

前項ニ於テ本令施行後三十日以內トアルハ本令施行後設立セラレタル會社、本令施行後合併ニ因リ設立セラレタル會社又ハ本令施行後資本增加若ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上トナリタル會社ニ在リテハ設立、合併又ハ資本增加後三十日以內トス

第四十三條　令第七條各號ノ一ニ揭クル會社ニ該當スル會社ハ每事業年度ノ決算確定後三十日以內ニ別表第三十號樣式ニ依ル會社經理狀況報告書ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

前項ノ會社經理狀況報告書ニハ左ノ各號ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

一　別表第三十一號樣式ニ依ル自己資本計算書

二　別表第三十二號樣式ニ依ル利益配當金竝ニ役員及社員給與計算書

三　別表第三十三號樣式ニ依ル給與狀況調書

四　別表第三十四號樣式ニ依ル資產償却計算書

五　別表第三十五號樣式ニ依ル令第二十九條一項各號ニ揭クル支出ノ種算實績對照表

六　別表第三十六號樣式ニ依ル旅費支出實績調書

七　別表第三十七號樣式ニ依ル經費支出明細書

八　財產目錄、貸借對照表及損益計算書

前項第八號ノ損益計算書ニハ總益金及總損金ヲ損益計算發生ノ原因ニ依リ區分記載スヘシ

以上ノ會社トナリタル會社ニ在リテハ設立、合併又ハ資本增加後三十日以內トス

第五章　雜　則

第四十四條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ヲ指定シ其ノ本令ニ依リ提出スヘキ許可、指定若ハ承認ノ申請書、報告書又ハ屆書及之ニ添附スヘキ書類ニ關シ別段ノ指示ヲ爲スコトヲ得

第四十五條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ヲ指定シ本令ニ定ムルモノノ外必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四十六條　本令（第三十六條、第三十八條及第三十九條ヲ除ク）ニ依リ會社ノ提出スヘキ申請書、報告書又ハ屆書ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外之ヲ三通作成シ會社ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地ヲ所轄スル稅務署ヲ經テ提出スヘシ

一　令第四十一條第一項第一號、第二號、第三號又ハ第四號ニ該當スル會社ハ之ヲ一通作成シ主務大臣ニ直接提出スヘシ令第四十一號第一項第五號ニ該當スル會社ハ之ヲ同號ニ定ムル主務大臣連名宛ニ主務大臣ノ數ニ相當スル通數作成シ同條第一項第二號、第三號又ハ第四號ニ揭クル主務大臣（同條第一項第二號、第三號又ハ第四號ニ揭クル主務大臣ニ以上アルトキハ會社ノ營ム事業ノ中主タルモノニ關スル主務大臣）ニ直接提出スヘシ

二　前號ノ場合ヲ除クノ外銀行、信託會社、無盡會社及有